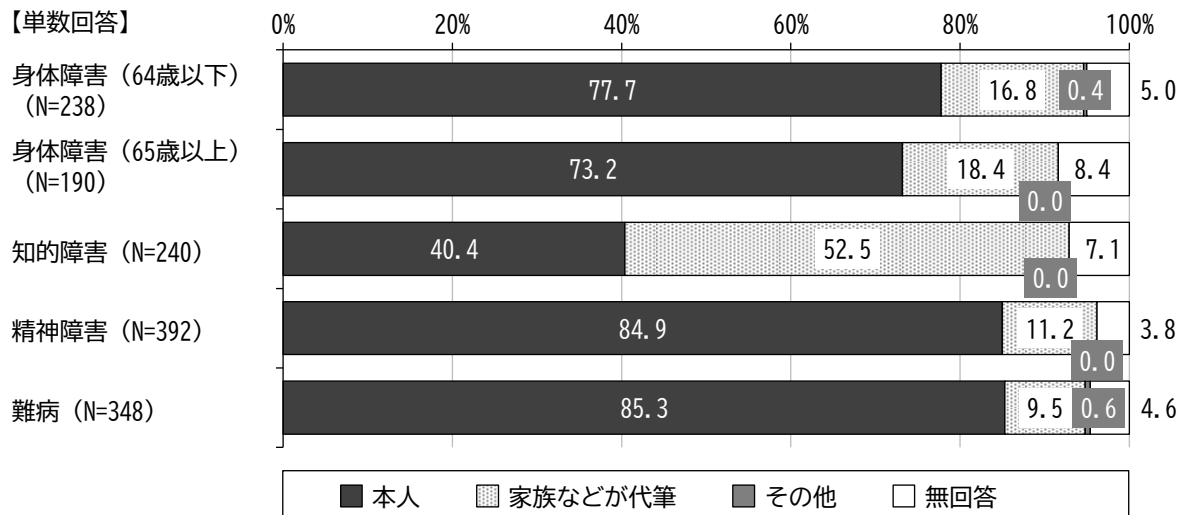


第4章 障害者（18歳以上）調査結果

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

問1 この調査に回答していただく人を教えてください。（1つに○）

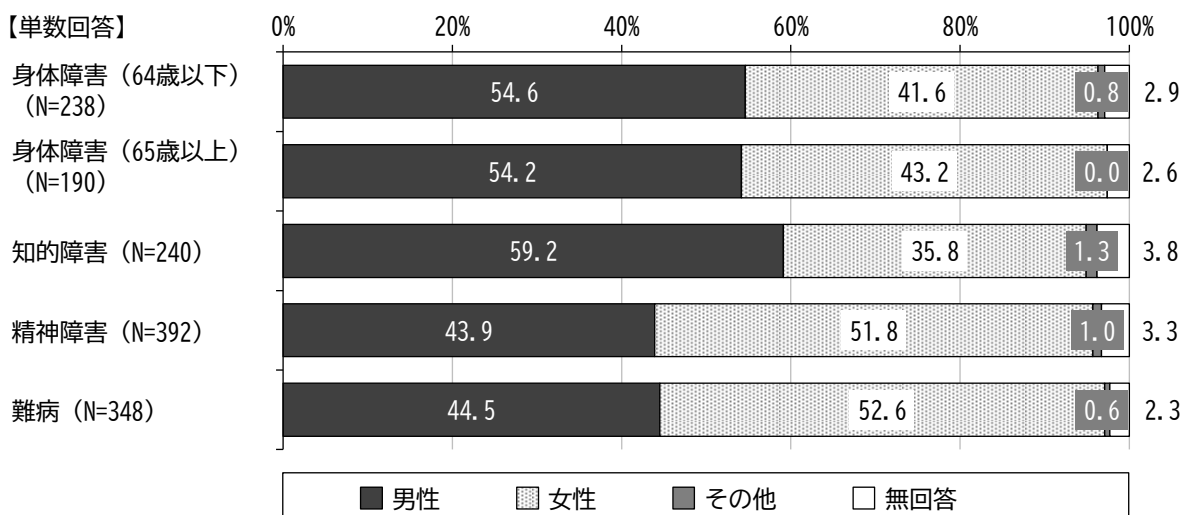
- 回答者は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「本人」が最も多く、それぞれの割合は77.7%、73.2%、84.9%、85.3%となっている。
- 知的障害は「家族などが代筆（52.5%）」が最も多くなっている。



1 あなた（ご本人）についておたずねします

問2 性別を教えてください。（1つに○）

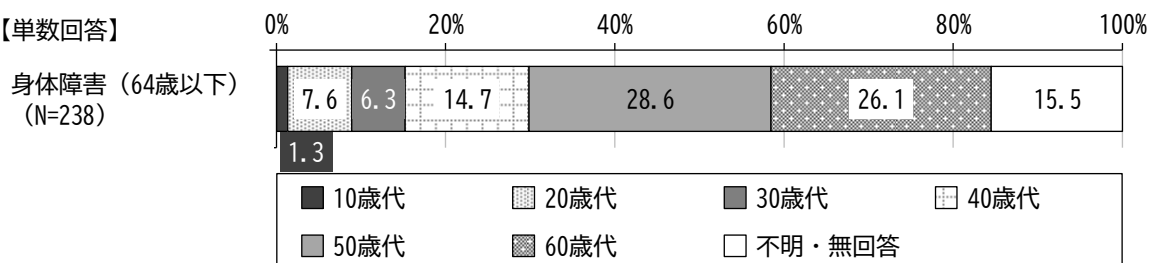
- 性別は、身体障害（64歳以下）は「男性（54.6%）」、「女性（41.6%）」である。
- 身体障害（65歳以上）は「男性（54.2%）」、「女性（43.2%）」である。
- 知的障害は「男性（59.2%）」、「女性（35.8%）」である。
- 精神障害は「男性（43.9%）」、「女性（51.8%）」である。
- 難病は「男性（44.5%）」、「女性（52.6%）」である。



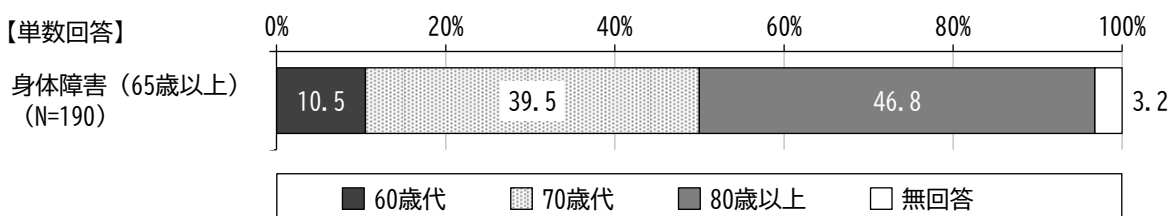
問3 年齢を教えてください。(1つに○)(令和7年10月1日現在)

- 年齢は、身体障害(64歳以下)は「50歳代(28.6%)」が最も多くなっている。
- 身体障害(65歳以上)は「80歳以上(46.8%)」が最も多くなっている。
- 知的障害は「20歳代(37.5%)」, 精神障害は「50歳代(26.0%)」, 難病は「70歳代(24.4%)」が最も多くなっている。

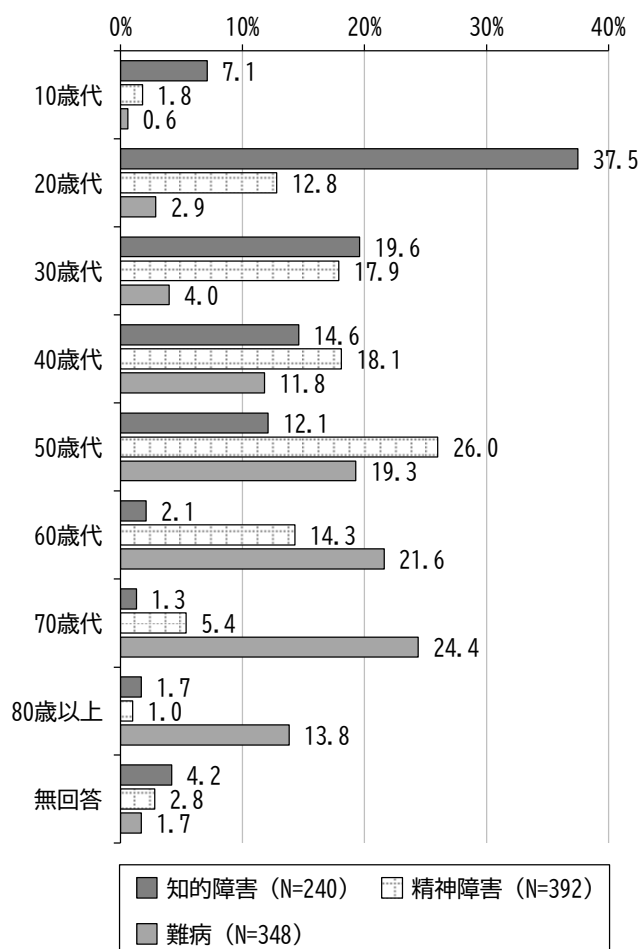
【単数回答】



【単数回答】

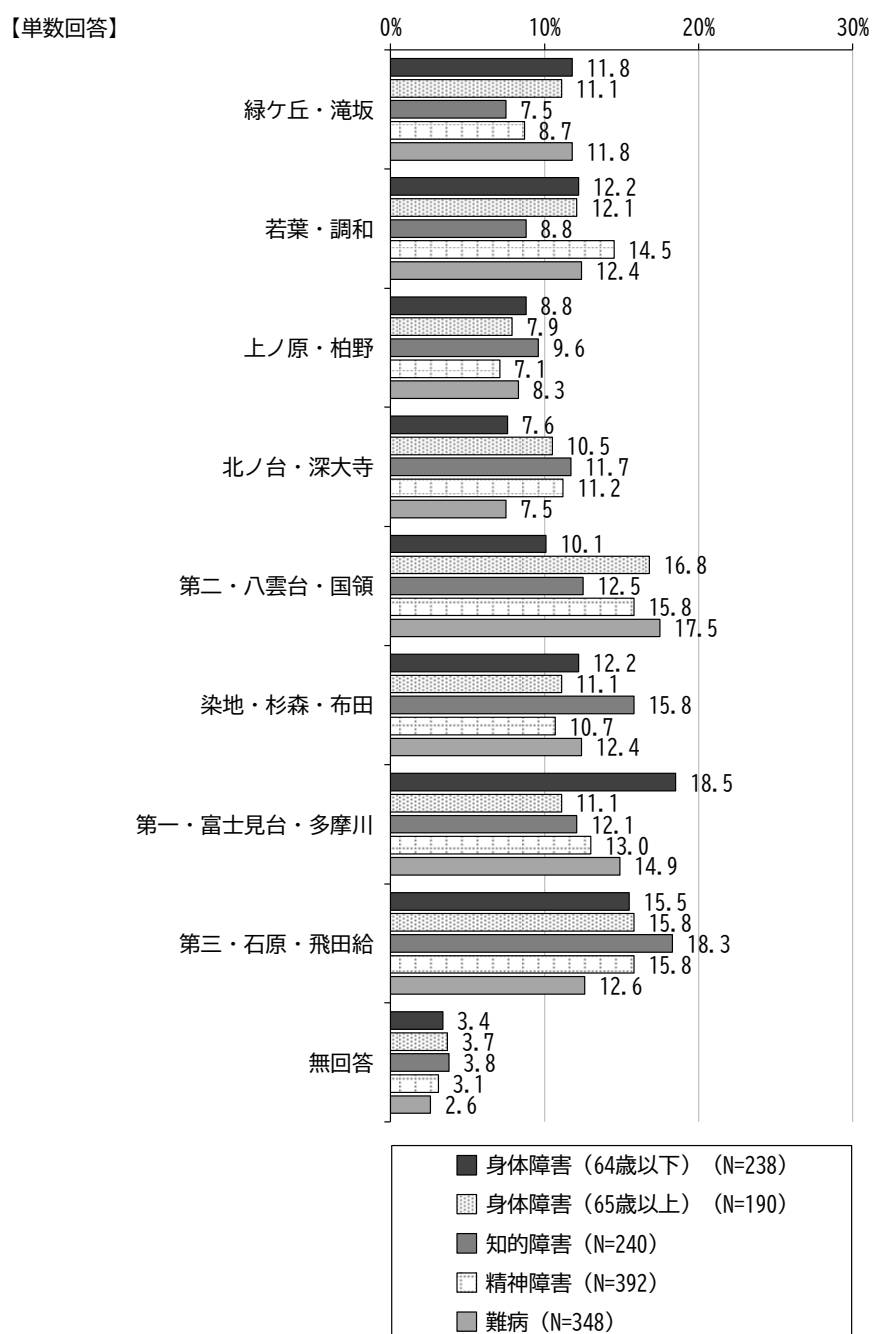


【単数回答】



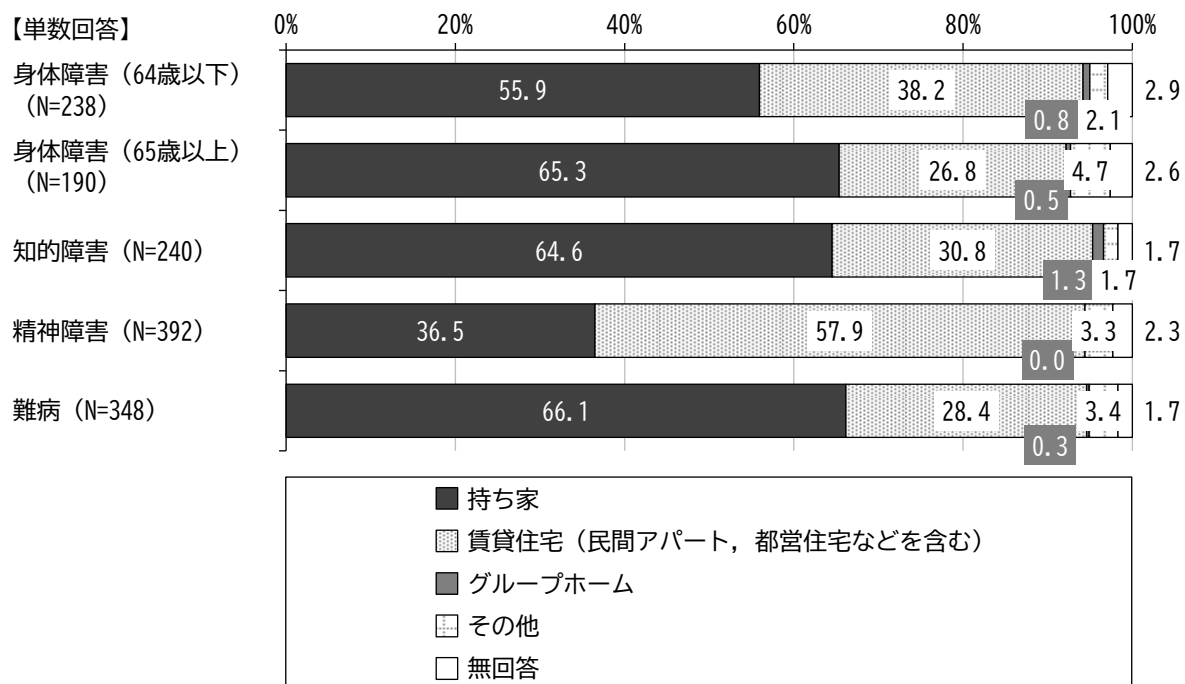
問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域(福祉圏域)は、身体障害(64歳以下)は「第一・富士見台・多摩川(18.5%)」が最も多くなっている。
- 身体障害(65歳以上)、難病は「第二・八雲台・国領」が最も多く、それぞれの割合は16.8%、17.5%となっている。
- 知的障害は「第三・石原・飛田給(18.3%)」が最も多くなっている。
- 精神障害は「第二・八雲台・国領」「第三・石原・飛田給(15.8%)」が同率となっている。



問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

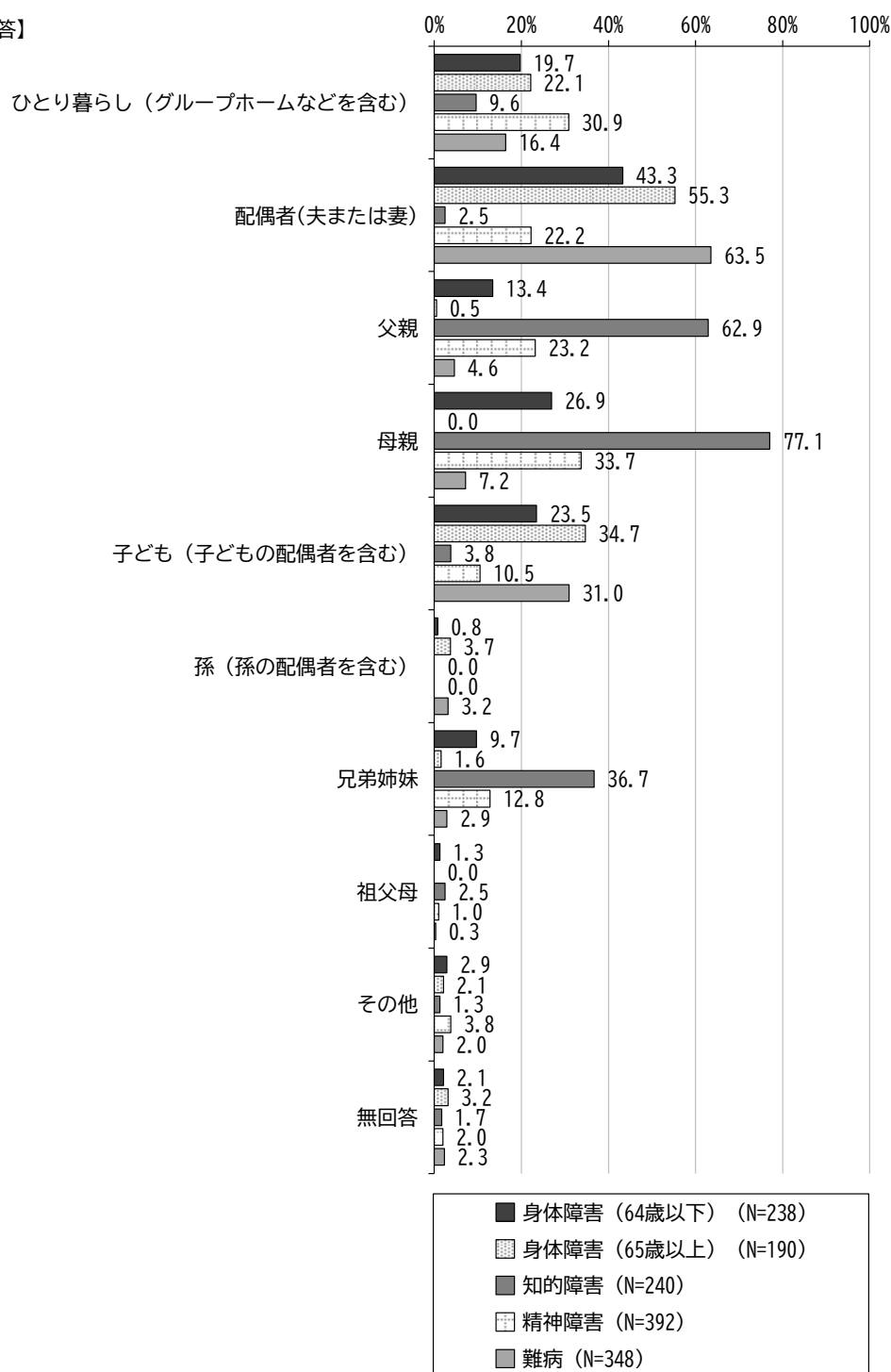
- 住居形態は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「持ち家」が最も多く、それぞれの割合は55.9%、65.3%、64.6%、66.1%となっている。
- 精神障害は「賃貸住宅（民間アパート、都営住宅などを含む）（57.9%）」が最も多くなっている。



問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

- 同居家族は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は「配偶者（夫または妻）」が最も多く、それぞれの割合は43.3%，55.3%，63.5%となっている。
- 知的障害、精神障害は「母親」が最も多く、それぞれの割合は77.1%，33.7%となっている。
- また、知的障害では「父親」と「母親」との同居割合が多くなっている。

【複数回答】

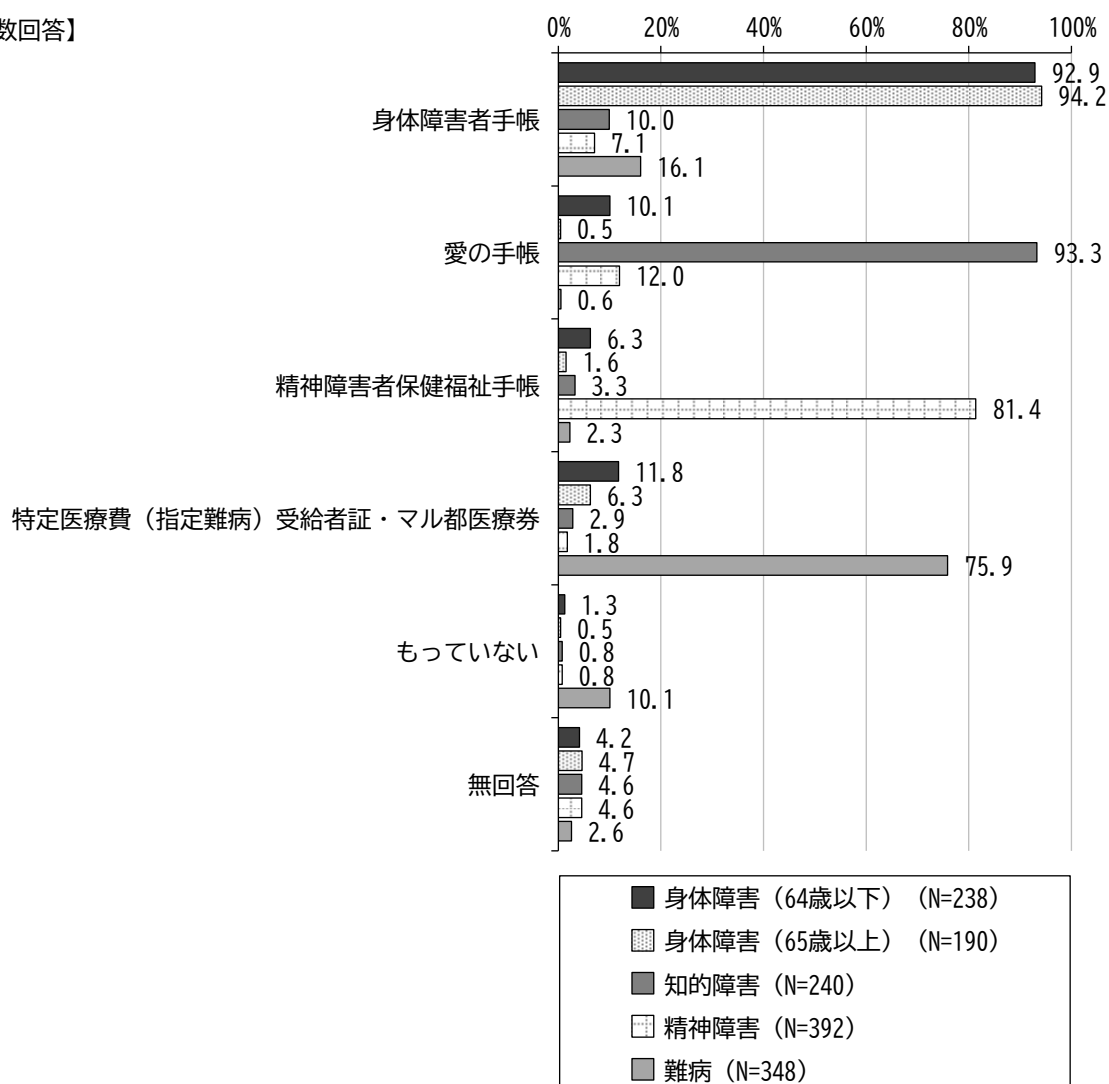


問7 おもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

①もっている手帳の種類

- もっている手帳の状況は、身体障害（64歳以下）では「愛の手帳」を10.1%、「精神障害者保健福祉手帳」を6.3%、「特定医療費（指定難病）受給者証・マル都医療券」を11.8%が重複して所持している。身体障害（65歳以上）では、「特定医療費（指定難病）受給者証・マル都医療券」を6.3%が重複して所持している。知的障害では、「身体障害者手帳」を10.0%、「精神障害者保健福祉手帳」を3.3%が重複して所持している。精神障害では、「身体障害者手帳」を7.1%、「愛の手帳」を12.0%が重複して所持している。難病では、「身体障害者手帳」を16.1%が重複して所持している。

【複数回答】

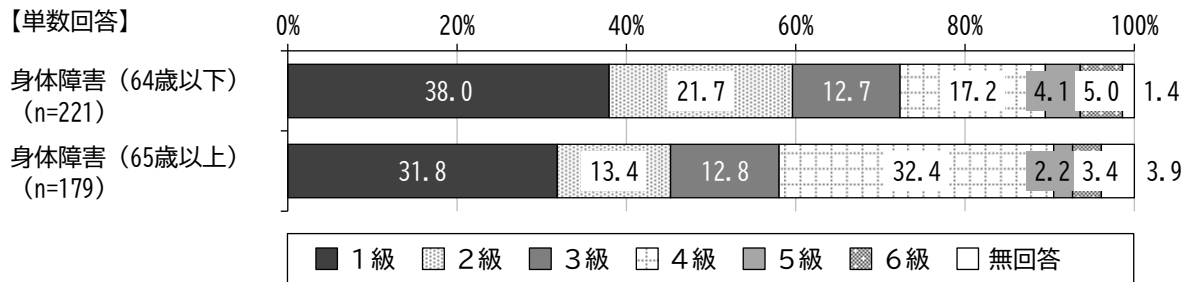


②もっている手帳の等級

- もっている手帳の等級は、身体障害（64歳以下）は身体障害者手帳の「1級（38.0%）」、身体障害（65歳以上）は身体障害者手帳の「4級（32.4%）」が最も多くなっている。
- 知的障害は、愛の手帳の「4度（51.3%）」が最も多くなっている。
- 精神障害は、精神障害者保健福祉手帳の「2級（50.8%）」が最も多くなっている。

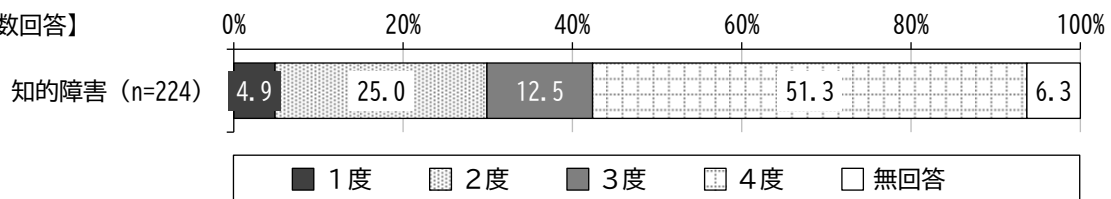
・身体障害者手帳

【単数回答】



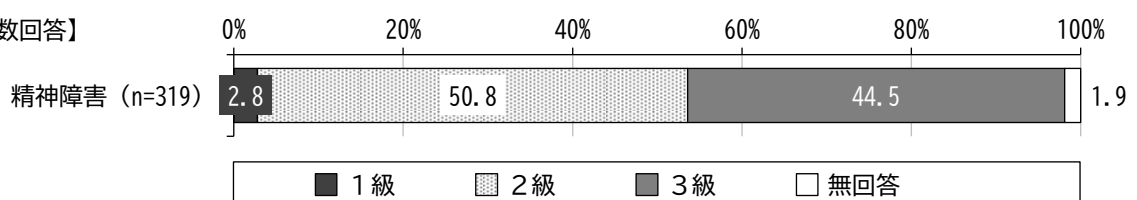
・愛の手帳

【単数回答】



・精神障害者保健福祉手帳

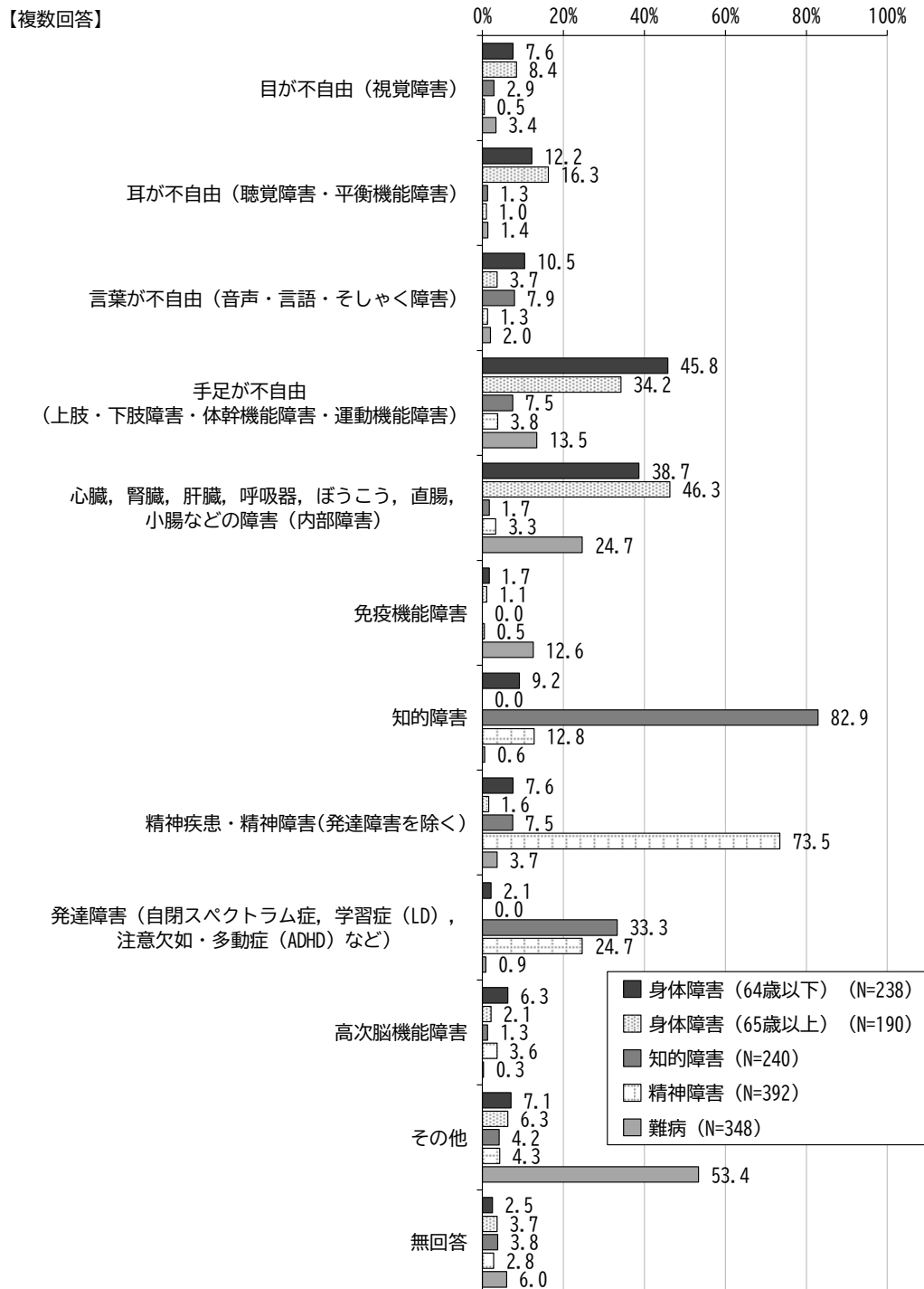
【単数回答】



問8 どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)

※特定医療費（指定難病）受給者証をもつ人は、「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

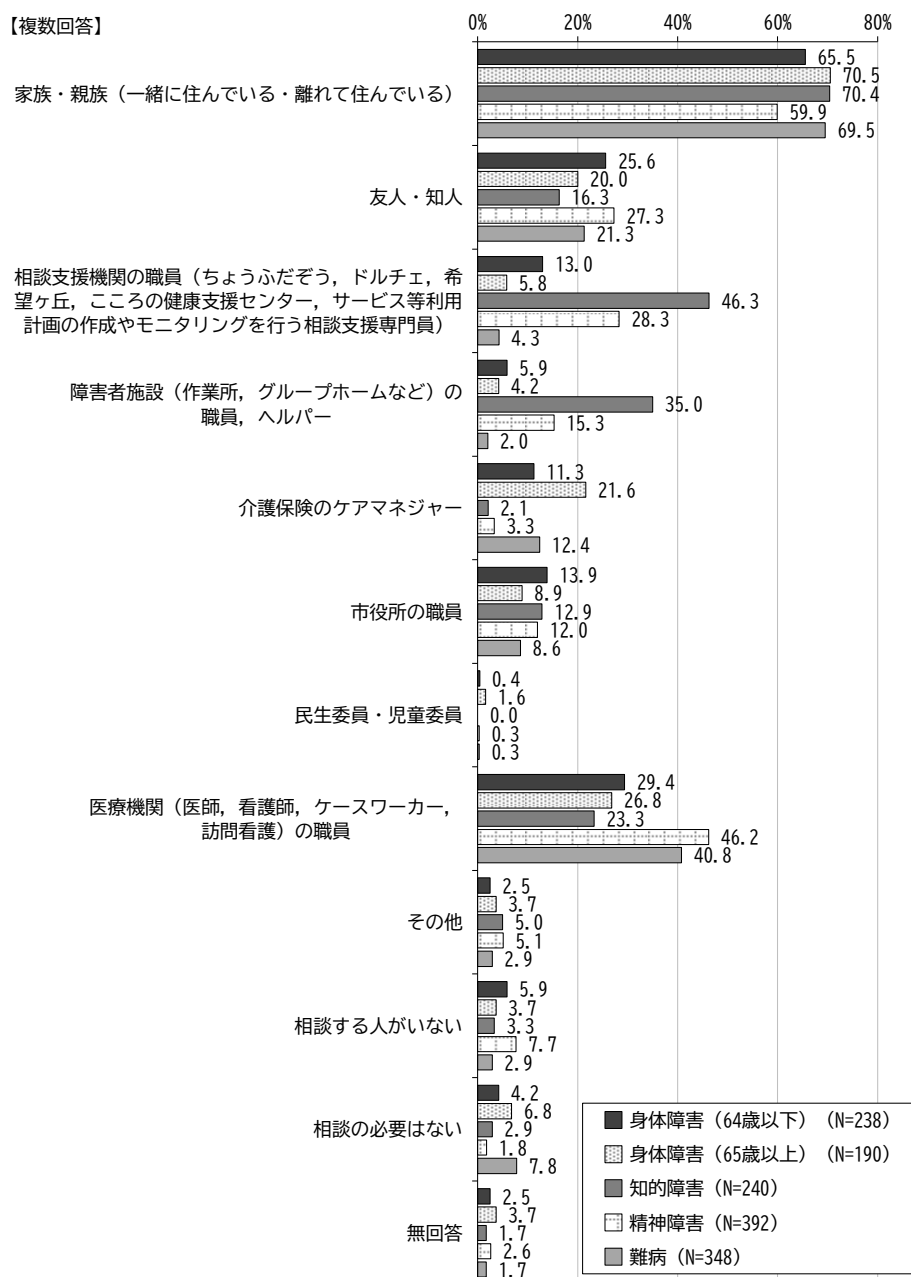
- 病気や障害の種類は、身体障害（64歳以下）は「手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害）（45.8%）」，身体障害（65歳以上）は「心臓，腎臓，肝臓，呼吸器，ぼうこう，直腸，小腸などの障害（内部障害）（46.3%）」，知的障害は「知的障害（82.9%）」，精神障害は「精神疾患・精神障害（発達障害を除く）（73.5%）」，難病は「その他（53.4%）」が最も多くなっている。



2 相談支援についておたずねします

問9 悩みや困りごとがある場合、主にどこに相談しますか。(いくつでも○)

- 悩みや困りごとがある場合の相談相手は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」が最も多く、それぞれの割合は 65.5%，70.5%，70.4%，59.9%，69.5%となっている。
- また、知的障害は「相談支援機関の職員（ちょうふだぞう，ドルチェ，希望ヶ丘，こころの健康支援センター，サービス等利用計画の作成やモニタリングを行う相談支援専門員）（46.3%）」も多くなっている。精神障害，難病は「医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員」も多く、それぞれの割合は 46.2%，40.8%となっている。



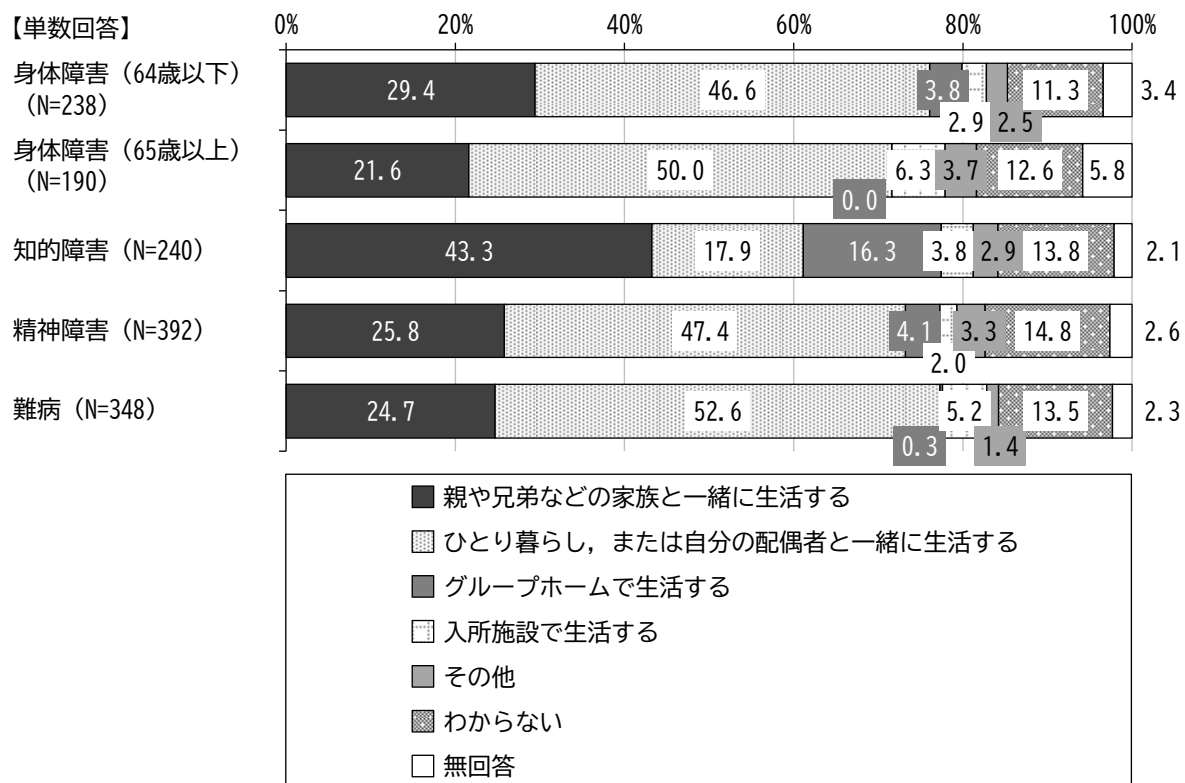
問 10 あなたは、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。
（いくつでも○）

- 医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「特にない」が最も多く、それぞれの割合は 47.1%，62.6%，52.9%，51.0%，57.8%となっている。
- また、「特にない」を除くと、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、精神障害、難病は「医療費や交通費の負担が大きい」が多く、それぞれの割合は 19.7%，11.6%，21.4%，21.0%となっている。知的障害は「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい（14.6%）」が多くなっている。



問 11 今後、どのように生活したいですか。(1つに○)

- 希望する暮らし方は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多く、それぞれの割合は46.6%，50.0%，47.4%，52.6%となっている。
- 知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する（43.3%）」が最も多くなっている。
- また、知的障害では「グループホームで生活する」が1割を超えている。

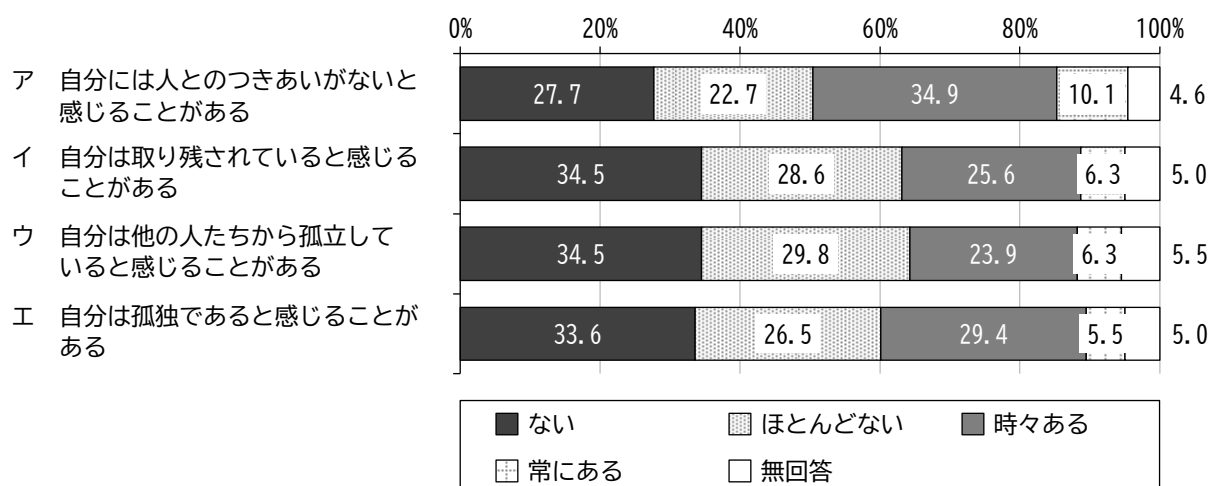


3 日頃のコミュニケーションについておたずねします

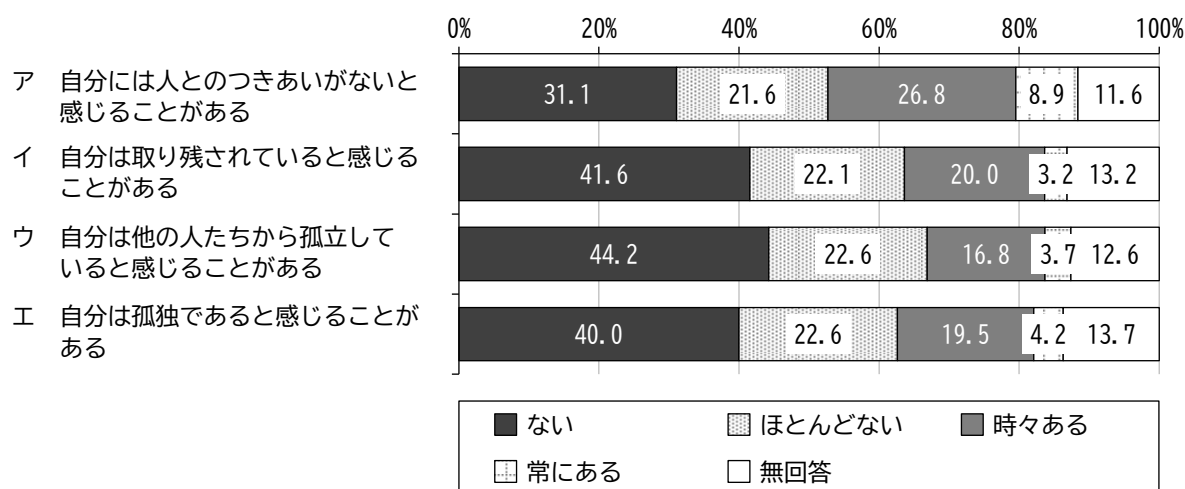
問 12 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」が最も多く、それぞれの割合は45.0%, 35.7%, 43.7%, 34.8%となっている。
- 精神障害は「イ 自分は取り残されていると感じることがある（60.8%）」が最も多く、「ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある」, 「ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある」, 「エ 自分は孤独であると感じることがある」も5割を超えている。

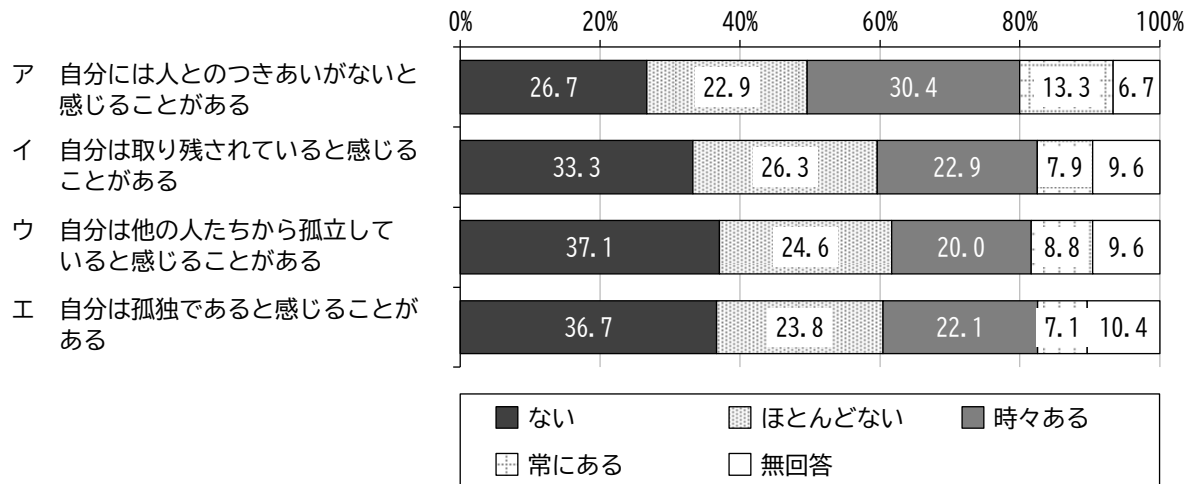
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



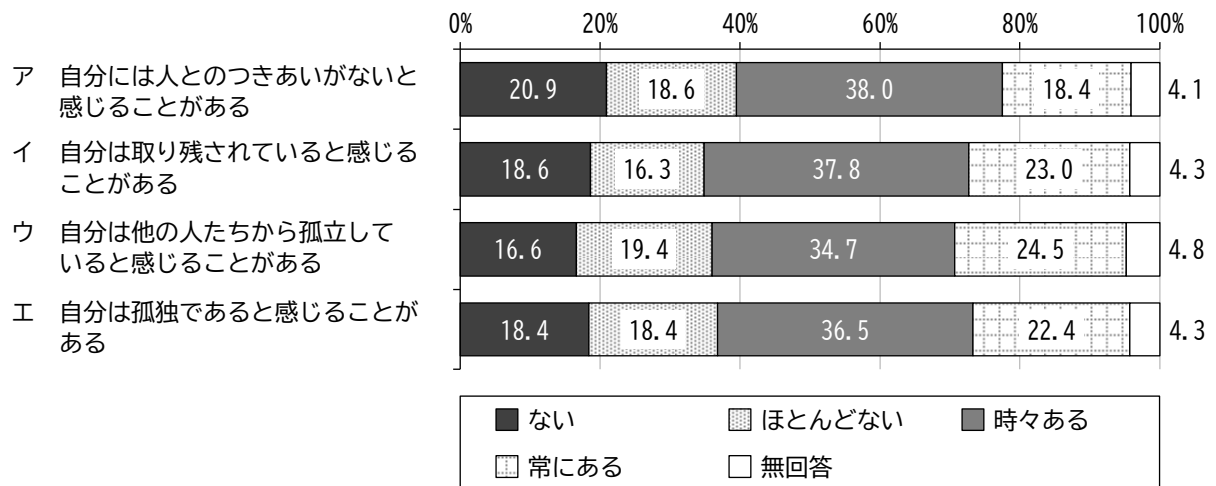
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



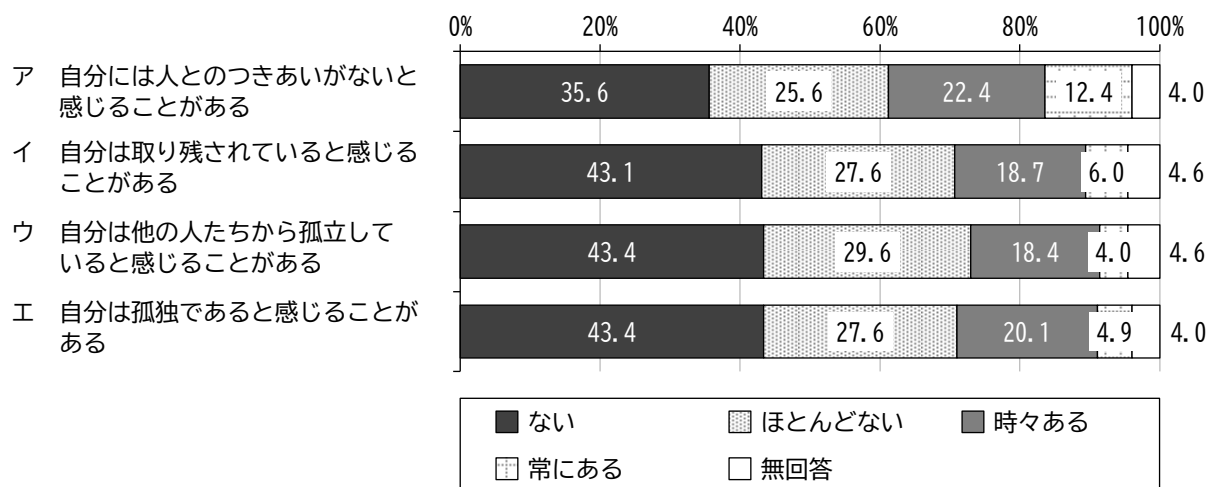
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）

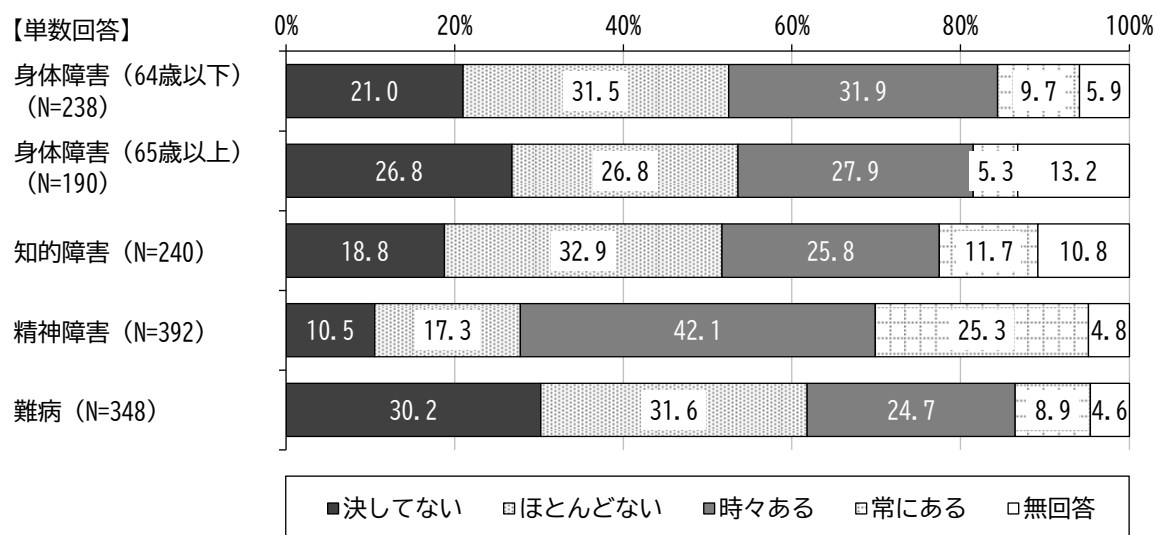


【単数回答】難病（N=348）



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」（本編 25 ページ参照）による間接質問のスコア化の結果を障害種別にみると，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），精神障害で「時々ある」，知的障害，難病で「ほとんどない」が最も多くなっている。

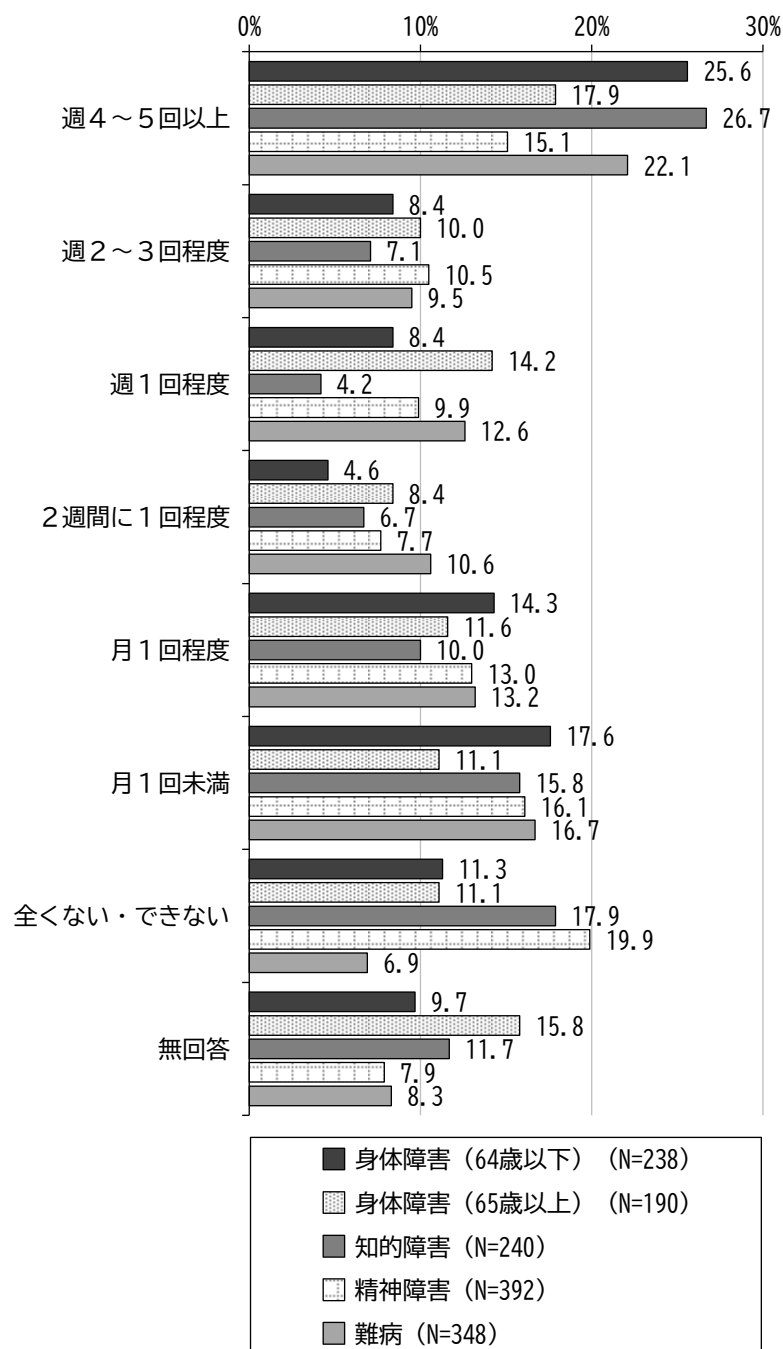


問 13 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，難病は「週 4～5 回以上」が最も多く，それぞれの割合は 25.6%，17.9%，26.7%，22.1%となっている。
- 精神障害は「全くない・できない（19.9%）」が最も多くなっている。

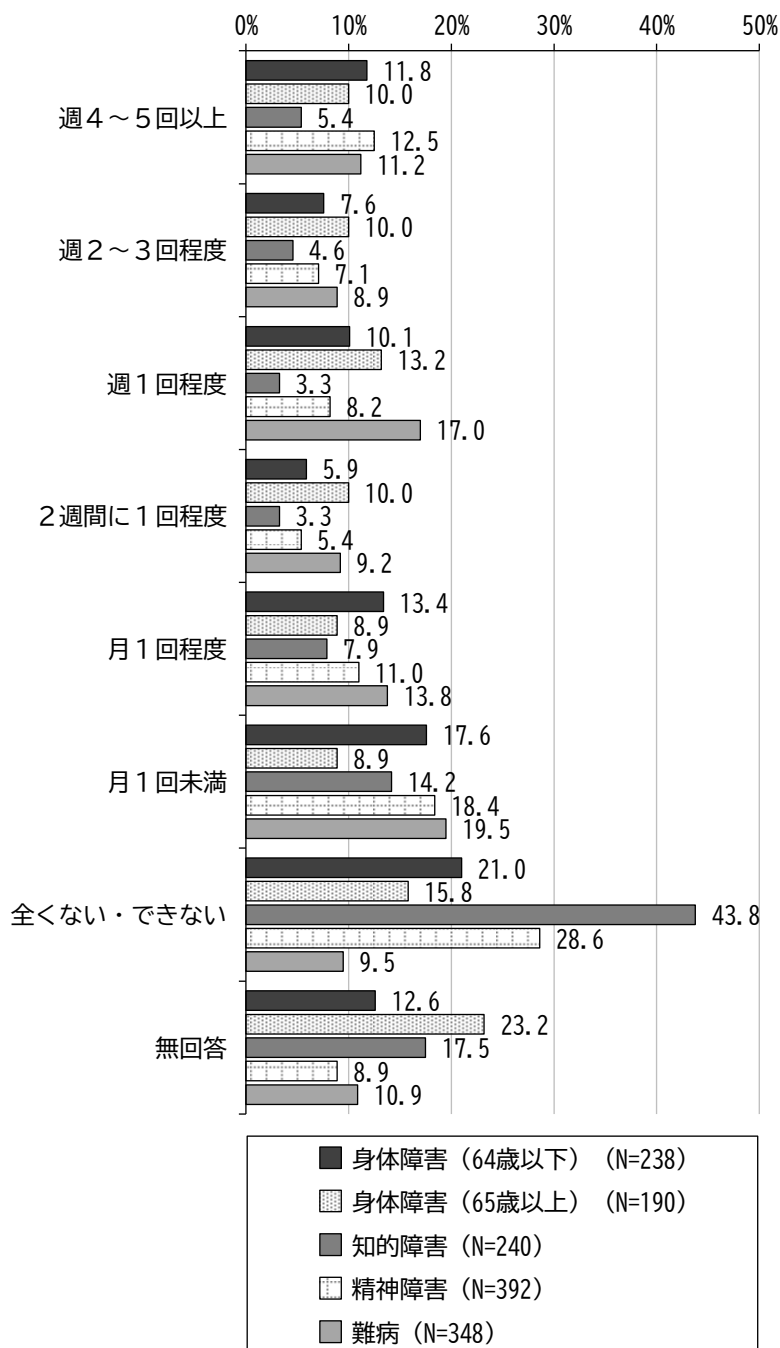
【単数回答】



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「全くない・できない」が最も多く、それぞれの割合は 21.0%、15.8%、43.8%、28.6%となっている。
- 難病は「月1回未満（19.5%）」が最も多くなっている。

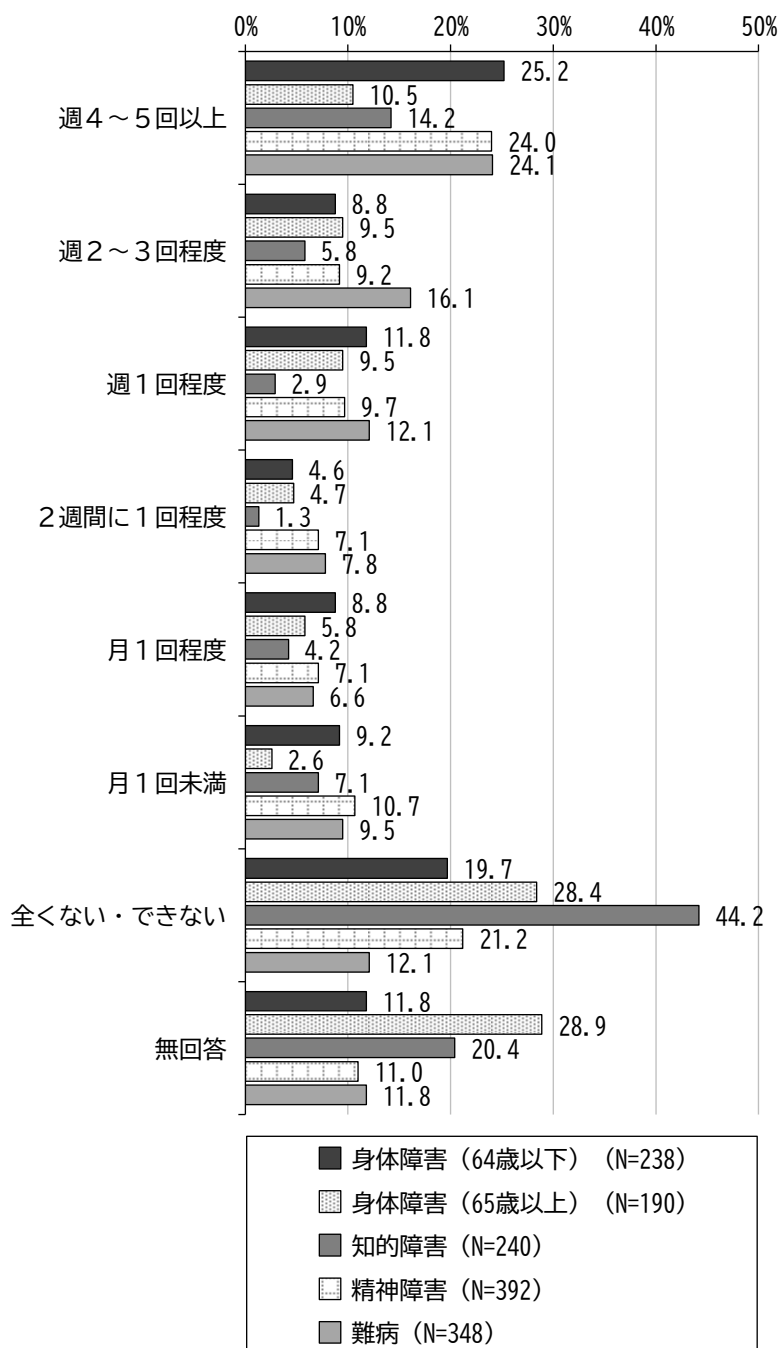
【単数回答】



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病は「週4～5回以上」が最も多く、それぞれの割合は25.2%、24.0%、24.1%となっている。
- 身体障害（65歳以上）、知的障害は「全くない・できない」が最も多く、それぞれの割合は28.4%、44.2%となっている。

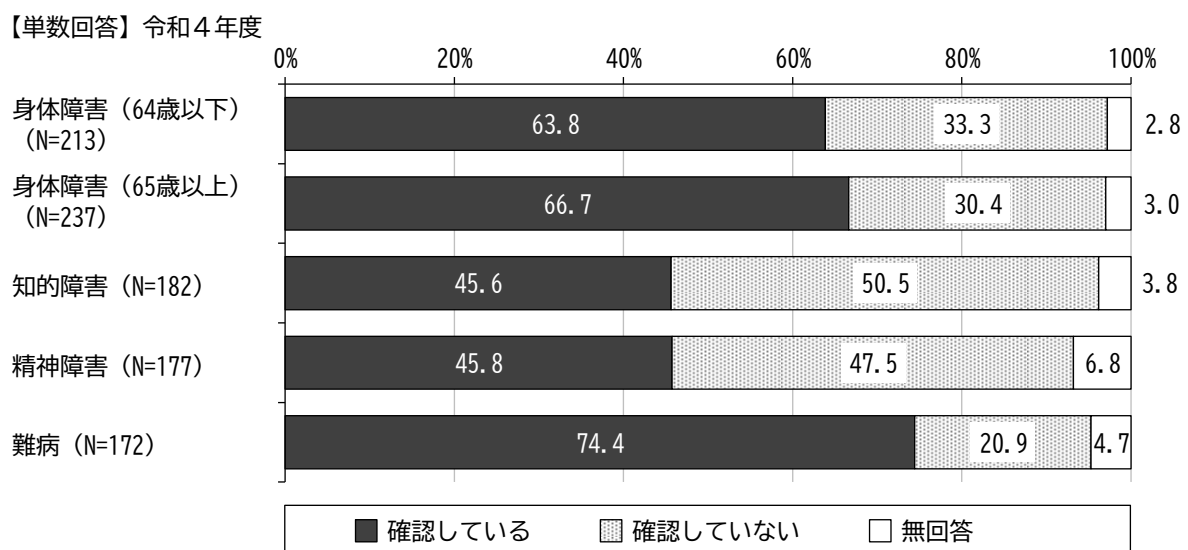
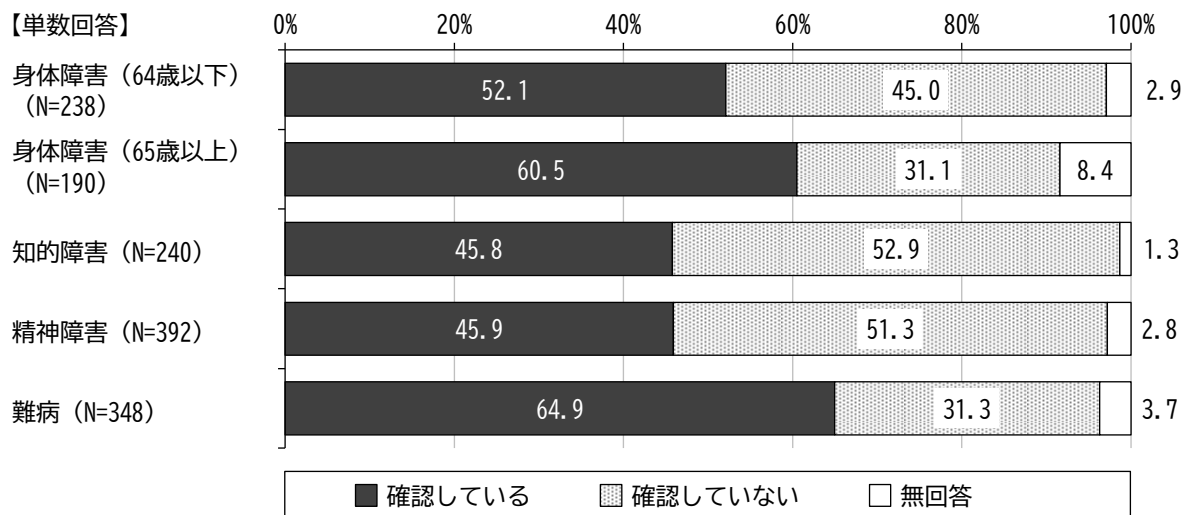
【単数回答】



4 災害時の対策についておたずねします

問 14 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。(1つに○)

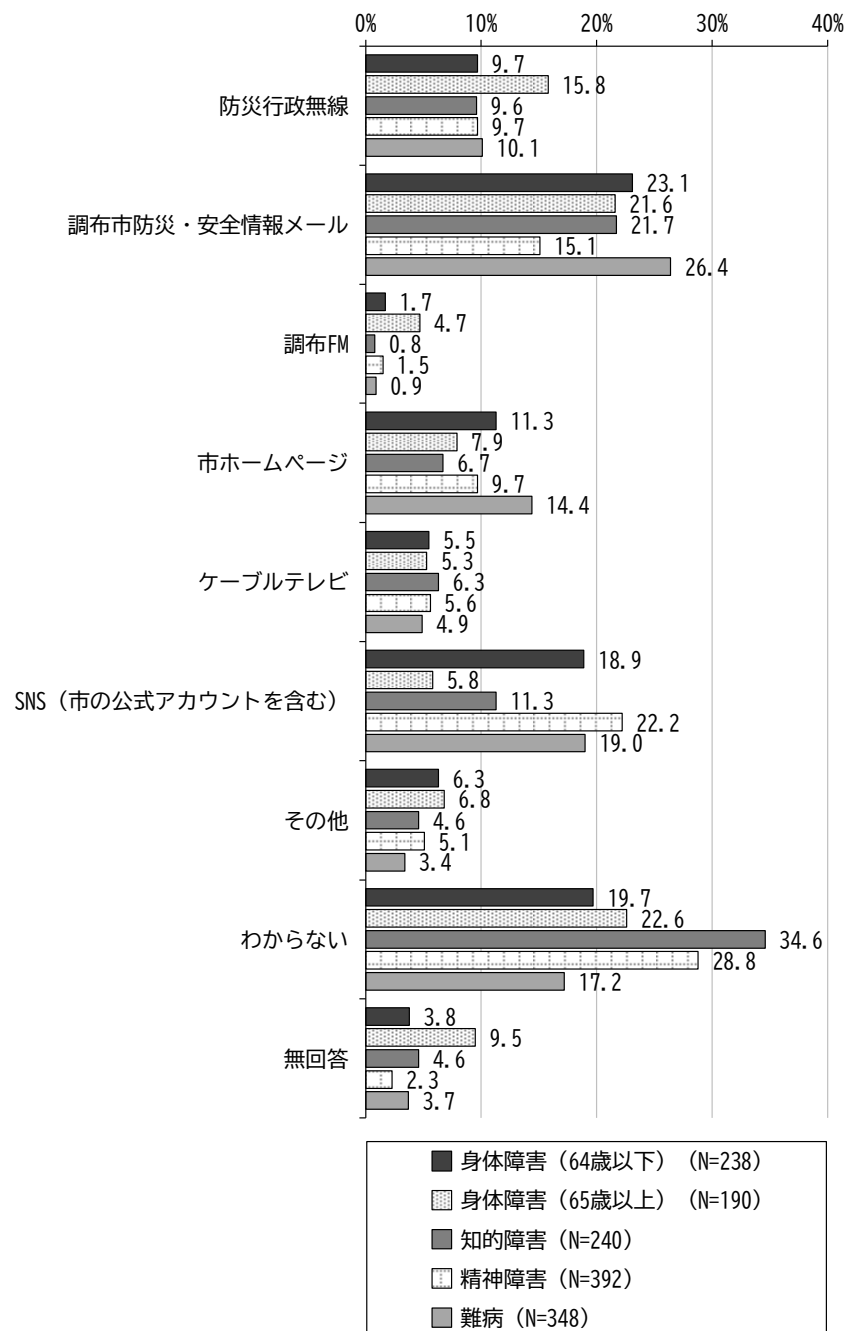
- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は「確認している」が多く、それぞれの割合は52.1%，60.5%，64.9%となっている。
- 知的障害、精神障害は「確認していない」が多く、それぞれの割合は52.9%，51.3%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「確認している」が身体障害（64歳以下）で11.7ポイント、身体障害（65歳以上）で6.2ポイント、難病で9.5ポイント低くなっている。



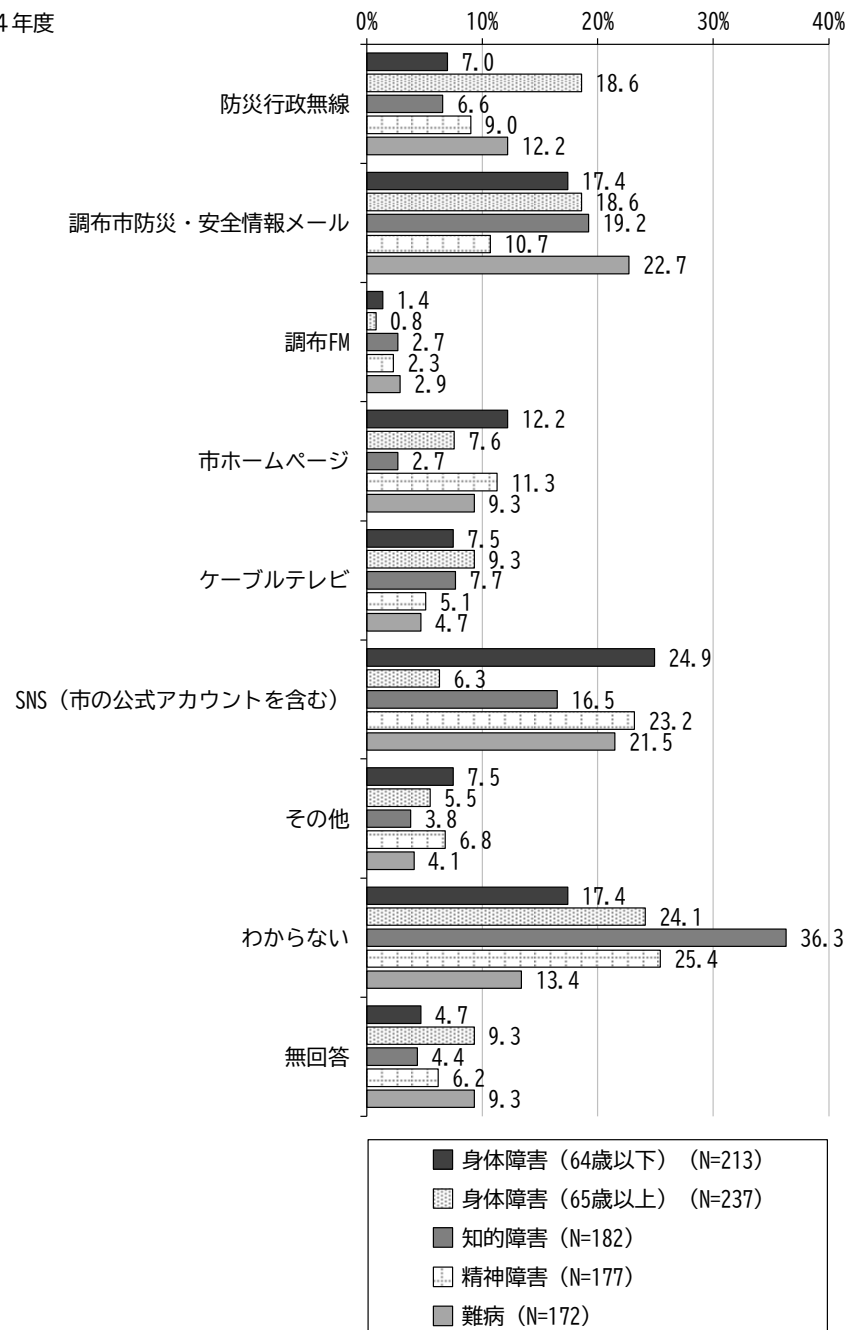
問 15 災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。(1つに○)

- 緊急時の避難情報の入手先は、身体障害（64 歳以下）、難病は「調布市防災・安全情報メール」が最も多く、それぞれの割合は 23.1%、26.4%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「わからない」が最も多く、それぞれの割合は 22.6%、34.6%、28.8%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「調布市防災・安全情報メール」が 5.7 ポイント高く、「SNS（市の公式アカウントを含む）」が 6.0 ポイント低くなっている。知的障害で「SNS（市の公式アカウントを含む）」が 5.2 ポイント低くなっている。難病で「市ホームページ」が 5.1 ポイント高くなっている。

【単数回答】



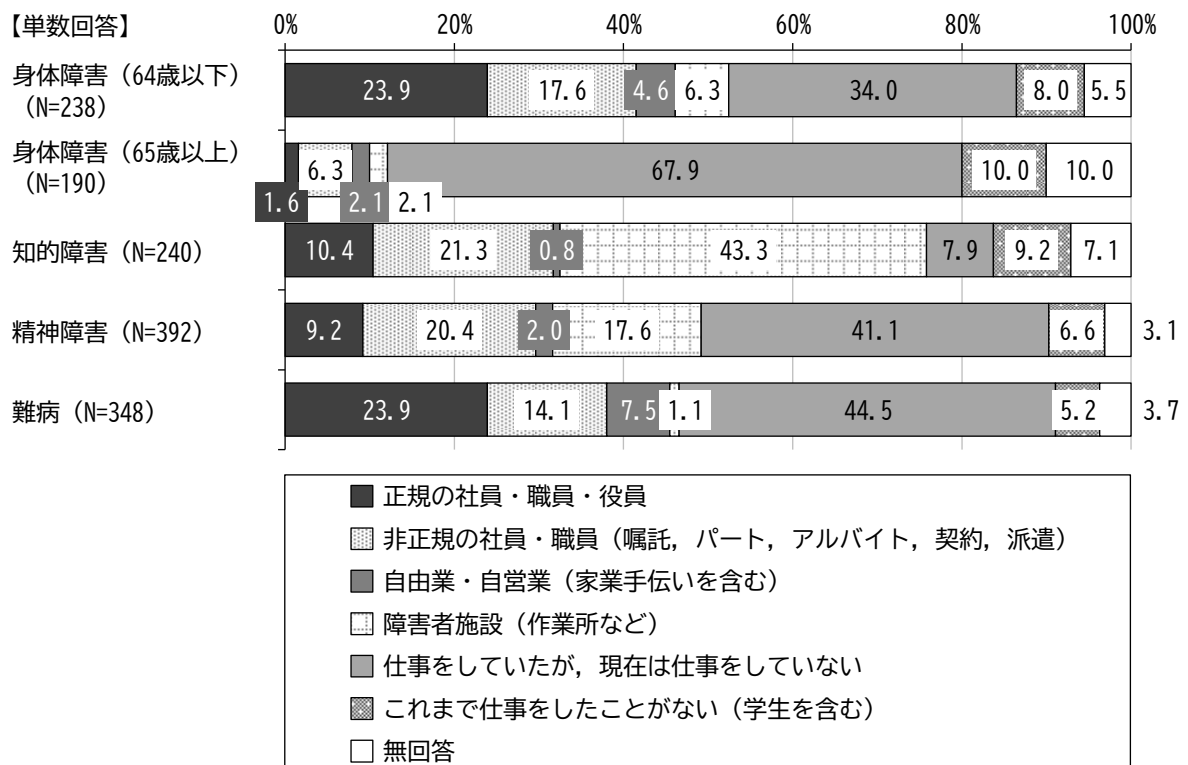
【単数回答】令和4年度



5 暮らしについておたずねします

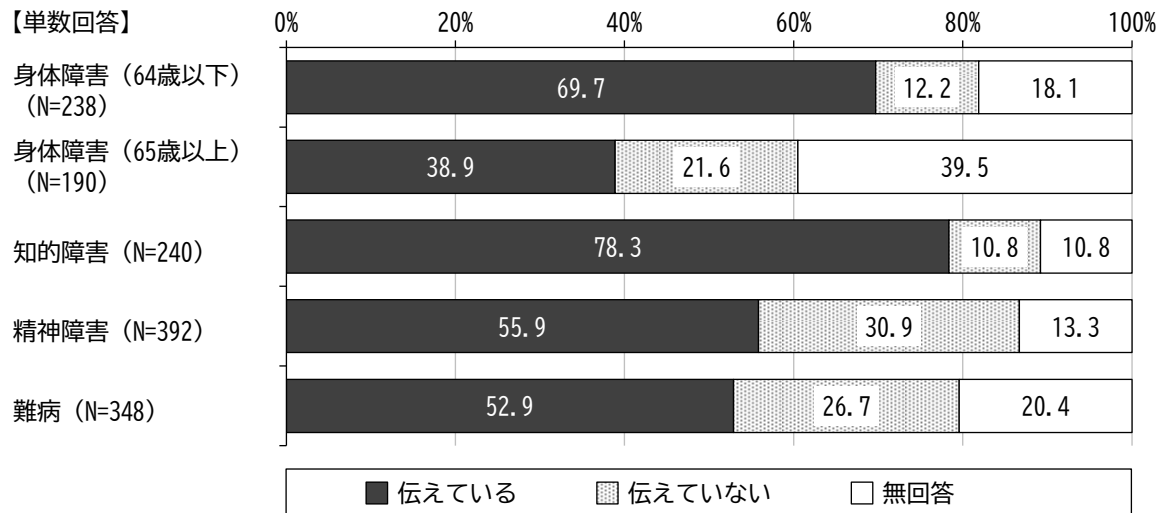
問 16 現在、給料や工賃を伴う仕事をしていますか。(1つに○)

- 現在の就労状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が最も多く、それぞれの割合は34.0%、67.9%、41.1%、44.5%となっている。
- 知的障害は「障害者施設（作業所など）（43.3%）」が最も多くなっている。
- また、「仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」を除いた就労状況をみると、身体障害（64歳以下）、難病は「正規の社員・職員・役員」が多く、それぞれの割合はともに23.9%となっている。身体障害（65歳以上）は「これまで仕事をしたことがない（学生を含む）（10.0%）」、精神障害は「非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）（20.4%）」が多くなっている。



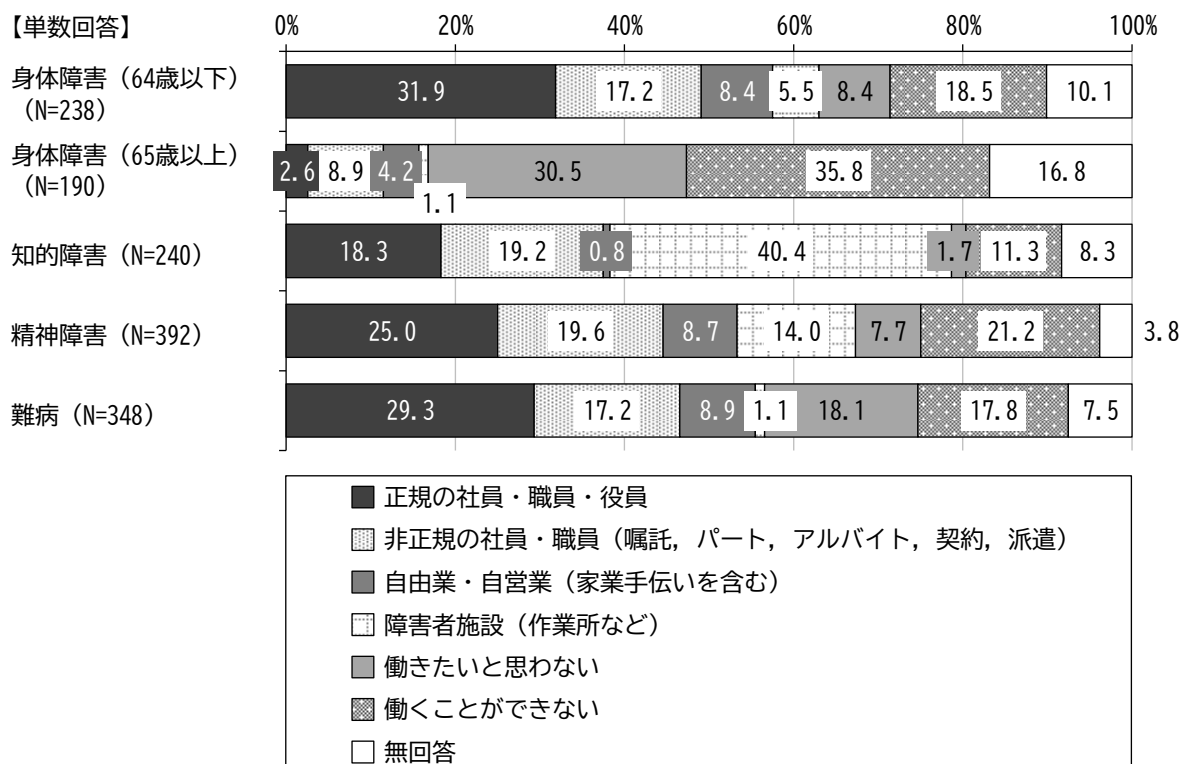
問 17 職場や学校の人に、あなたの障害や病気のことを伝えていますか。(1つに○)

- 職場や学校の人に障害や病気のことを伝えているかは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「伝えている」が多く、それぞれの割合は69.7%、38.9%、78.3%、55.9%、52.9%となっている。



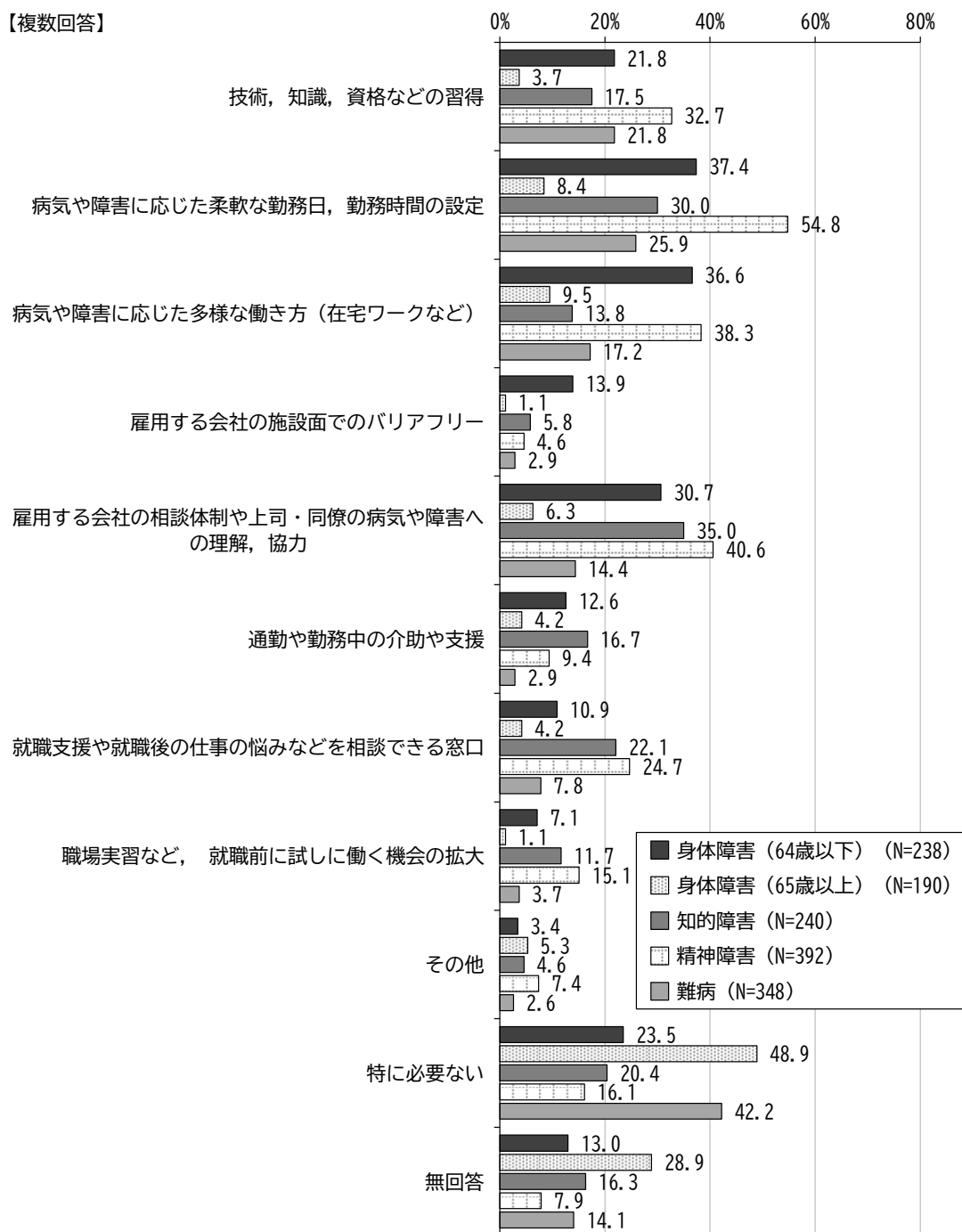
問 18 あなたは、どのような形で働きたい（続けたい）ですか。(1つに○)

- 就労の希望は、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病は「正規の社員・職員・役員」が最も多く、それぞれの割合は31.9%、25.0%、29.3%となっている。
- 身体障害（65歳以上）は「働くことができない（35.8%）」、知的障害は「障害者施設（作業所など）（40.4%）」が最も多くなっている。



問 19 あなたが仕事をするために、必要なことはありますか。(いくつでも○)

- 仕事をするために必要なことは、身体障害（64 歳以下）、精神障害は「病気や障害に応じた柔軟な勤務日、勤務時間の設定」が最も多く、それぞれの割合は 37.4%、54.8%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）、難病は「特に必要ない」が最も多く、それぞれの割合は 48.9%、42.2%となっている。
- 知的障害は「雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解、協力（35.0%）」が最も多くなっている。

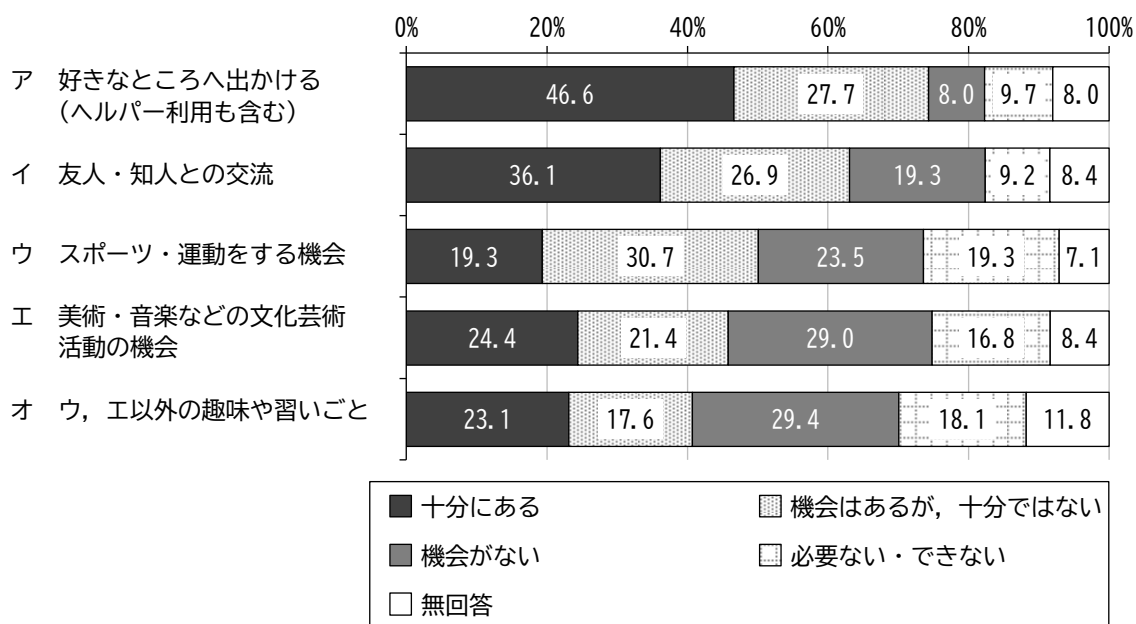


問 20 普段の生活の中で、次のような機会がありますか。(それぞれ1つに○)

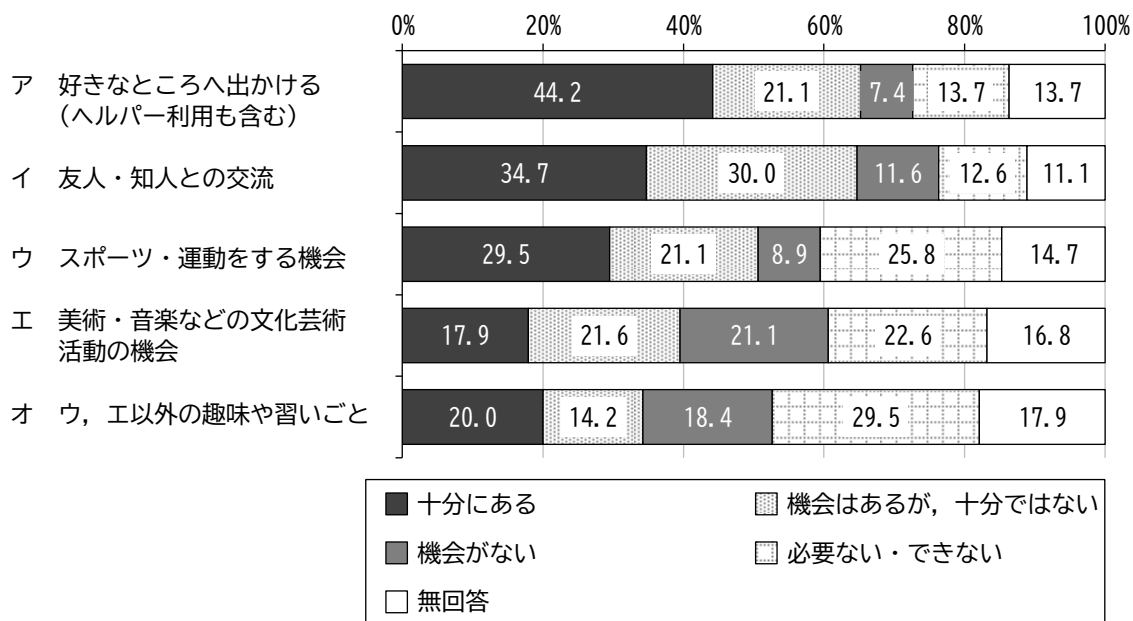
- 生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）」が最も多く、それぞれの割合は 46.6%，44.2%，44.6%，45.7%，54.0%となっている。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「イ 友人・知人との交流」「ウ スポーツ・運動※をする機会」「エ 美術・音楽などの文化芸術活動※の機会」「オ ウ、エ以外の趣味や習いごと」、難病は「ウ スポーツ・運動をする機会」「エ 美術・音楽などの文化芸術活動の機会」「オ ウ、エ以外の趣味や習いごと」となっている。

※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。

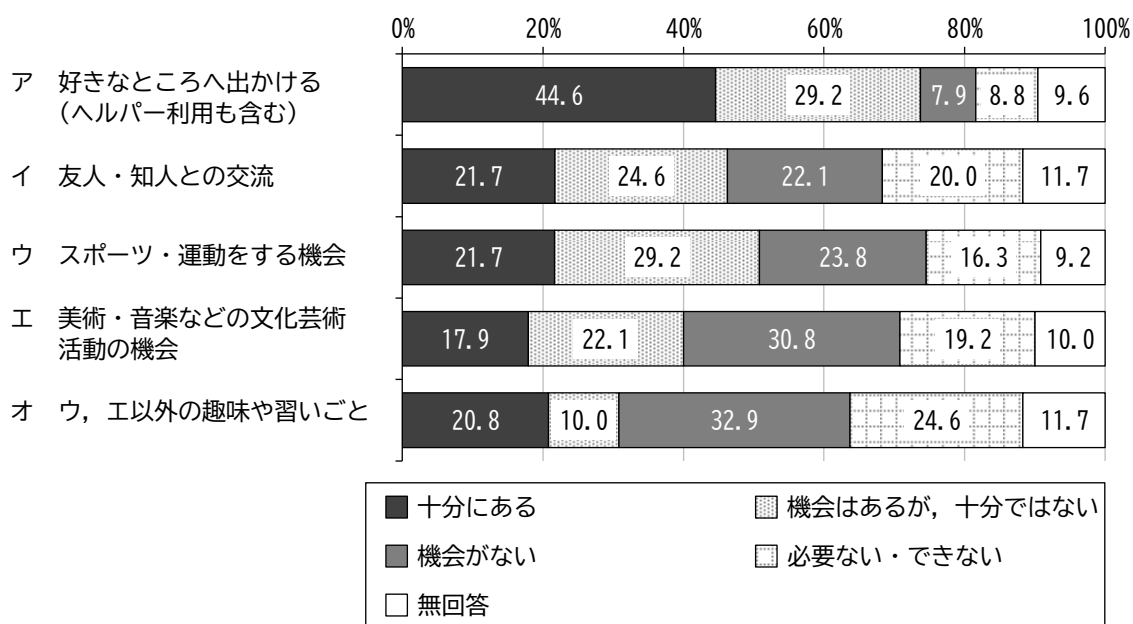
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



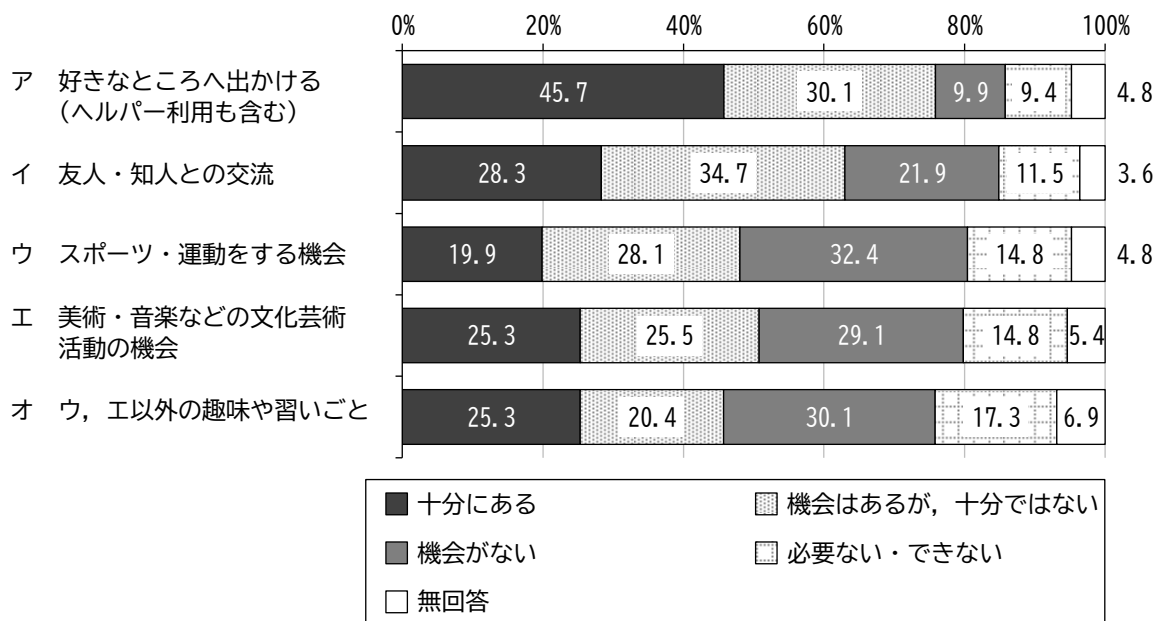
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



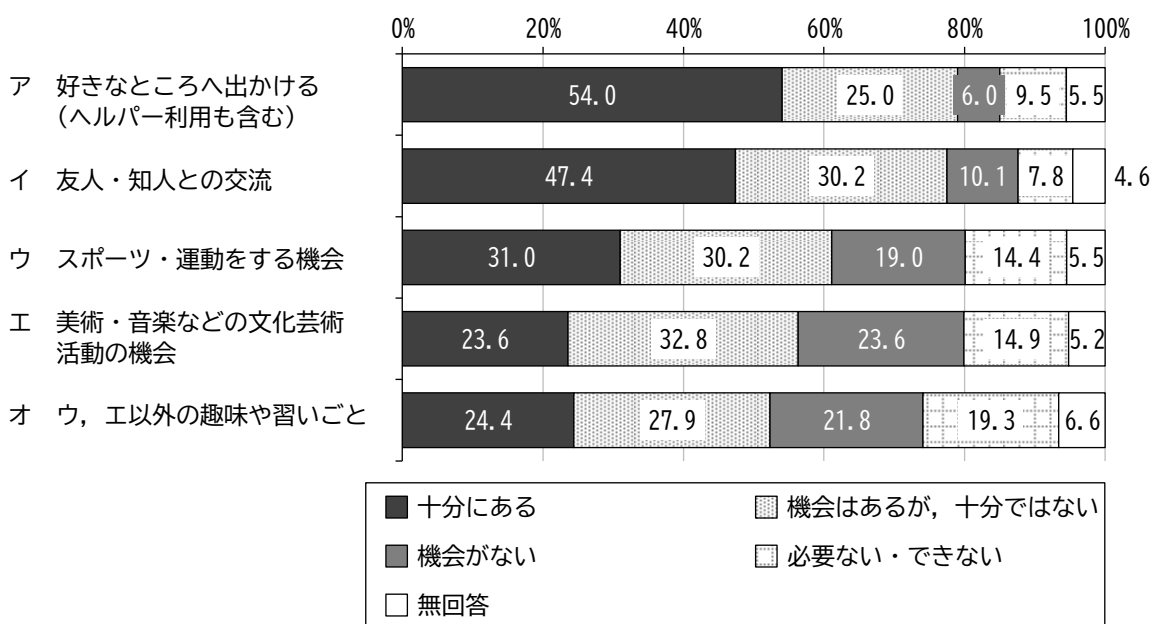
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）

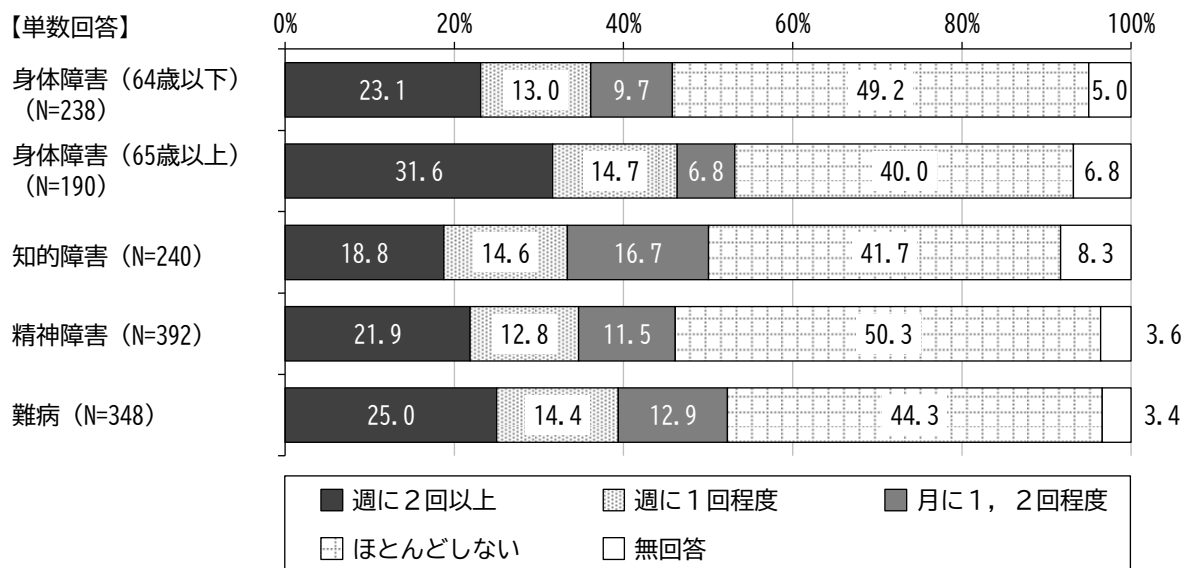


【単数回答】難病（N=348）



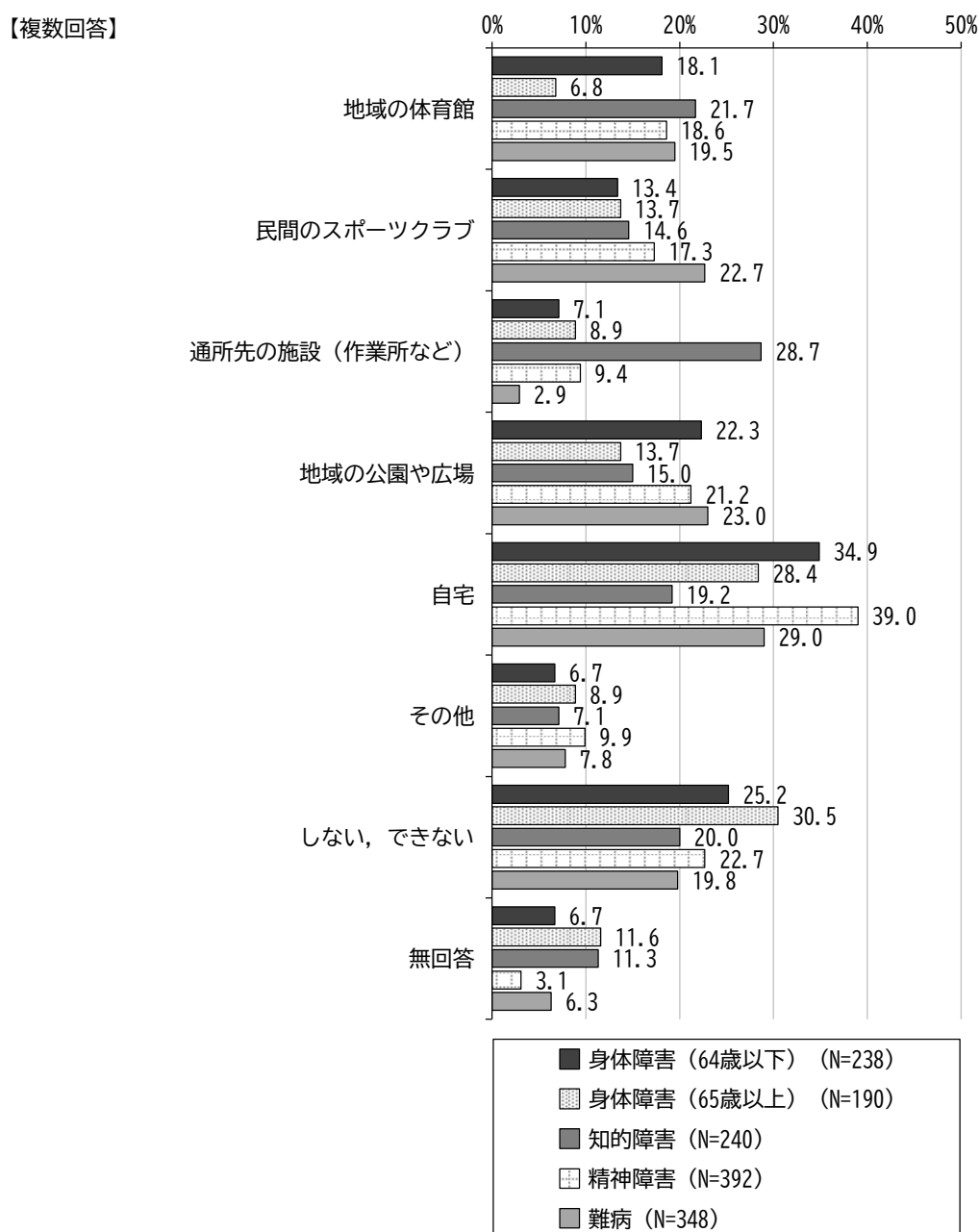
問 21 スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。(1つに○)

- スポーツ・運動をする頻度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「ほとんどしない」が最も多く、それぞれの割合は 49.2%，40.0%，41.7%，50.3%，44.3%となっている。
- また、「ほとんどしない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「週に2回以上」が多く、それぞれの割合は 23.1%，31.6%，18.8%，21.9%，25.0%となっている。

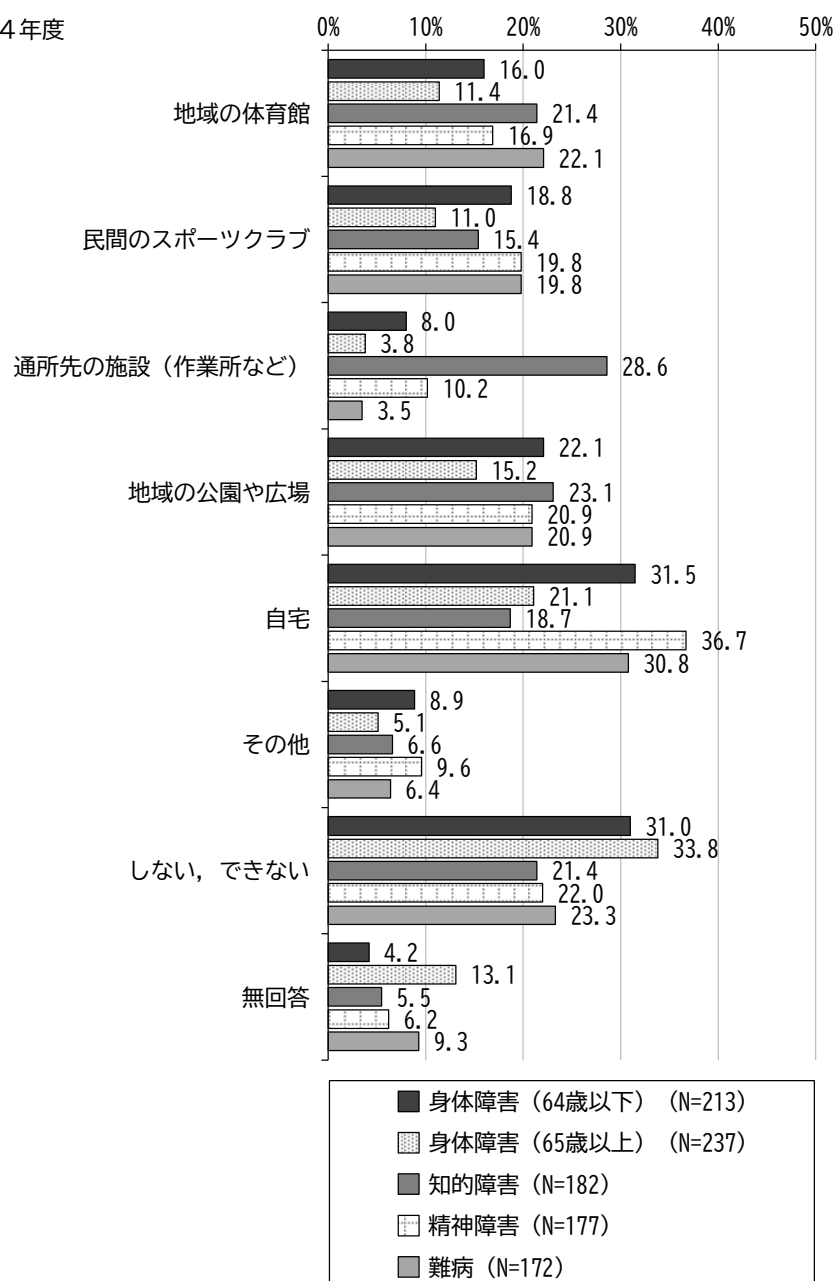


問 22 スポーツ・運動をどこでしたいですか。(いくつでも○)

- スポーツ・運動をどこでしたいかは、身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病は「自宅」が最も多く、それぞれの割合は 34.9%，39.0%，29.0%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「しない，できない（30.5%）」，知的障害は「通所先の施設（作業所など）（28.7%）」が最も多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「しない，できない」が 5.8 ポイント、「民間のスポーツクラブ」が 5.4 ポイント低くなっている。身体障害（65 歳以上）で「自宅」が 7.3 ポイント，「通所先の施設（作業所など）」が 5.1 ポイント高くなっている。知的障害で「地域の公園や広場」が 8.1 ポイント低くなっている。



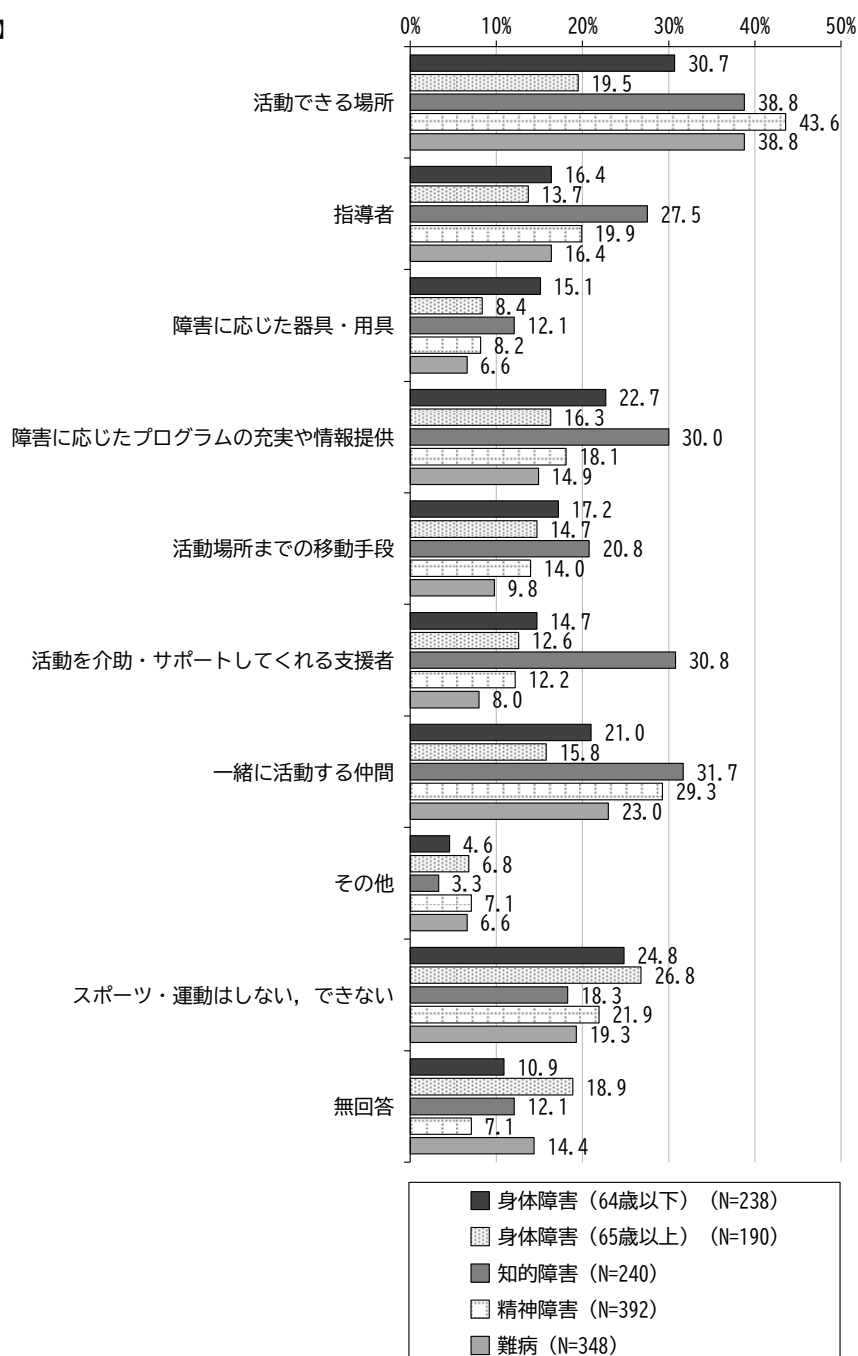
【複数回答】令和4年度



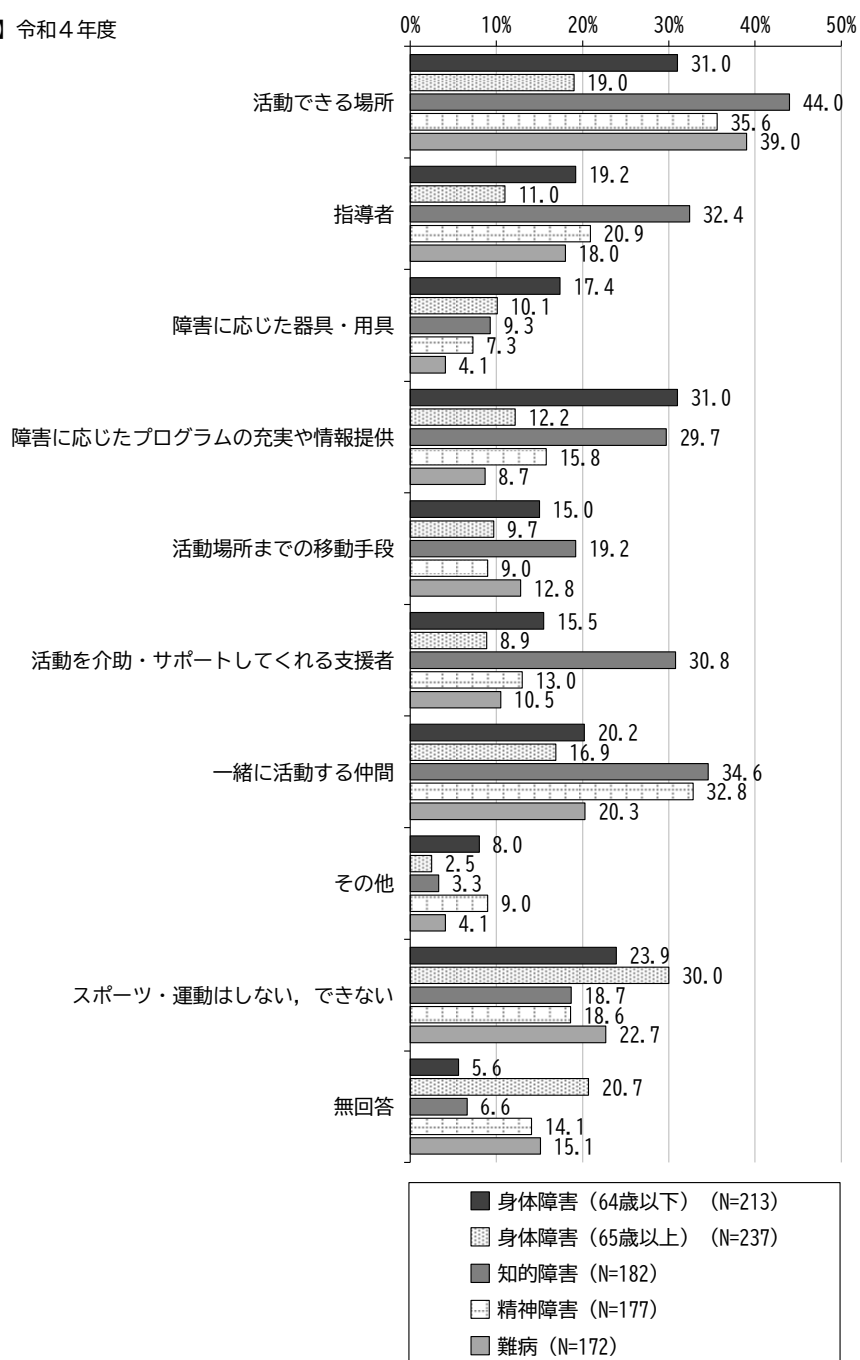
問 23 スポーツ・運動をするために必要な支援は何ですか。(いくつでも○)

- スポーツ・運動をするために必要な支援は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「活動できる場所」が最も多く、それぞれの割合は 30.7%, 38.8%, 43.6%, 38.8%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「スポーツ・運動はしない、できない（26.8%）」が最も多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「障害に応じたプログラムの充実や情報提供」が 8.3 ポイント、知的障害で「活動できる場所」が 5.2 ポイント低くなっている。精神障害で「活動できる場所」が 8.0 ポイント、難病で「障害に応じたプログラムの充実や情報提供」が 6.2 ポイント高くなっている。

【複数回答】

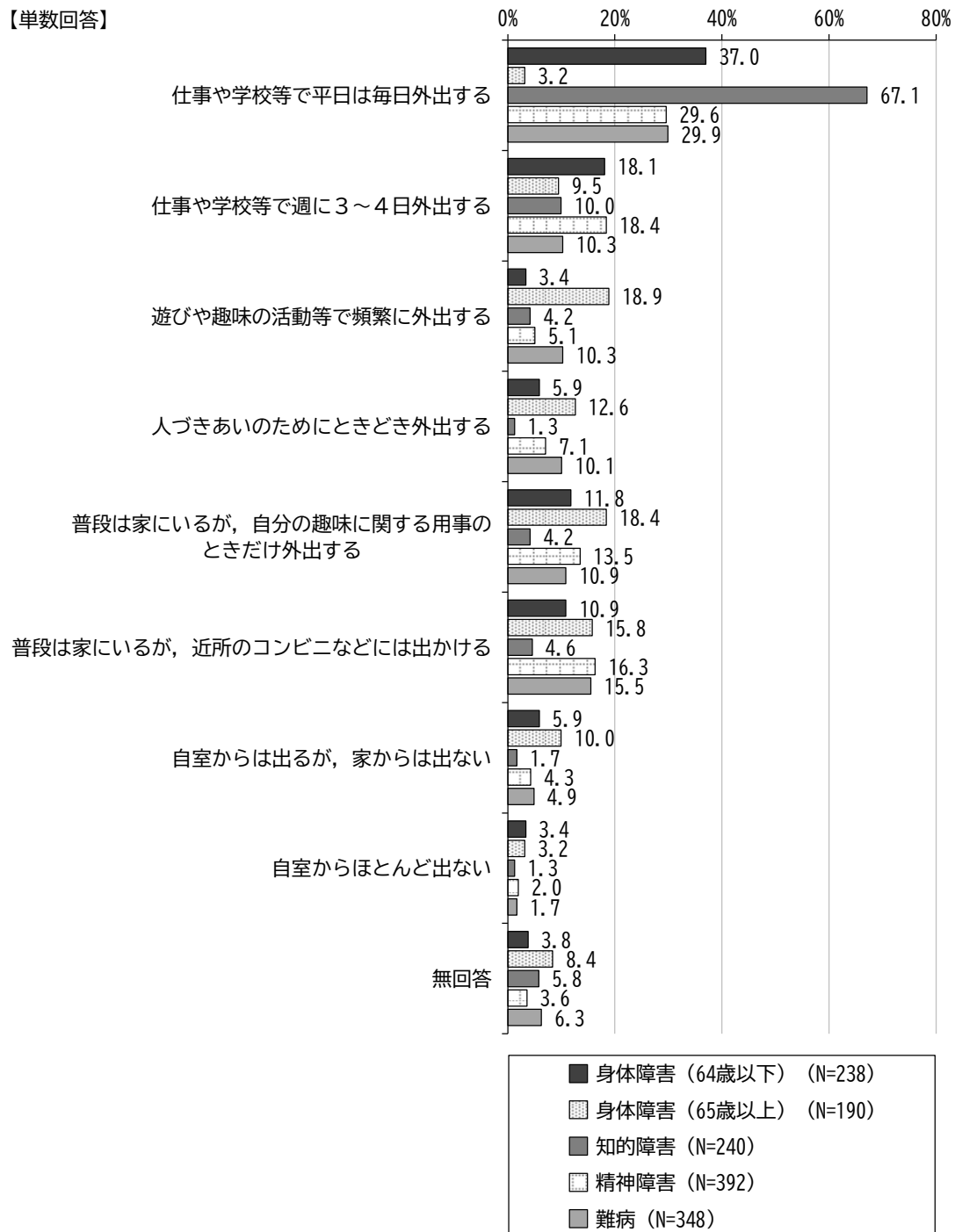


【複数回答】令和4年度



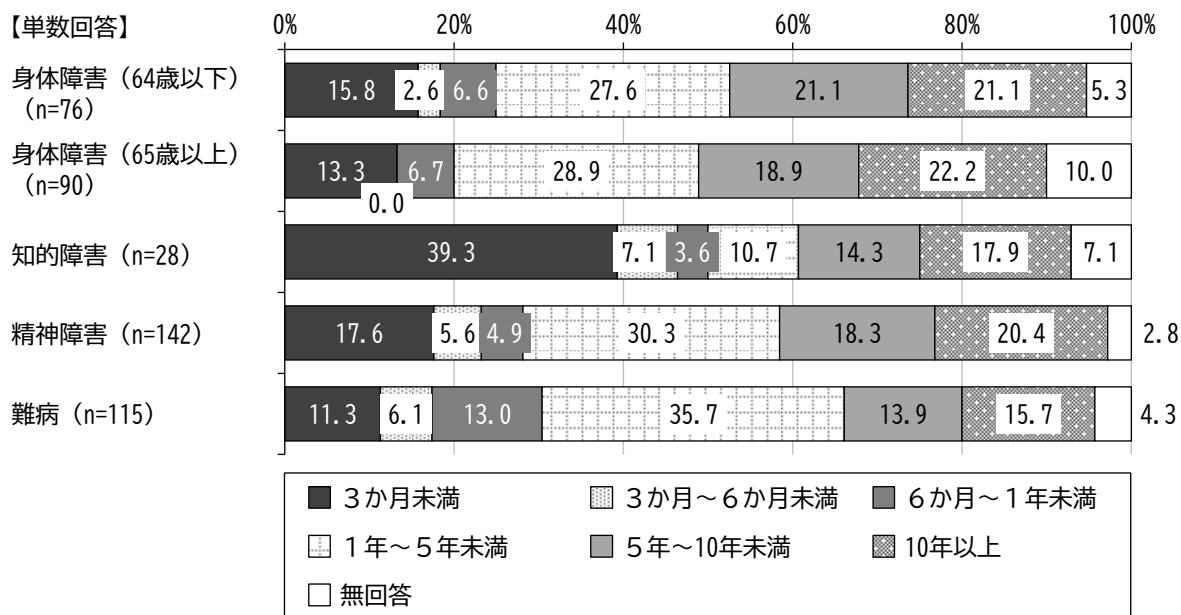
問 24 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

- 外出の状況は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「仕事や学校等で平日は毎日外出する」が最も多く、それぞれの割合は 37.0%，67.1%，29.6%，29.9% となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する（18.9%）」が最も多くなっている。



付問1 問24で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「1年～5年未満」が最も多く、それぞれの割合は27.6%、28.9%、30.3%、35.7%となっている。
- 知的障害は「3か月未満（39.3%）」が最も多くなっている。

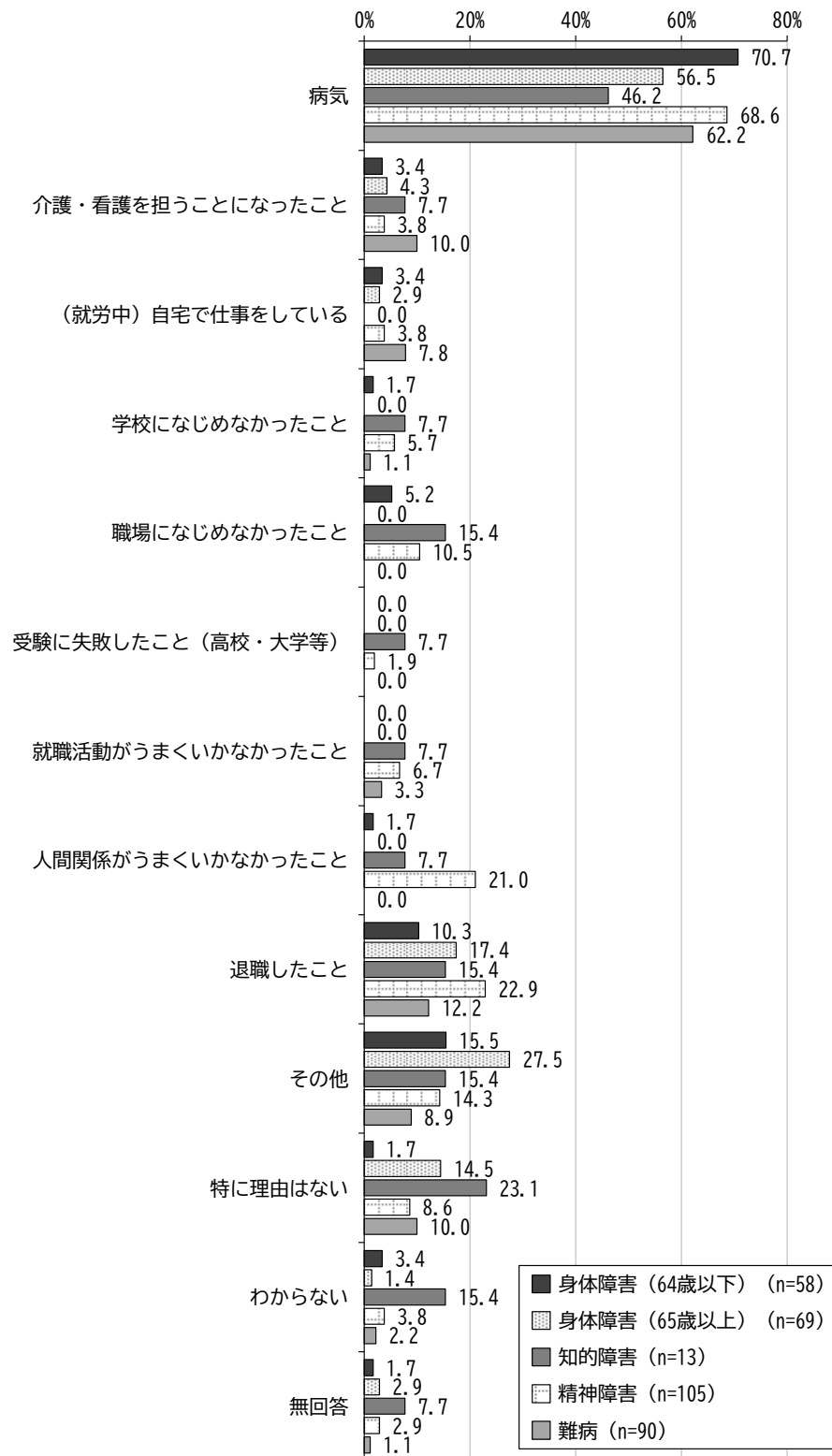


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

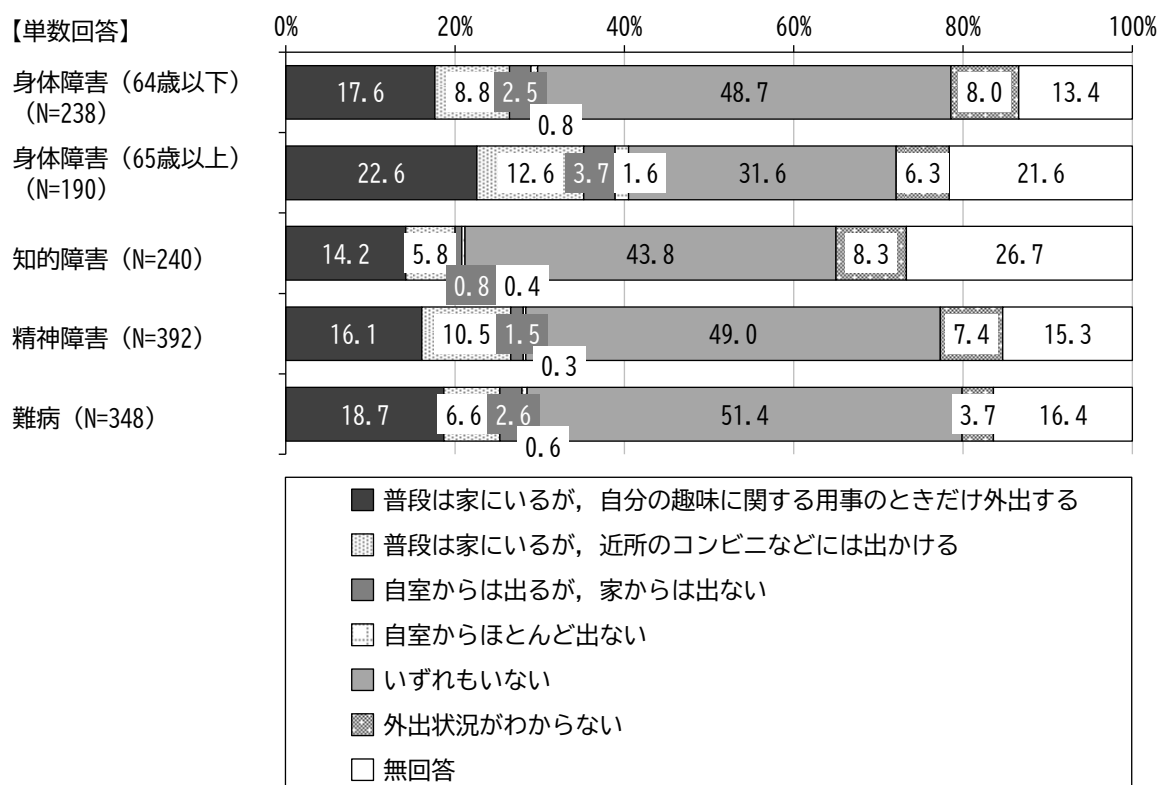
- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「病気」が最も多く、それぞれの割合は70.7%、56.5%、46.2%、68.6%、62.2%となっている。

【複数回答】



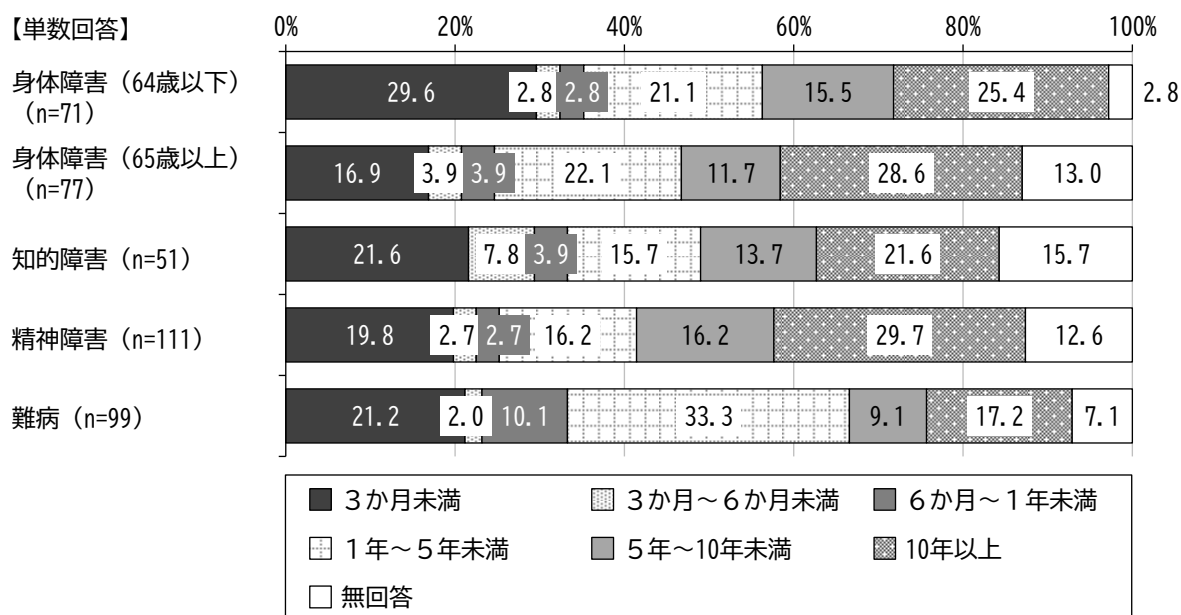
問 25 あなた以外で、市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「いずれもない」が最も多く、それぞれの割合は48.7%，31.6%，43.8%，49.0%，51.4%となっている。
- また、「いずれもない」を除くと、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」が多く、それぞれの割合は17.6%，22.6%，14.2%，16.1%，18.7%となっている。



付問1 問25で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、身体障害（64歳以下）は「3か月未満（29.6%）」、難病は「1年～5年未満（33.3%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）、精神障害は「10年以上」が最も多く、それぞれの割合は28.6%、29.7%となっている。
- 知的障害は「3か月未満」「10年以上」（21.6%）が同率となっている。

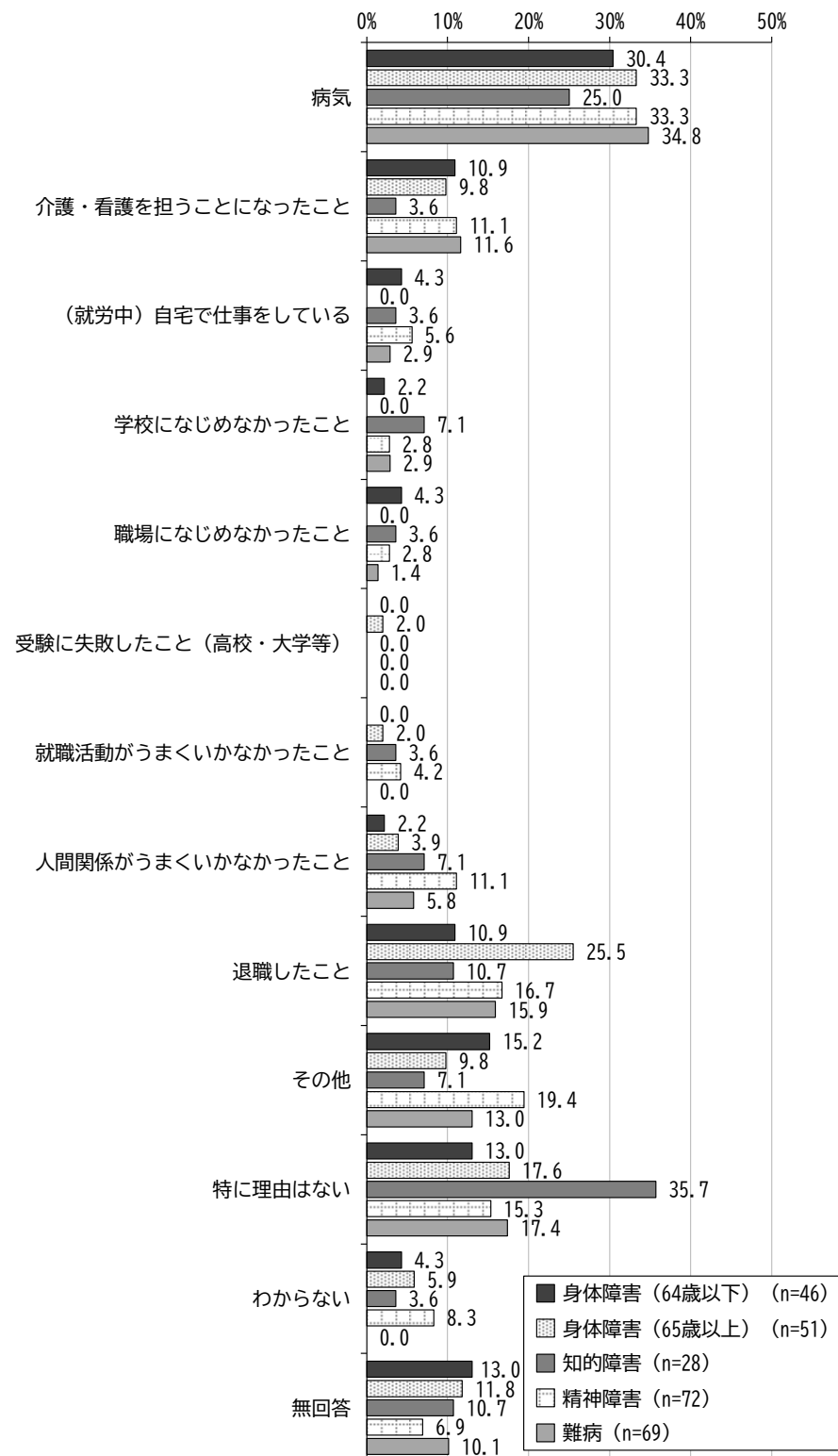


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「病気」が最も多く、それぞれの割合は 30.4%、33.3%、33.3%、34.8%となっている。
- 知的障害は「特に理由はない（35.7%）」が最も多くなっている。

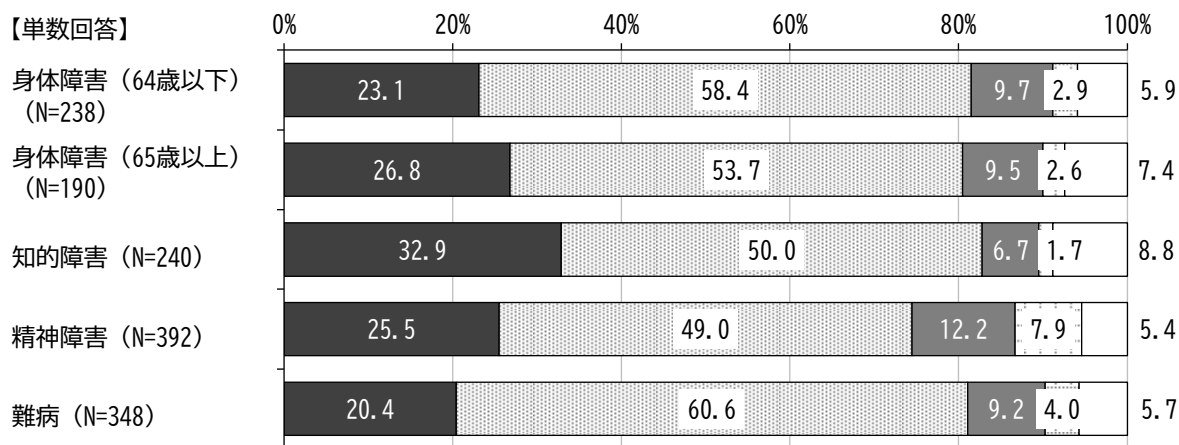
【複数回答】



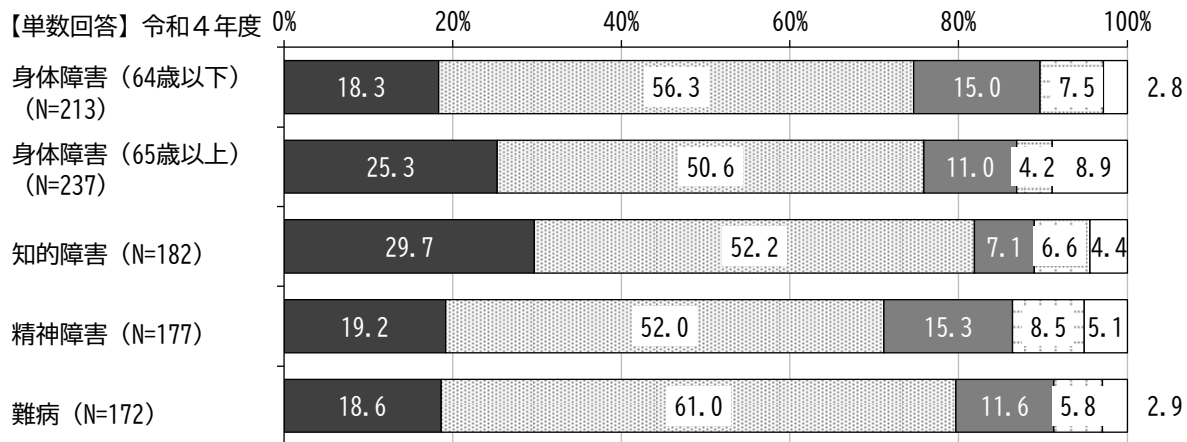
6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 26 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「住みやすいと思う」と「どちらかといえば、住みやすいと思う」を合わせた『住みやすいと思う』の割合が多く、それぞれの割合は81.5%、80.5%、82.9%、74.5%、81.0%となっている。
- 令和4年度調査の調査結果と比較すると、いずれの障害でも『住みやすいと思う』の割合が高くなっており、特に身体障害（64歳以下）で6.9ポイント高くなっている。



■住みやすいと思う □どちらかといえば、住みやすいと思う
 ■どちらかといえば、住みやすいと思わない □住みやすいと思わない
 □無回答

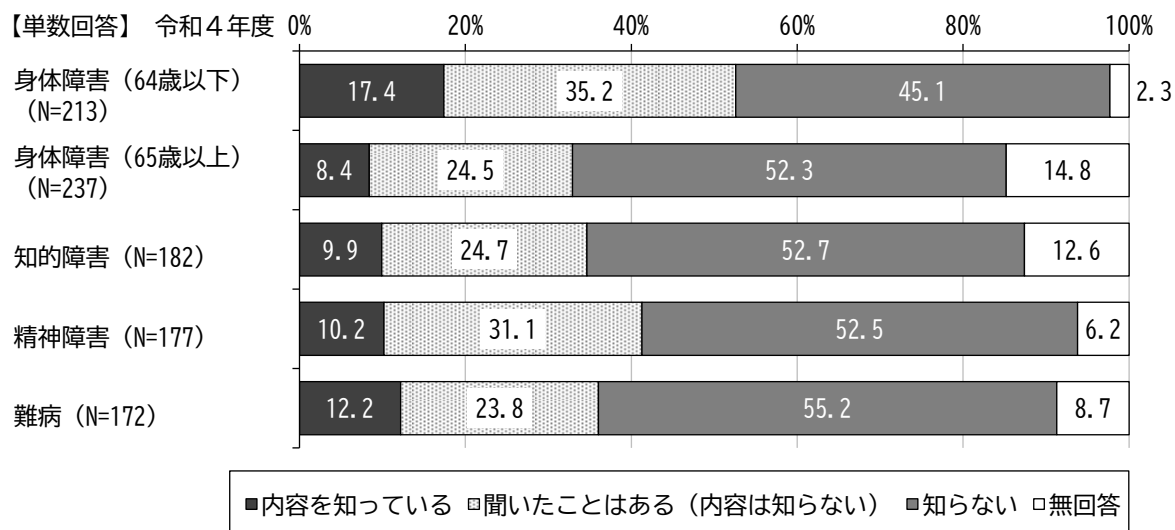
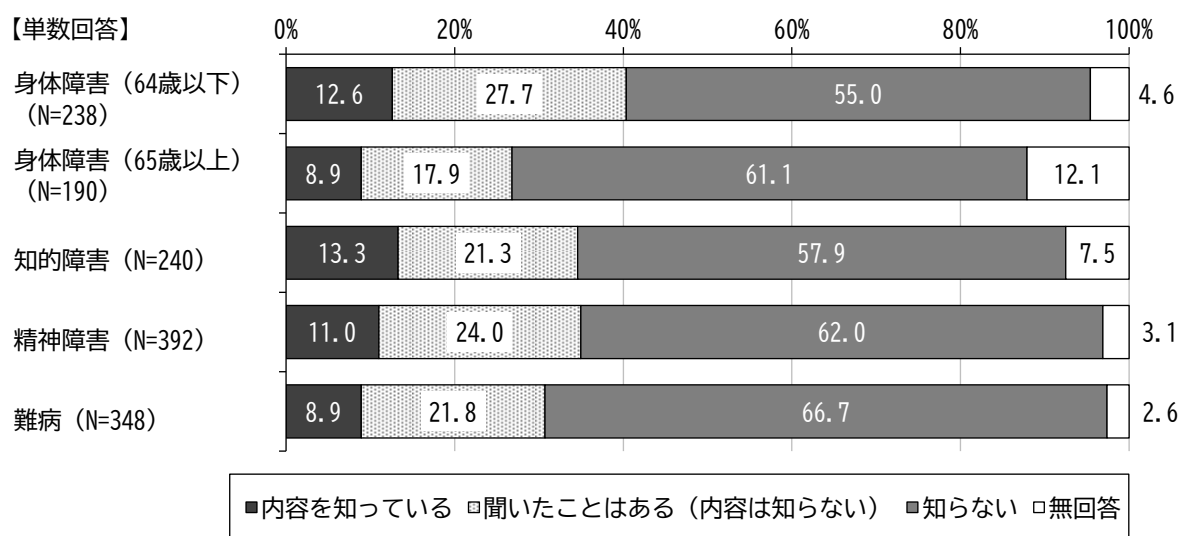


■住みやすいと思う □どちらかといえば、住みやすいと思う
 ■どちらかといえば、住みやすいと思わない □住みやすいと思わない
 □無回答

問 27 共生社会の充実のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

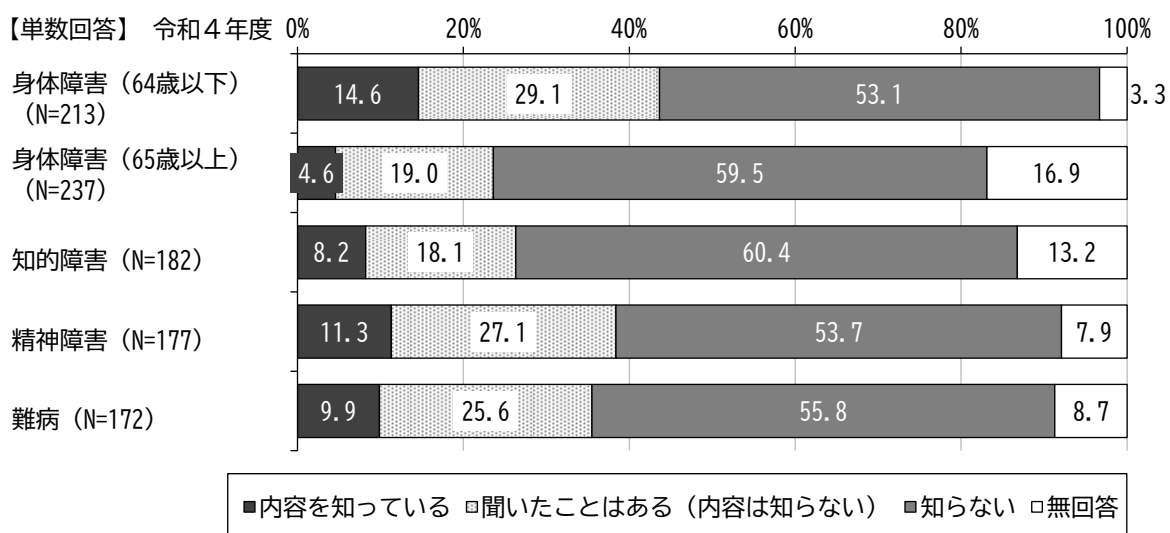
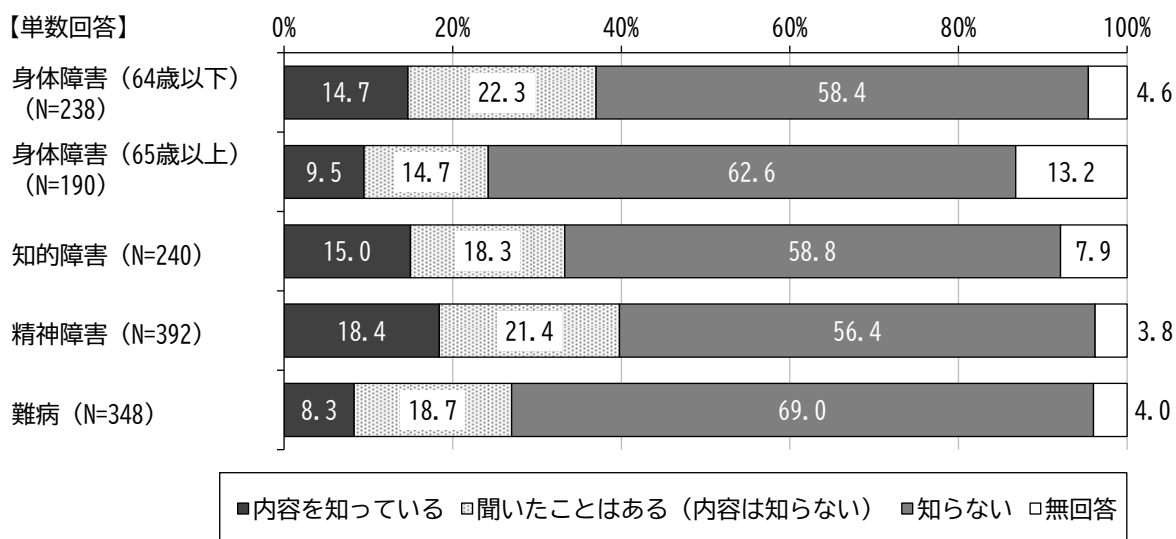
ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は12.6%，8.9%，13.3%，11.0%，8.9%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、いずれの障害でも「知らない」の割合が高くなっており、知的障害を除いて10ポイント近く高くなっている。



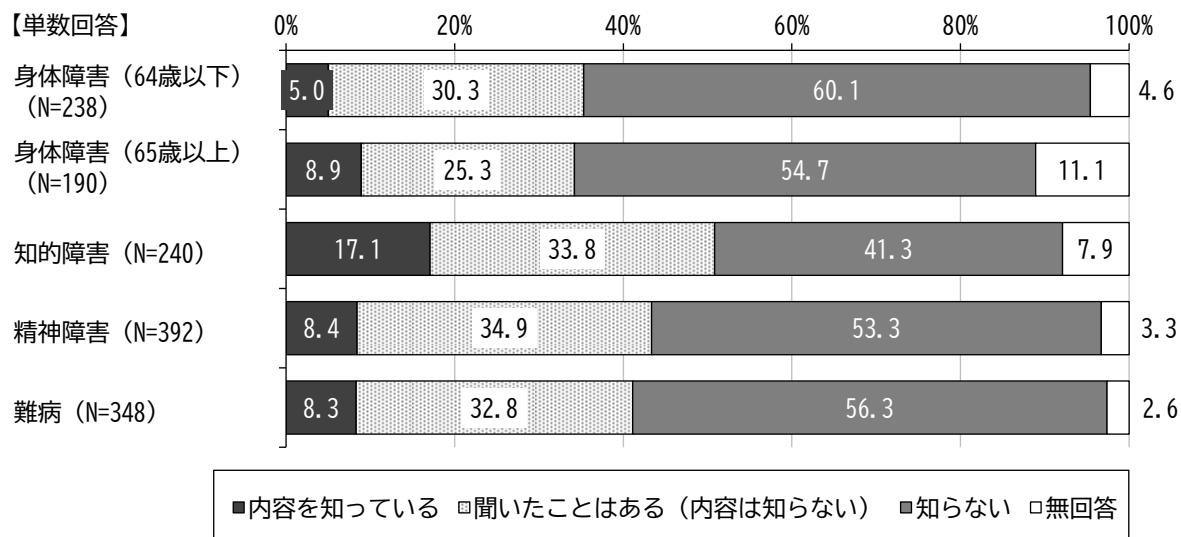
イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は14.7%、9.5%、15.0%、18.4%、8.3%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害において「内容を知っている」の割合が高くなっており、特に知的障害と精神障害で7.0ポイント近く高くなってきている。



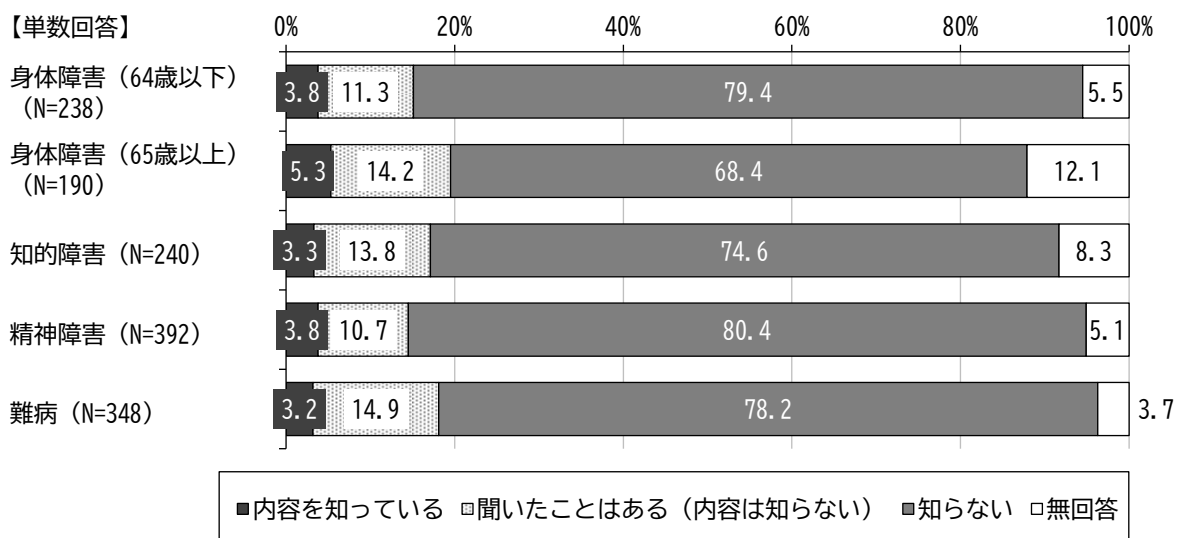
ウ パラハートちょうふ

- パラハートちょうふの認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は5.0％、8.9％、17.1％、8.4％、8.3％となっている。



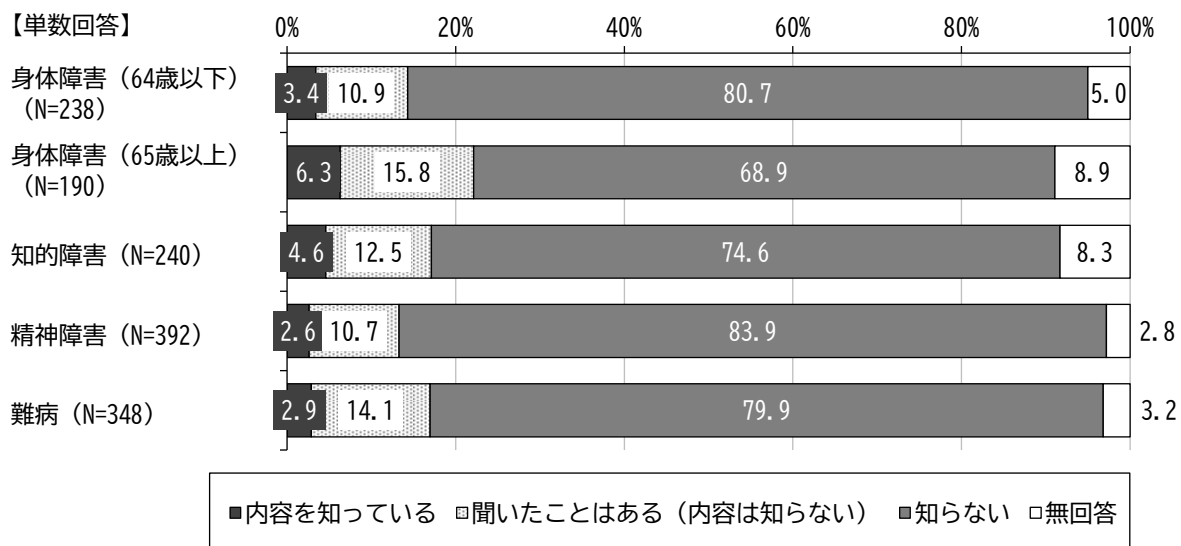
エ 調布市手話言語条例

- 調布市手話言語条例の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は3.8％、5.3％、3.3％、3.8％、3.2％となっている。



オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

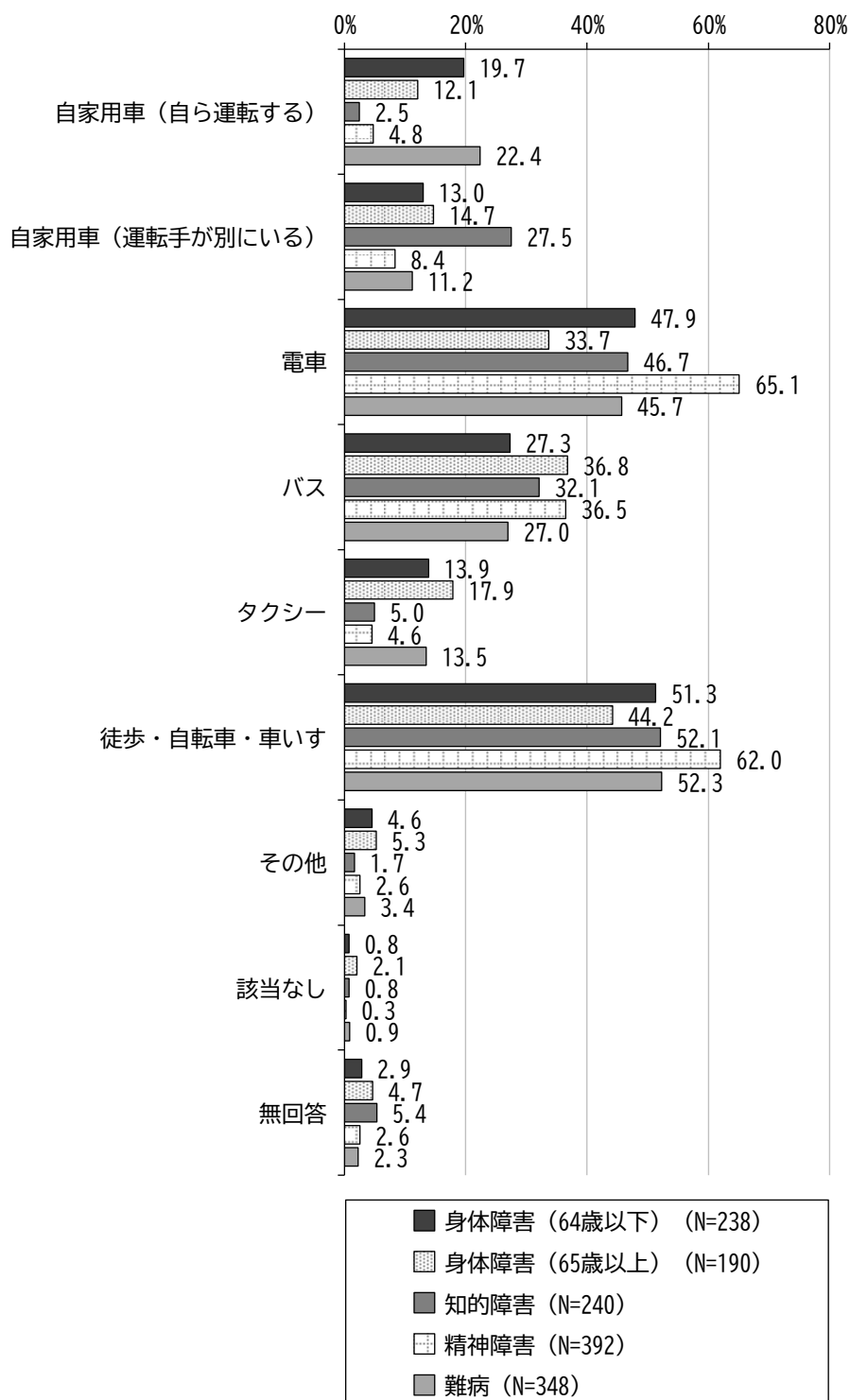
- 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は3.4%、6.3%、4.6%、2.6%、2.9%となっている。



問 28 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。(2つまで○)

- 外出時に使用している主な移動手段は、身体障害(64歳以下), 身体障害(65歳以上), 知的障害, 難病は「徒歩・自転車・車いす」が最も多く, それぞれの割合は 51.3%, 44.2%, 52.1%, 52.3%となっている。
- 精神障害は「電車 (65.1%)」が最も多くなっている。

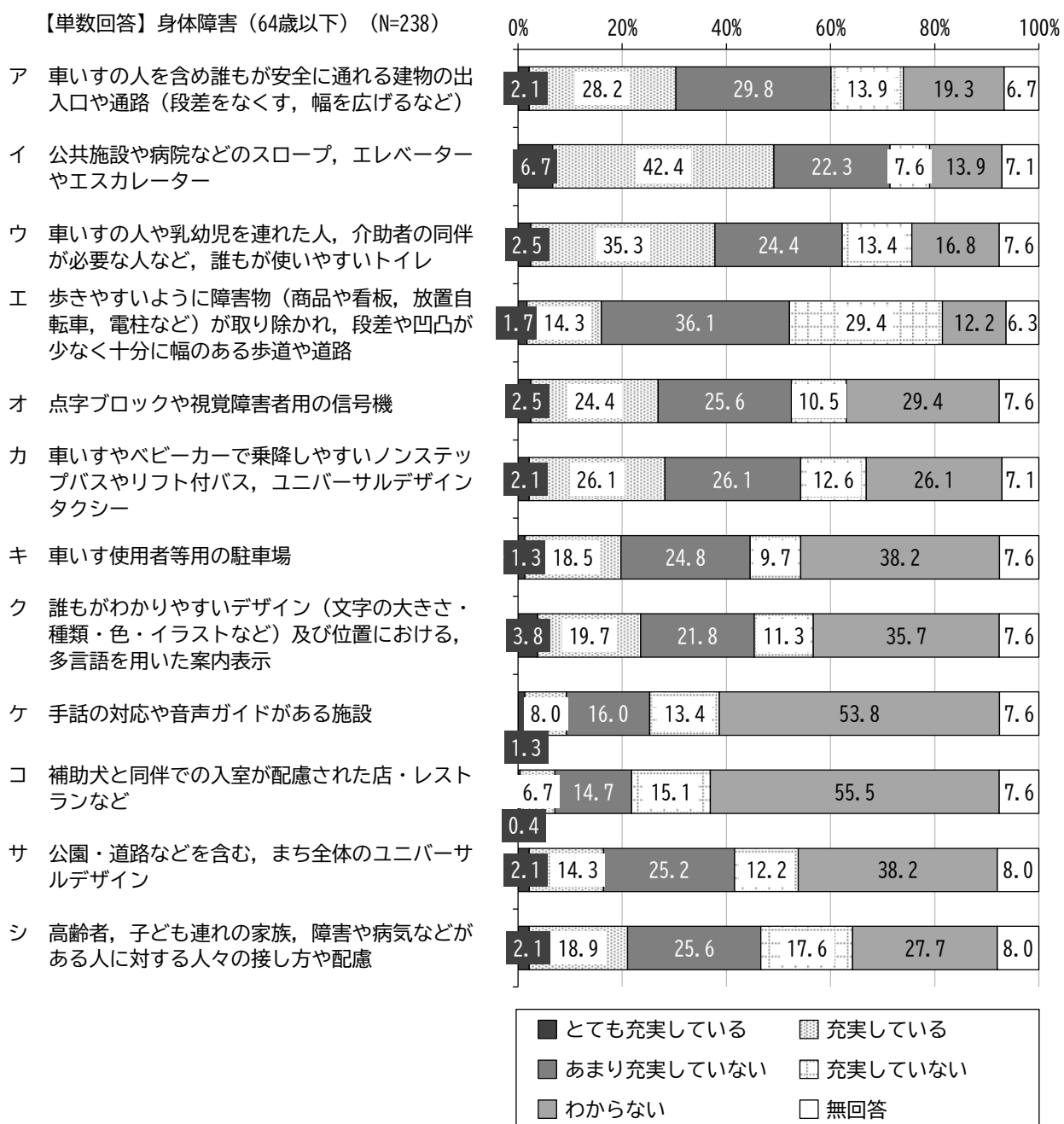
【複数回答】



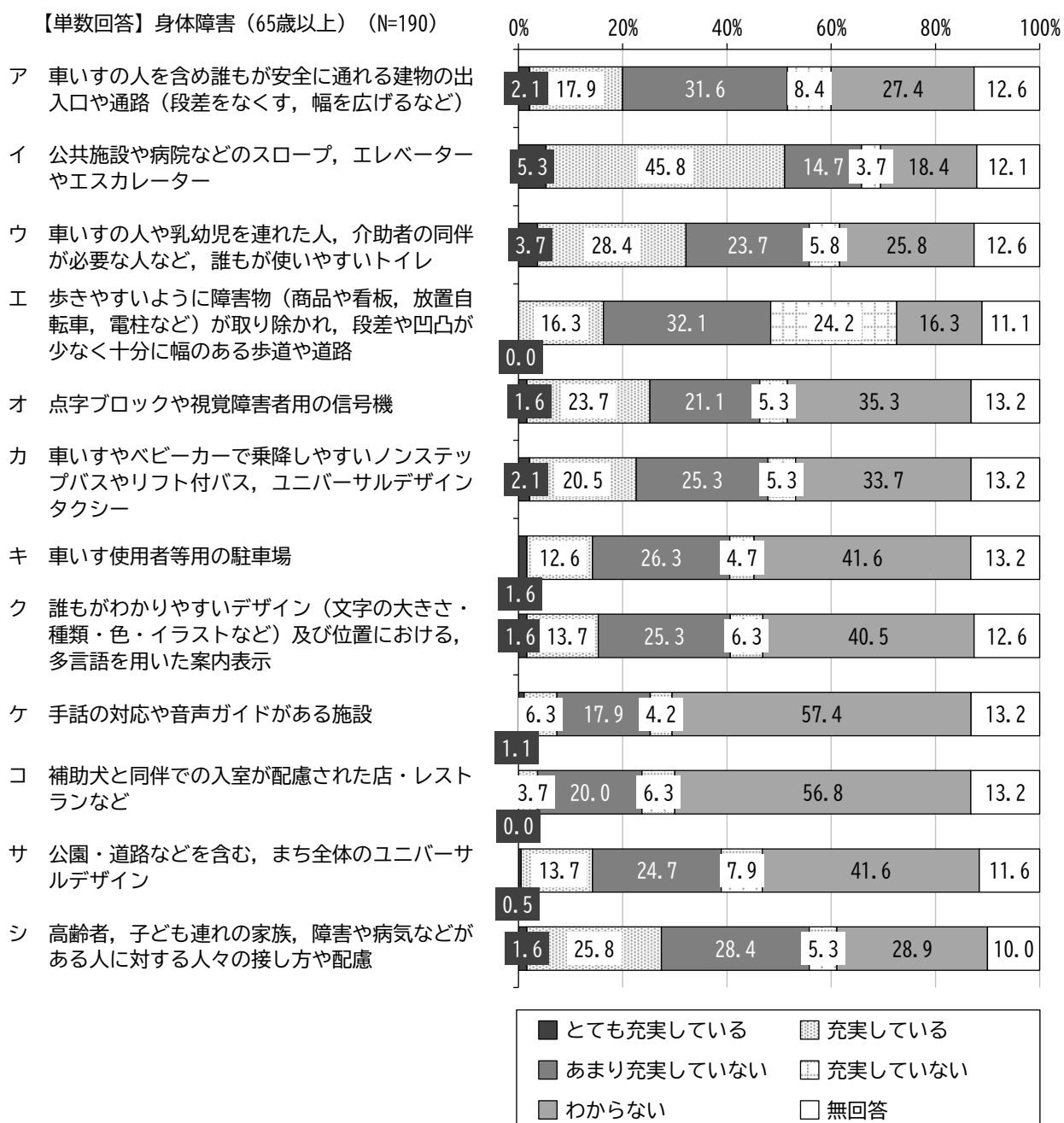
問 29 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合をみる。
- 身体障害（64 歳以下）で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（49.1%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（37.8%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（65.5%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（43.7%）]が多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上）で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（51.1%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（32.1%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（56.3%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（40.0%）]が多くなっている。
- 知的障害で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（47.5%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（38.0%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（45.0%）]、[シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（30.1%）]が多くなっている。
- 精神障害で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（46.9%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（38.0%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（44.7%）]、[シ 高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（37.0%）]が多くなっている。
- 難病で『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（50.5%）]、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（34.2%）]が多くなっている。一方、『充実していない』は[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（62.1%）]、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（44.8%）]が多くなっている。

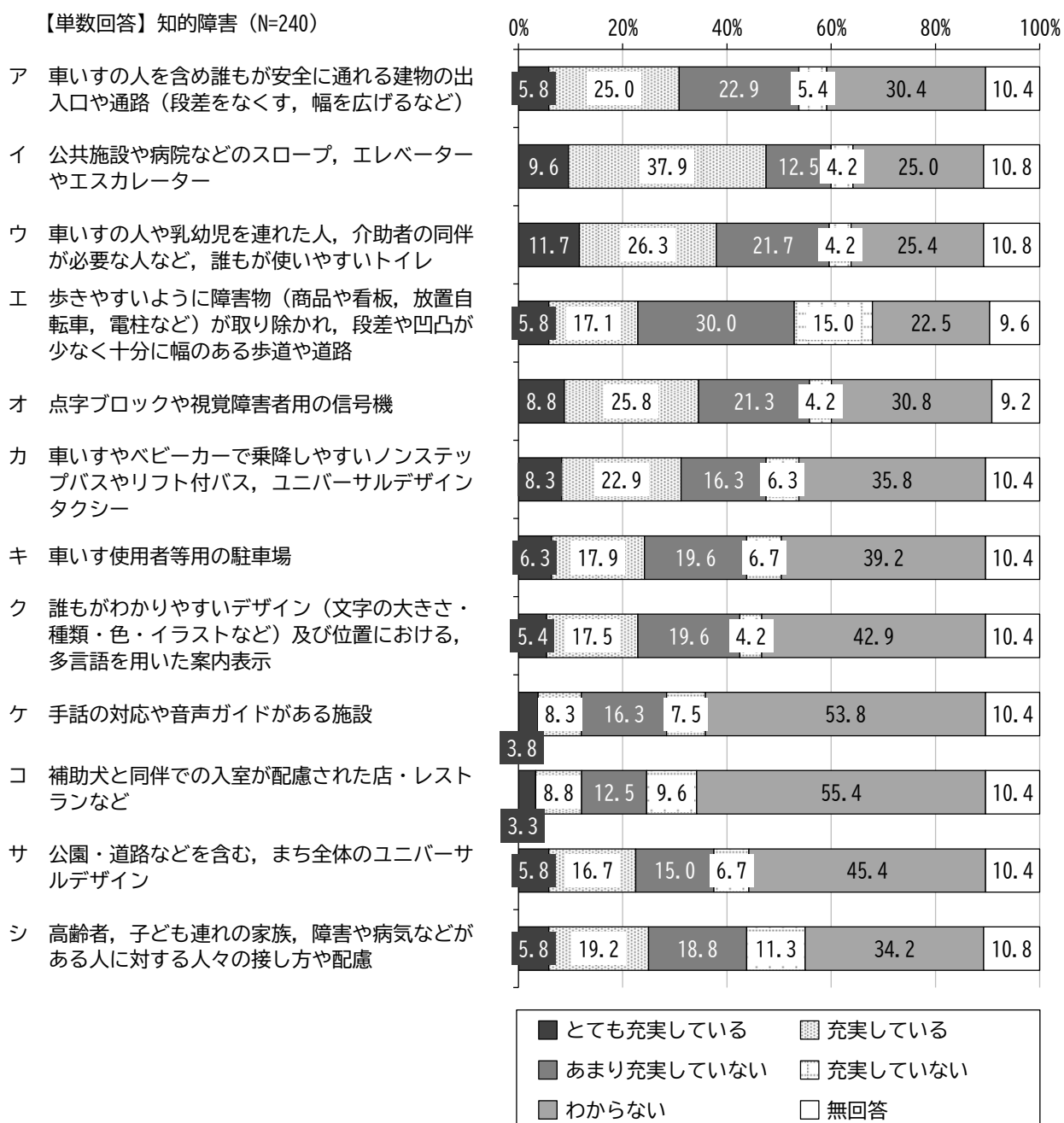
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



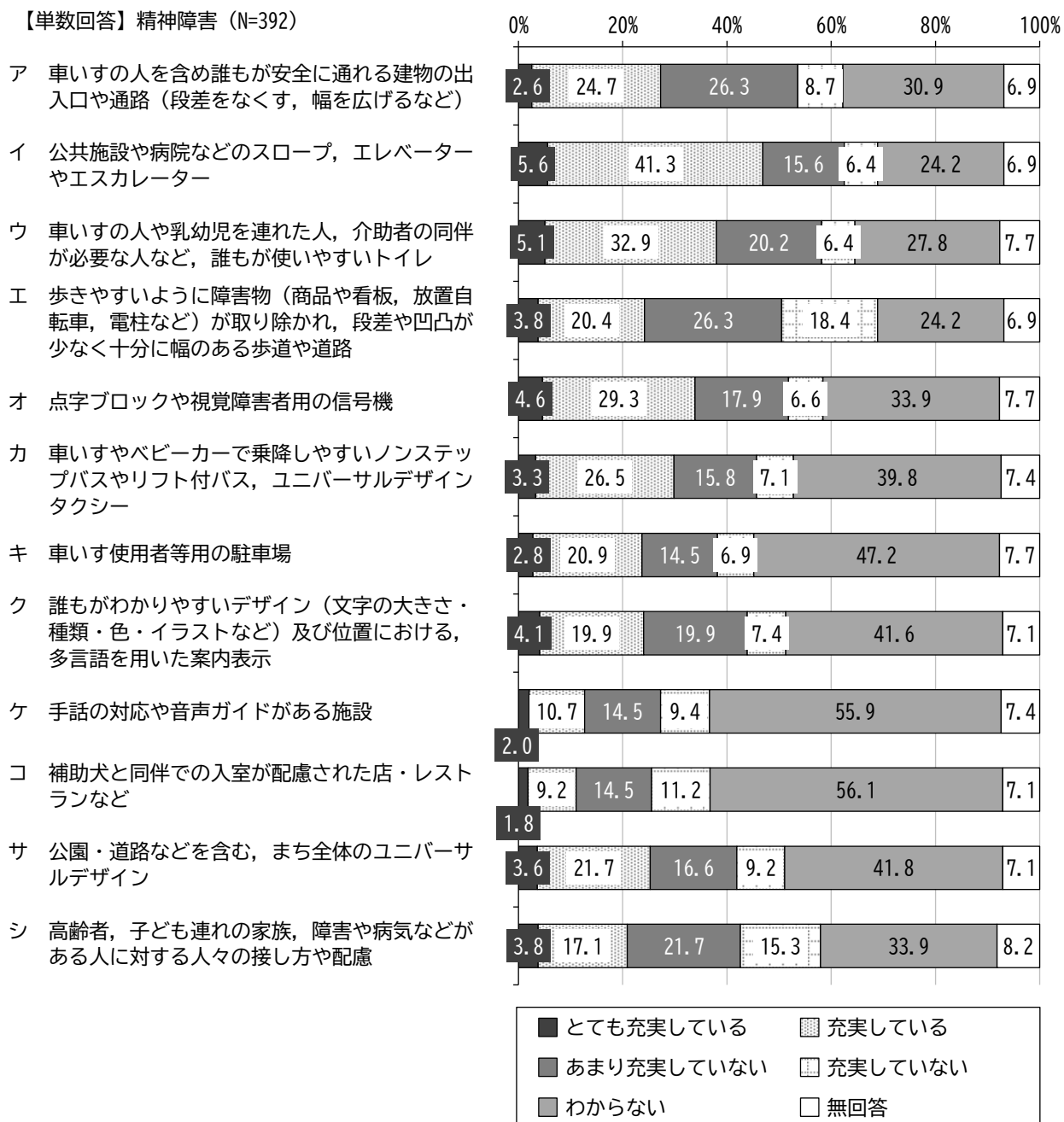
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



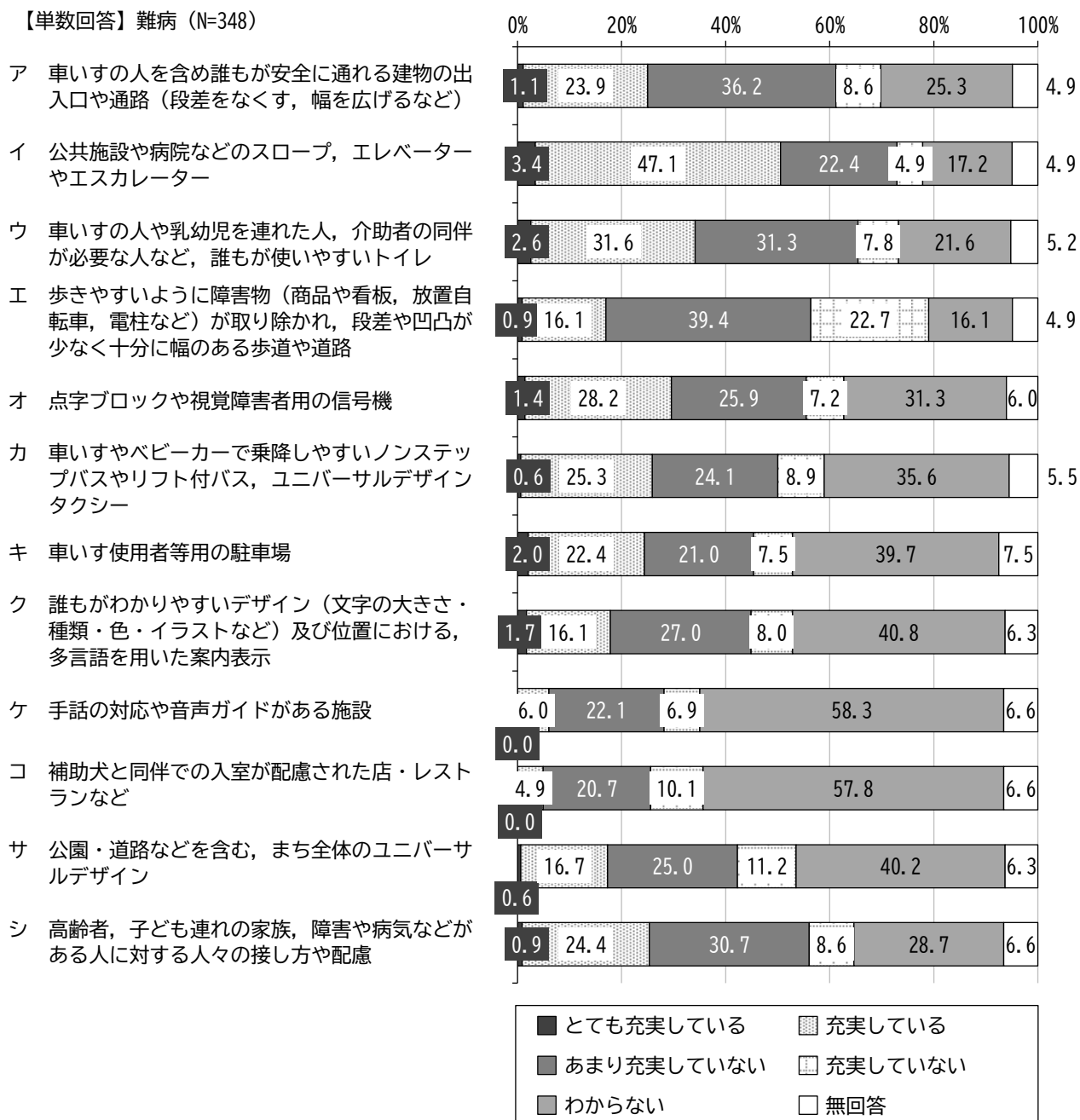
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）



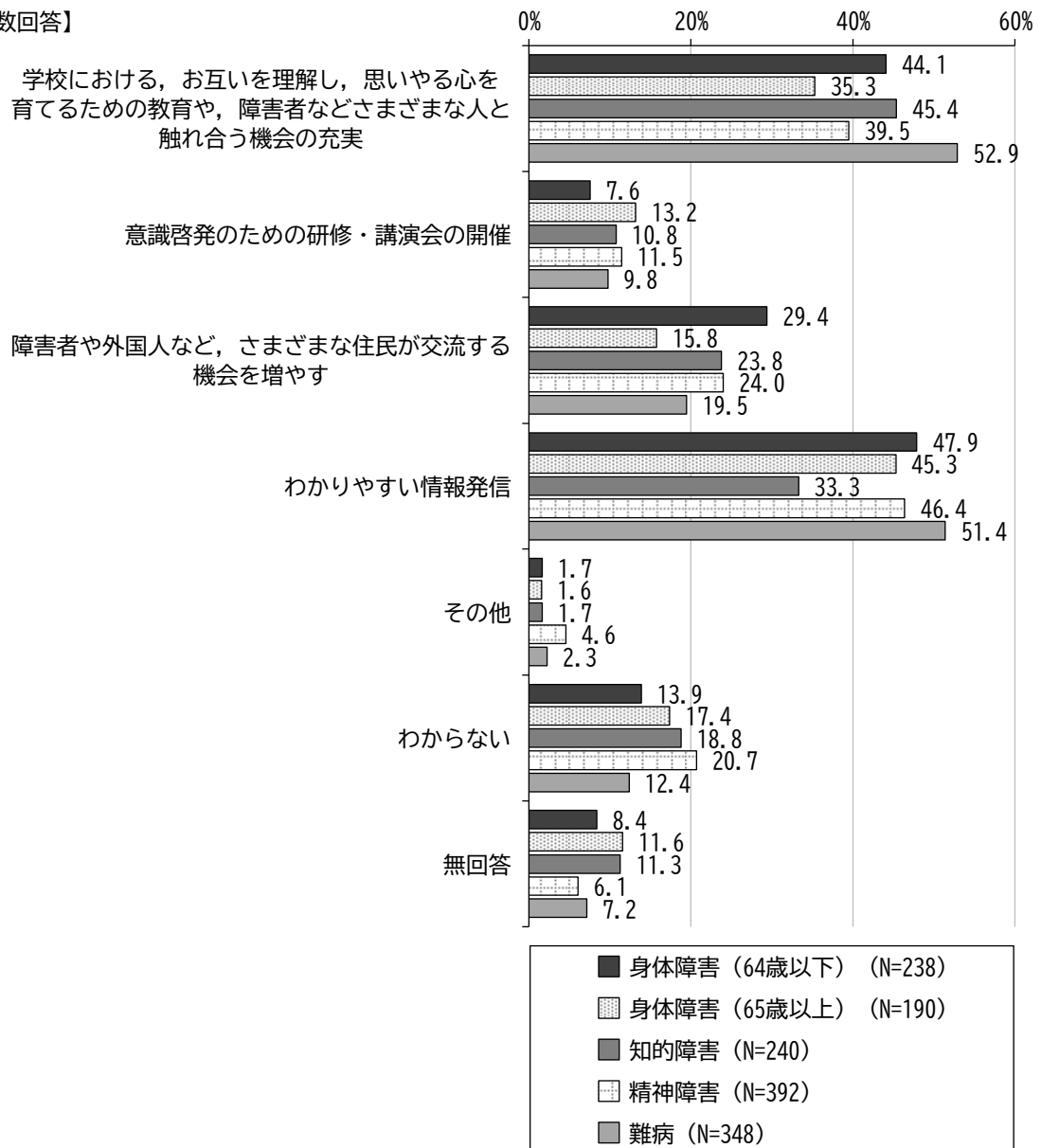
【単数回答】難病（N=348）



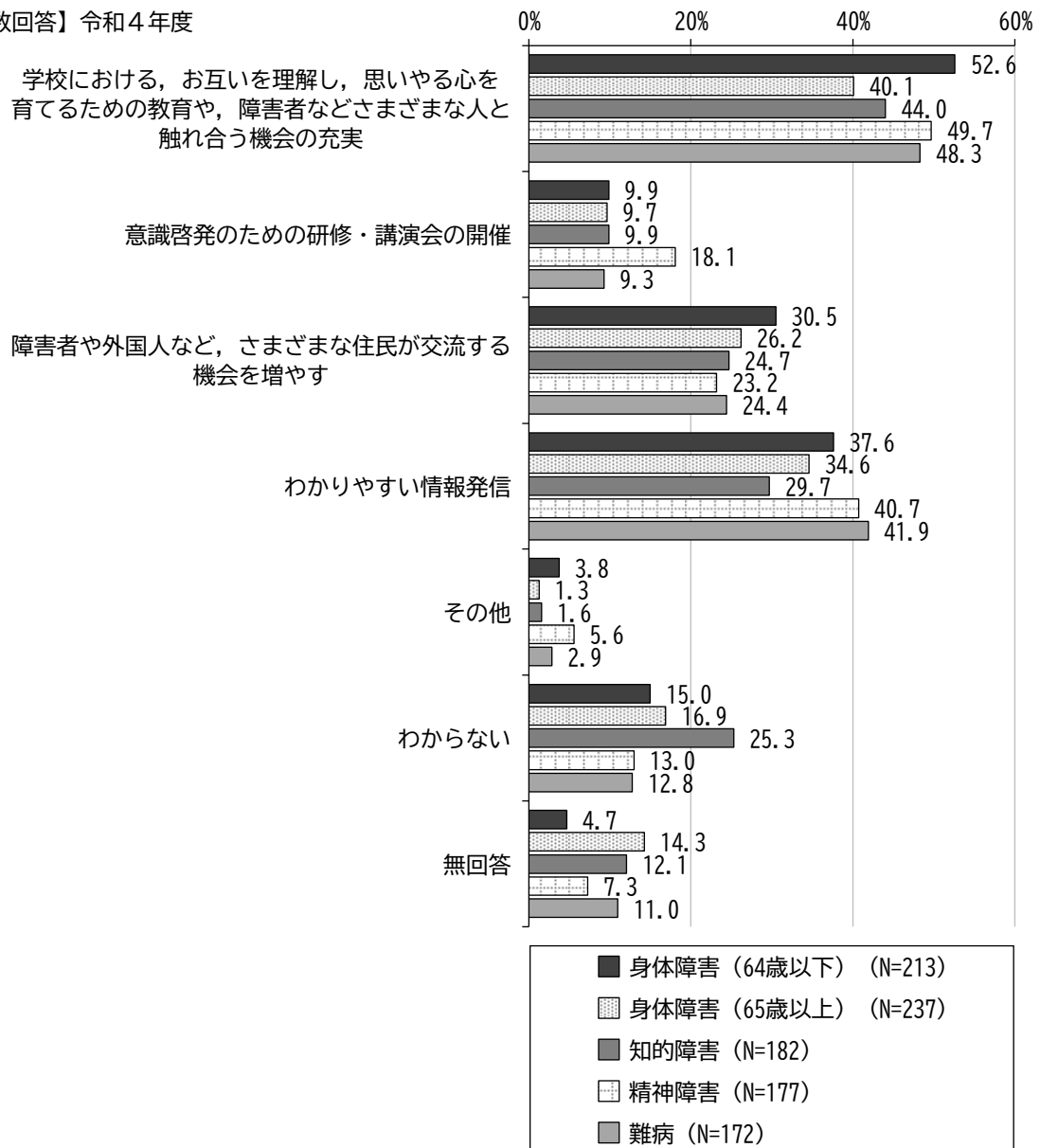
問 30 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、精神障害は「わかりやすい情報発信」が最も多く、それぞれの割合は 47.9%、45.3%、46.4%となっている。
- 知的障害、難病は「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多く、それぞれの割合は 45.4%、52.9%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「わかりやすい情報発信」が 10.3 ポイント高く、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が 8.5 ポイント低くなっている。身体障害（65 歳以上）で「わかりやすい情報発信」が 10.7 ポイント高く、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす」が 10.4 ポイント低くなっている。知的障害で「わからない」が 6.5 ポイント低くなっている。精神障害で「わからない」が 7.7 ポイント、「わかりやすい情報発信」が 5.7 ポイント高く、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が 10.2 ポイント、「意識啓発のための研修・講演会の開催」が 6.6 ポイント低くなっている。難病で「わかりやすい情報発信」が 9.5 ポイント高くなっている。

【複数回答】



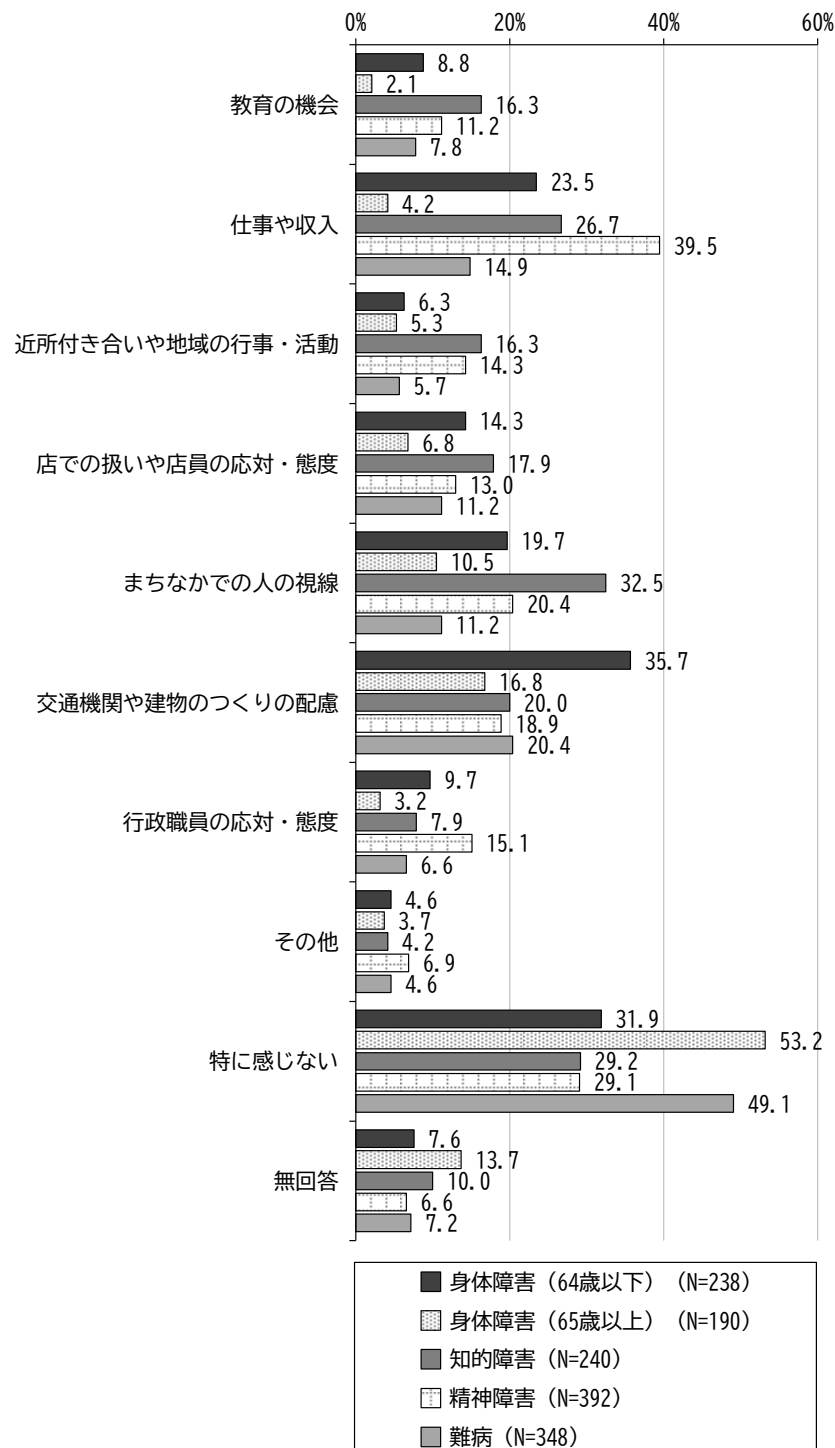
【複数回答】令和4年度



問 31 普段の暮らしや外出のとき，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）

- 障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，身体障害（64 歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮（35.7%）」，知的障害は「まちなかでの人の視線（32.5%）」，精神障害は「仕事や収入（39.5%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65 歳以上），難病は「特に感じない」が最も多く，それぞれの割合は 53.2%，49.1%となっている。

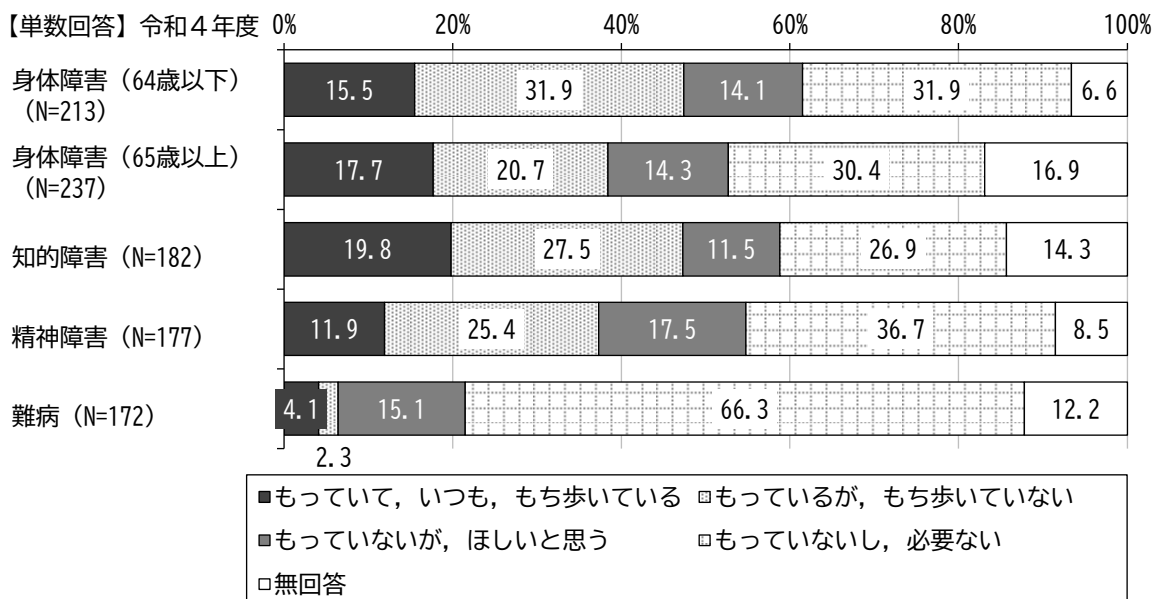
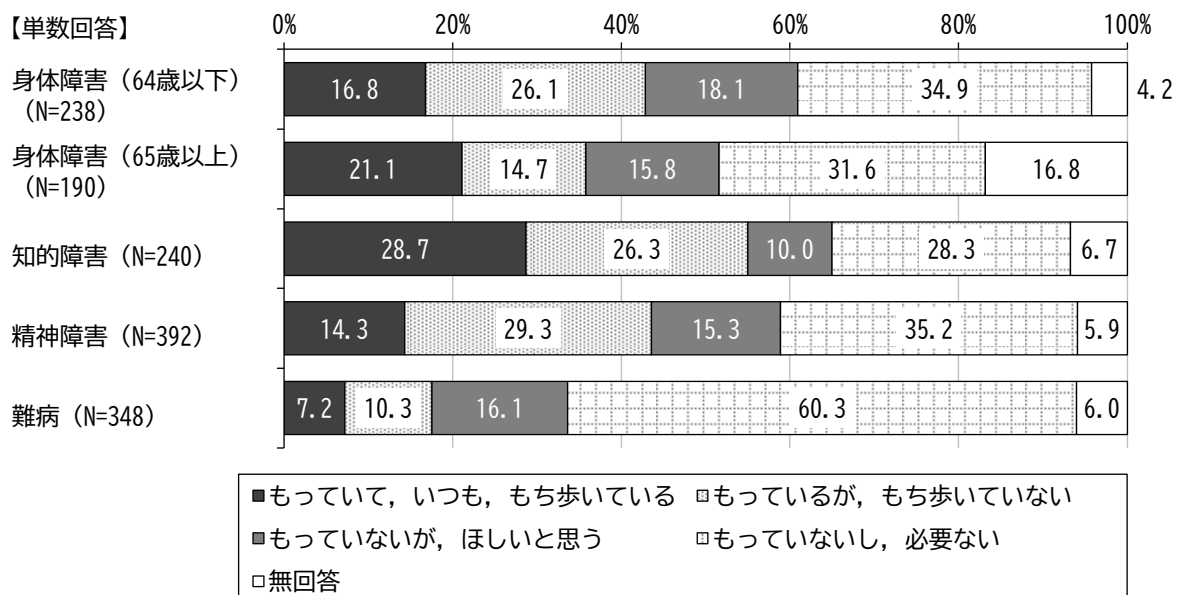
【複数回答】



問 32 あなたは、調布市が配布しているヘルプカード、ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれ1つに○)

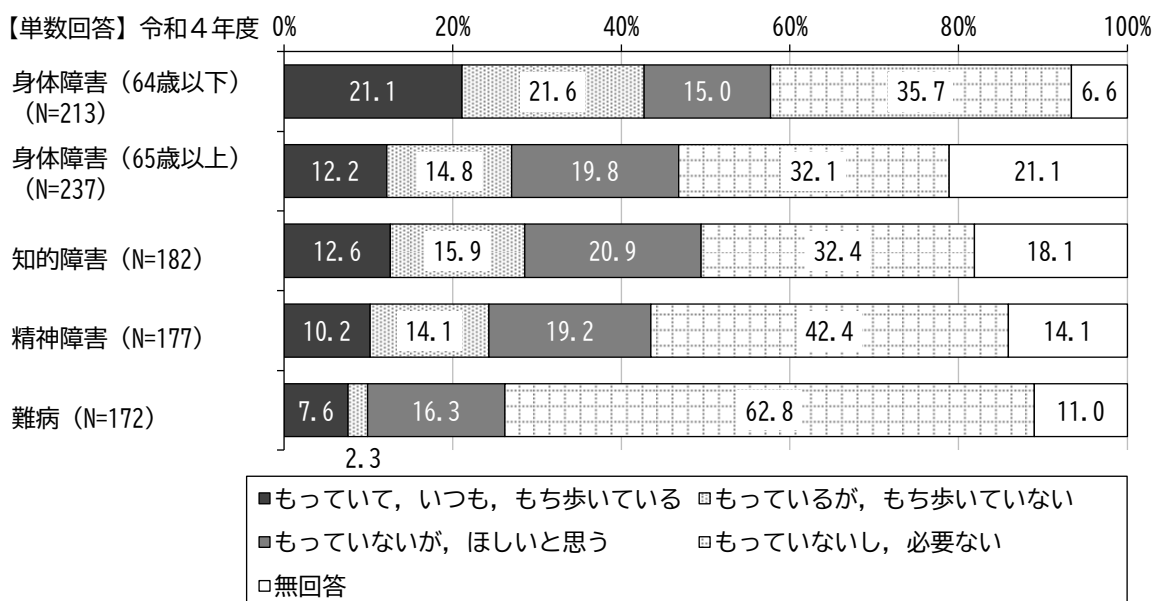
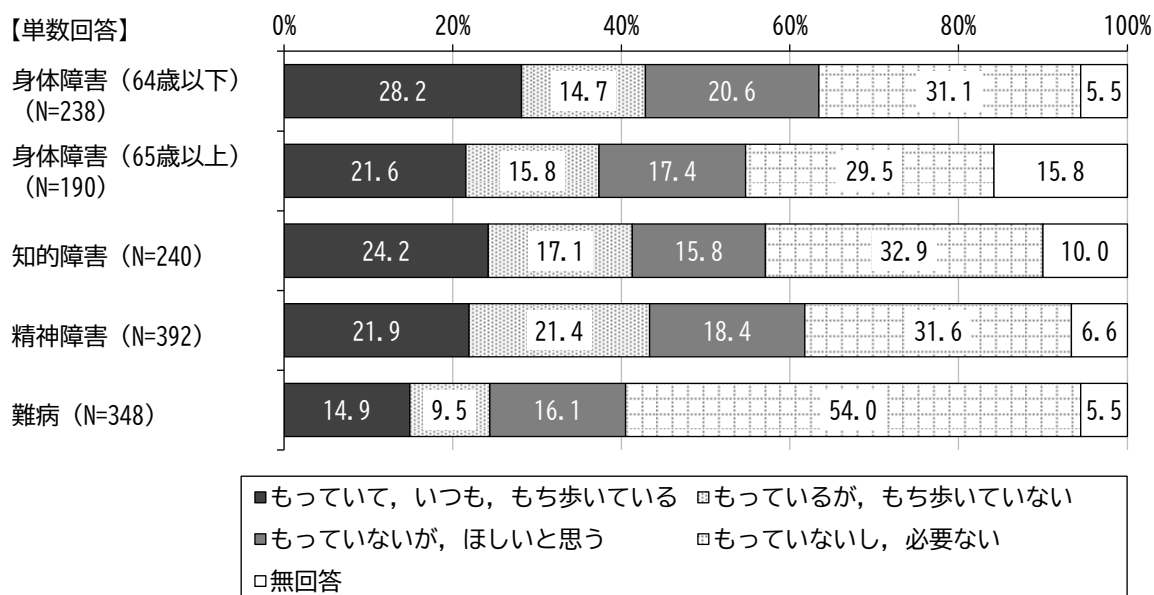
①ヘルプカード

- ヘルプカードの所持状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「もっていないし、必要ない」が最も多く、難病では6割を超えている。
- 知的障害は「もっていて、いつも、もち歩いている（28.7%）」が最も多くなっている。
- 「もっていて、いつも、もち歩いている」と「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないが、ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は、61.0%、51.6%、65.0%、58.9%、33.6%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、いずれの障害も「もっていて、いつも、もち歩いている」の割合が高くなっており、特に知的障害で8.9ポイント高くなっている。



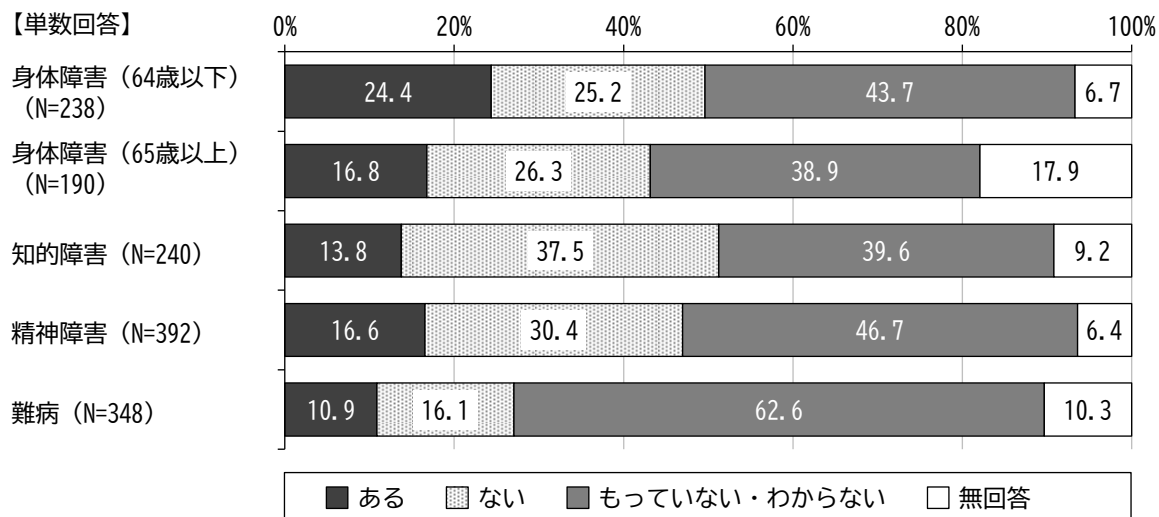
②ヘルプマーク

- ヘルプマークの所持状況は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「もっていないし、必要ない」が最も多く、難病では5割を超えている。
- 「もっていて、いつも、もち歩いている」と「もっているが、もち歩いていない」と「もっていないが、ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は、63.5%、54.8%、57.1%、61.7%、40.5%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、いずれの障害も「もっていて、いつも、もち歩いている」の割合が高くなっており、特に知的障害と精神障害では12ポイント近く高くなっている。



問 33 ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「もっていない・わからない」が最も多くなっている。「ある」について、それぞれの割合は 24.4%，16.8%，13.8%，16.6%，10.9%となっている。

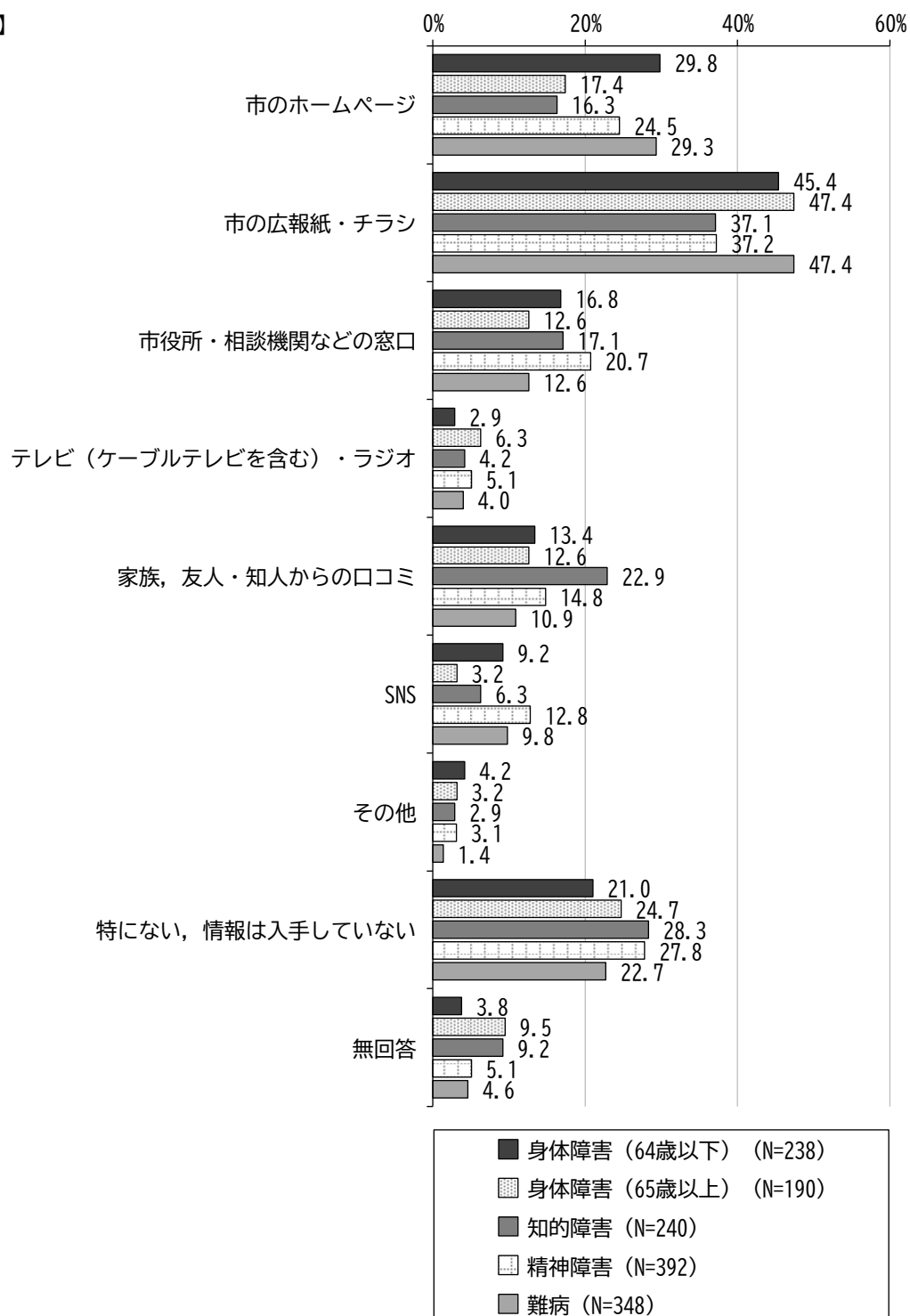


7 デジタルの活用についておたずねします

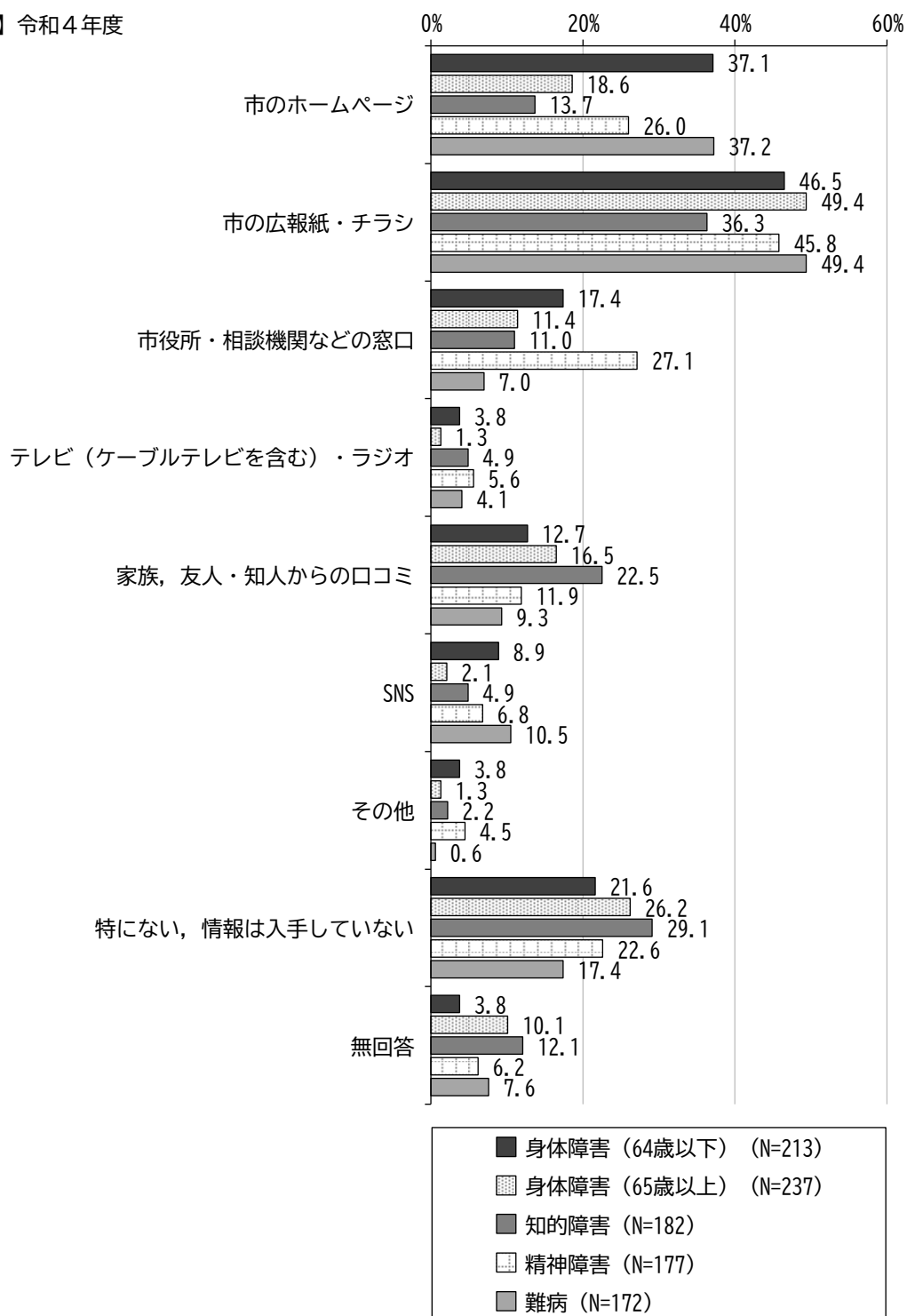
問 34 調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。
（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「市の広報紙・チラシ」が最も多く、それぞれの割合は 45.4%，47.4%，37.1%，37.2%，47.4%となっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、身体障害（64 歳以下）で「市のホームページ」が 7.3 ポイント低くなっている。知的障害で「市役所・相談機関などの窓口」が 6.1 ポイント高くなっている。精神障害で「SNS」が 6.0 ポイント、「特にない、情報は入手していない」が 5.2 ポイント高く、「市の広報紙・チラシ」が 8.6 ポイント、「市役所・相談機関などの窓口」が 6.4 ポイント低くなっている。難病で「市役所・相談機関などの窓口」が 5.6 ポイント、「特にない、情報は入手していない」が 5.3 ポイント高く、「市のホームページ」が 7.9 ポイント低くなっている。

【複数回答】

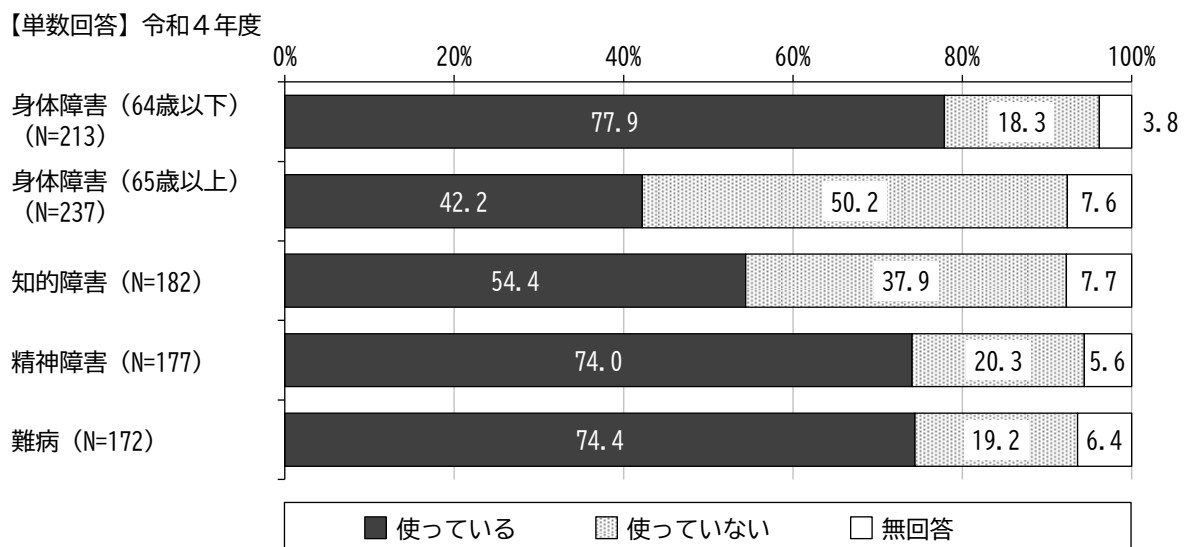
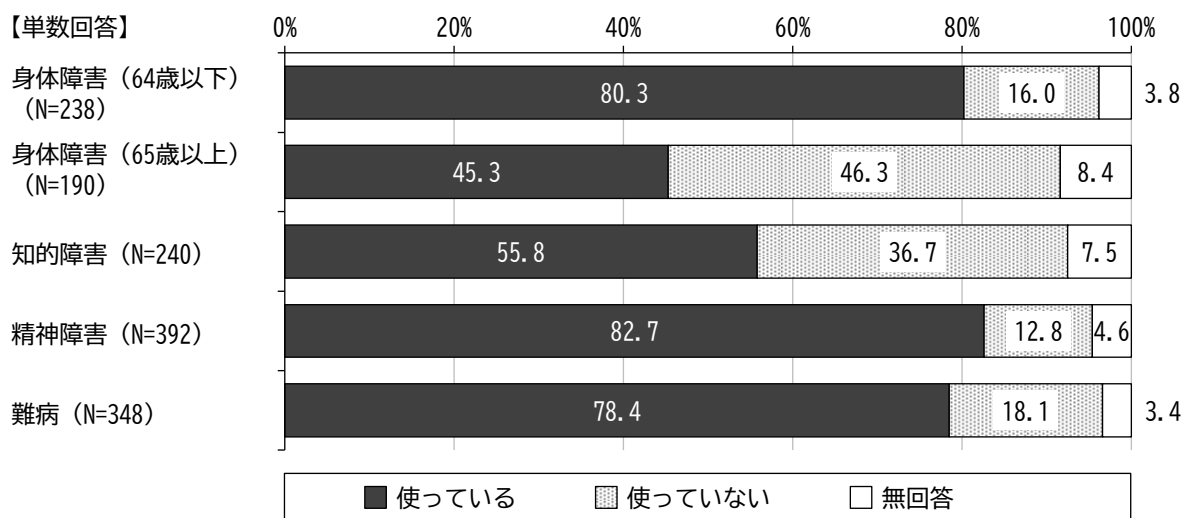


【複数回答】令和4年度



問 35 普段、スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていますか。
(1つに○)

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどの使用状況は、身体障害（64 歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「使っている」が多く、それぞれの割合は 80.3%，55.8%，82.7%，78.4%となっている。
- 身体障害（65 歳以上）は「使っていない（46.3%）」が多くなっている。
- 令和 4 年度の調査結果と比較すると、精神障害で「使っている」が 8.7 ポイント高くなっている。



問 36 あなたがスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。(自由記述)

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、155 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
ア デジタルの活用	①イベント、講演等のオンライン化 ②デジタル化への対応 ③障害者同士の交流、働き方 ④情報収集 ⑤アプリの活用	70
イ 市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②市の情報提供の充実 ③防犯・防災情報の充実	58
ウ その他	①デジタル化の懸念	27
合計		155

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

ア デジタルの活用

①イベント、講演等のオンライン化

- LINEの機能で障害者、子育て、などそれぞれの属性登録ができるならそれを使って各人にあった情報を発信してもらえたらわかりやすくいい。図書館の読書記録帳みたいなのがあるといいなと思っています。(他自治体であるらしい)図書館のスタンプラリーのような催しに楽しく参加しているので、もう少し予算を回してほしいです。土日ワンオペ民にはおはなし会や児童館のオープンパークなどとてもありがたいです。(女性、30 歳代)
- たとえば、Web上で俳句や川柳や和歌、小説、絵画、音楽、プログラミングなどのコンテストなどを開いて、障害者が誰でも応募できるようにする。それにより、障害者の生活の充実やモチベーションを高めることにつなげる。それが病気や障害の克服へとつながり、生きる意欲も湧くのではないかと思います。(男性、50 歳代)

②デジタル化への対応

- 口頭では伝えづらいこともスマートフォンなら伝えやすいかなと思ったりはする。ただスマートフォンが使えなくなった時の対処法も知りたいです。(故障したり、WiFiファイが使えないときなど。)(女性、50 歳代)
- 利便性を高める前の前提で使いこなせる勉強会みたいな機会をもっと増やしてほしい。(女性、60 歳代)
- スマートフォンやパソコンなど使用が(デジタル社会が)必然的になった。個々の状況に合わせた利用方法の講習、必要であれば出張講習なども必要かと思う。介助や介

護支援や種々サポートと合わせて行う事で効率化出来るのではと考える。(女性, 70 歳代)

③障害者同士の交流, 働き方

- 調布市内や多摩地域などで, 障害持っている方用の SNS を作る。ライングループや質問, スポーツなど全体的に色々な事が話せたり情報発信できる SNS。(女性, 30 歳代)
- 在宅ワークの種類が増えたら活用して仕事をしたい。(女性, 50 歳代)
- このアンケートのようにネット上でできる手続きが増えると, 対面や電話, 書類の郵送などを負担に感じる人の選択肢が増えていいと思った。また, 私は人とのコミュニケーションが苦手なので, 市内で共通の趣味をもつ人でつながれるなど, ネットでのやりとりから人とのつながりをつくることができればよいと思った。(男性, 20 歳代)

④情報収集

- 市政やサービスの確認に使いたいと思います。(女性, 80 歳以上)
- 障がいがある人に有益な情報を調べる。(女性, 40 歳代)

⑤アプリの活用

- スマホで障害手帳所有者と提示できる画面表示が欲しい。(男性, 60 歳代)
- 医療機関の受診などのサービスをスマートフォンやパソコンで受けたい。そのための安全なアプリ, プラットフォームを作って欲しい。(男性, 30 歳代)
- ・玄関ドアの開閉/施錠がスマホでできる(賃貸物件)・介護事業所(障害福祉)の空き, 受け入れ状況がウェブで見える・訪問系事業所のサービスの質やスタッフの評判が事前にウェブで見れる(民間の店舗の口コミがウェブで見れるのと同じように)
(女性, 40 歳代)
- スマートフォンにヘルプカード的な機能があればありがたい。(男性, 50 歳代)
- 障害者本人が簡単に福祉相談窓口にアクセスできたり, 医療機関の予約や診察などができるような機能があると嬉しいです。親亡き後も軽度知的障害者が地域で安心して暮らしていけるような分かりやすいもの。(女性, 20 歳代)

イ 市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 行政の手続き。(男性, 40 歳代)
- 住民票や課税証明書の取得をネットで出来るようになれば良いと思います。料金やクレジット, ペイペイなどで払えるようにして書類は郵送など(もしくはペーパーレス)。指定のメールアドレスにデータ送信など。難病の医療証の更新などもネットで手続きが出来るとなると助かります(写真を撮ってデータ送信など)。(女性, 40 歳代)
- 手帳のアプリ化(女性, 20 歳代)
- 福祉関連手続きのデジタル化。マイナンバーカードを活用するなどしてオンラインで完結できる手続きが増えると良い。(男性, 50 歳代)

②市の情報提供の充実

- 調布市の子育て、福祉で必要な情報をLINE等のSNSで届ける。お店のバリアフリー、子連れOKな所、子供の療育も民間でどんな所が有るか知りたい。療育はセンターに行っているが民間に有る事を知らなかった。(女性, 30 歳代)
- 歯科, 眼科, 耳鼻科, 皮膚科, 床屋など知的障害に理解のあるところを調べられるホームページ。(男性, 20 歳代)
- 施設のエレベーターなどの設置がわかるといいですね。(男性, 40 歳代)
- 少なくとも調布市のHPは昔から見づらい。過去のアーカイブが残っているのはいいことだと思うが検索性が低すぎる故に欲しい最新の情報が取捨しにくい。(女性, 50 歳代)

③防犯・防災情報の充実

- 緊急時にすぐ通知がくるようにしてほしい。(男性, 10 歳代)
- わかりやすい言葉で書かれた(小学生低学年～中学年)案内, 災害時の避難経路, どこに行けば良いのか, 誰に連絡を取れば良いのか, 電話が繋がらない時どうすれば良いのか, 困った時にどうしたら良いか(ここへ行って下さいなど)の発信を市民に向けにしてほしい。(男性, 20 歳代)

ウ その他

①デジタル化の懸念

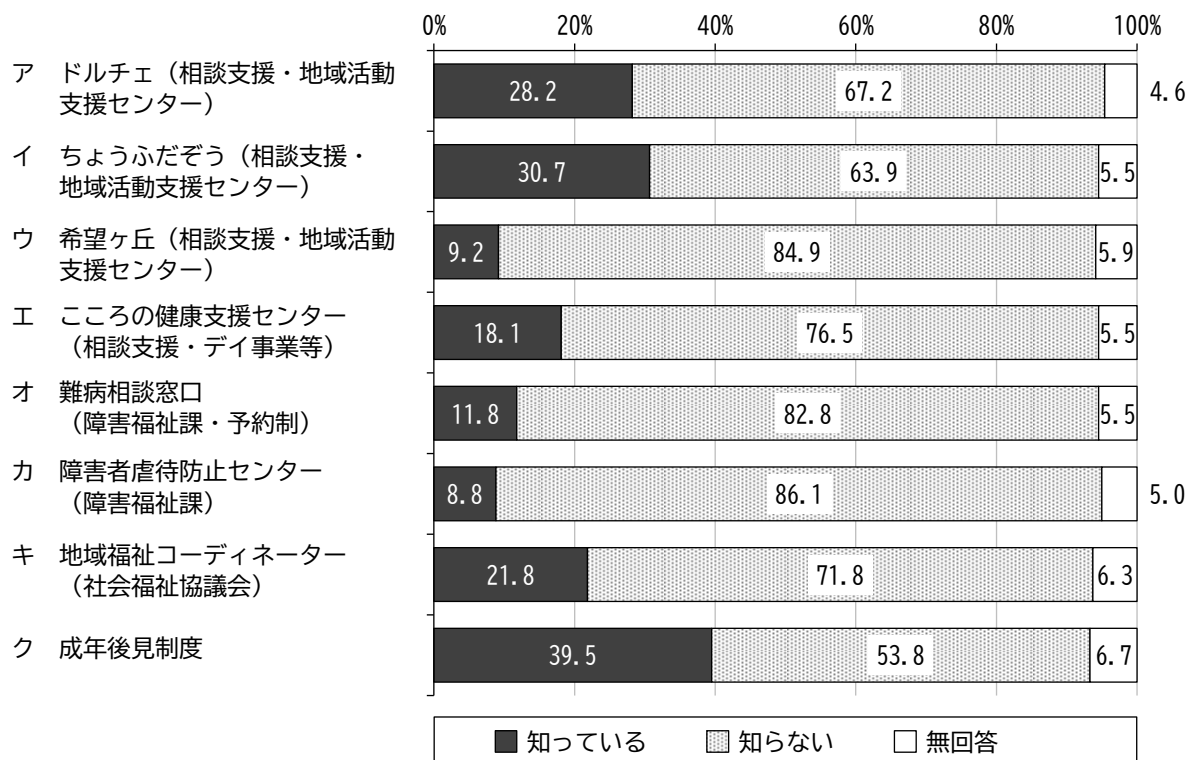
- 高齢になってくると, スマートフォンなどが難しくなってくる。やはりペーパーなど, 冊子なども必要だと思う。(女性, 60 歳代)
- スマートフォン, パソコンの使い方がよくわからない。冊子での情報提供を続けてほしい。(女性, 60 歳代)

8 調布市の障害者福祉施策についておたずねします

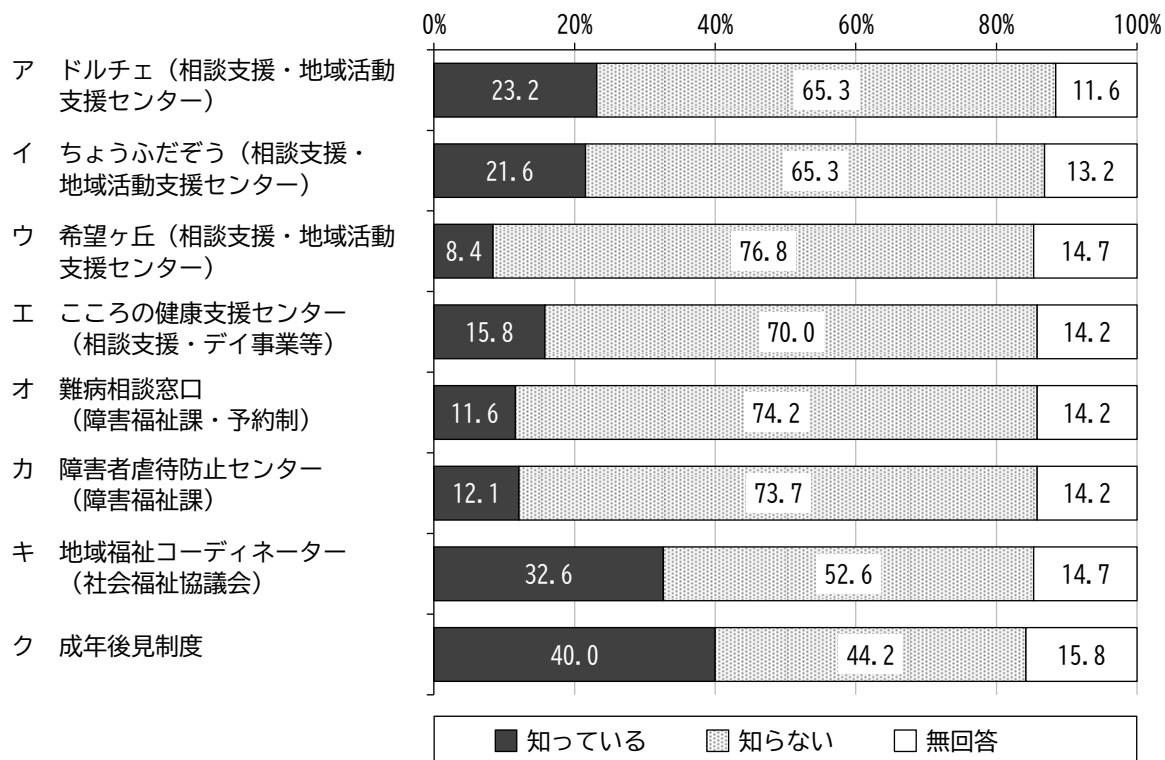
問 37 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 市の相談窓口や制度の認知度について、身体障害（64 歳以下）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が最も多く、〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（30.7%）〕,〔ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）（28.2%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が7割を超えている。
- 身体障害（65 歳以上）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（40.0%）〕が最も多く、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）（32.6%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 知的障害で「知っている」の割合は〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（83.8%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（35.4%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 精神障害で「知っている」の割合は〔エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）（48.0%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 難病で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（47.7%）〕が最も多く、〔オ 難病相談窓口（障害福祉課・予約制）（40.8%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、知的障害において〔ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）〕,〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕,精神障害において〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕,難病において〔ク 成年後見制度〕がいずれも10ポイント以上高くなっている。また、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕はいずれの障害でも割合が高くなっている。

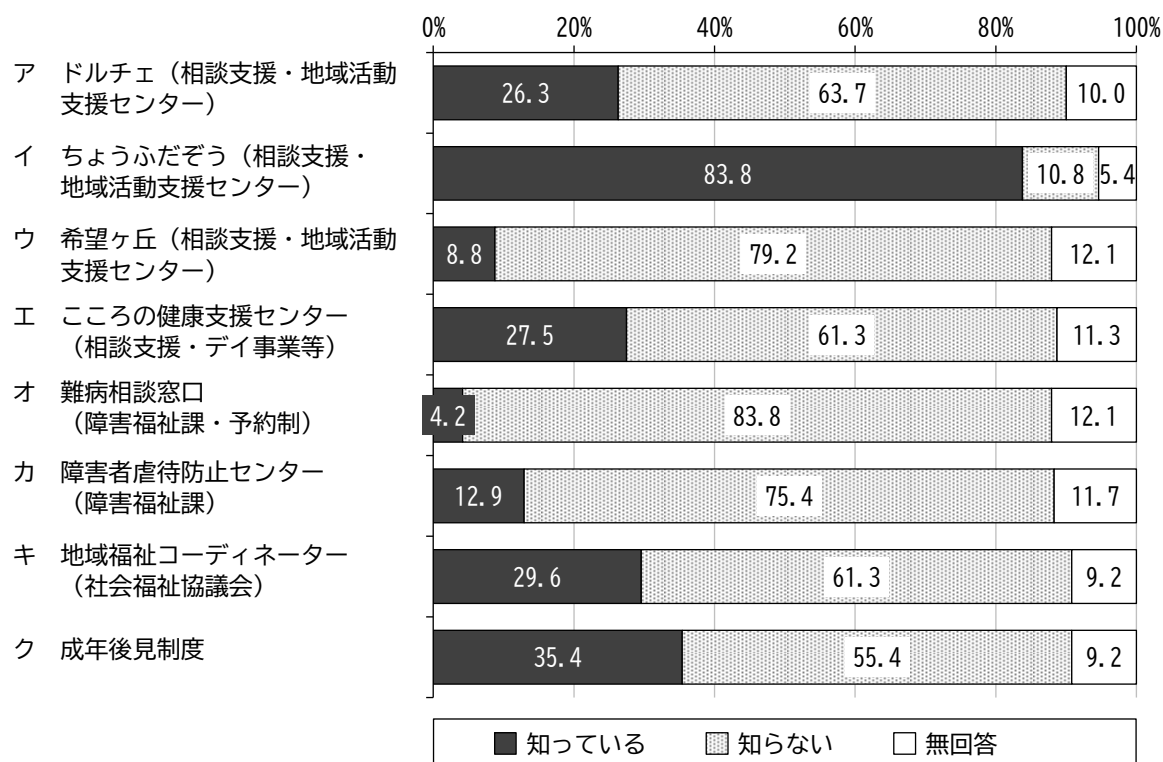
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



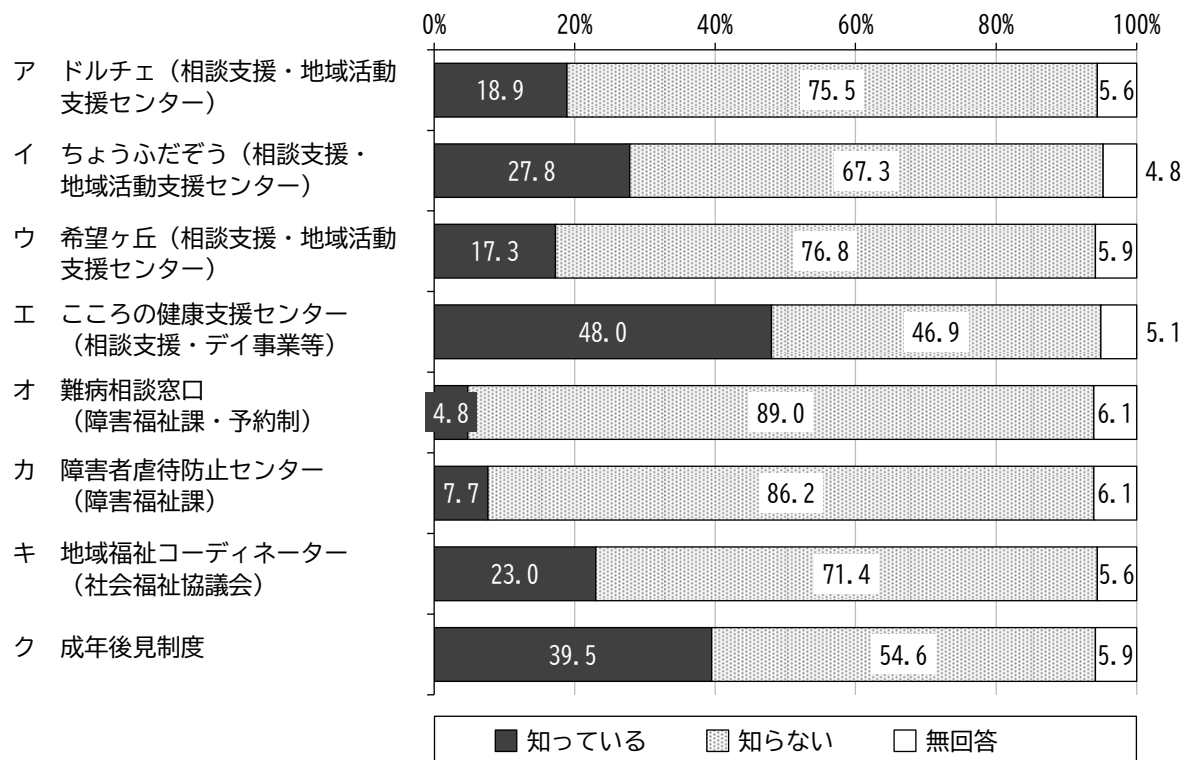
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



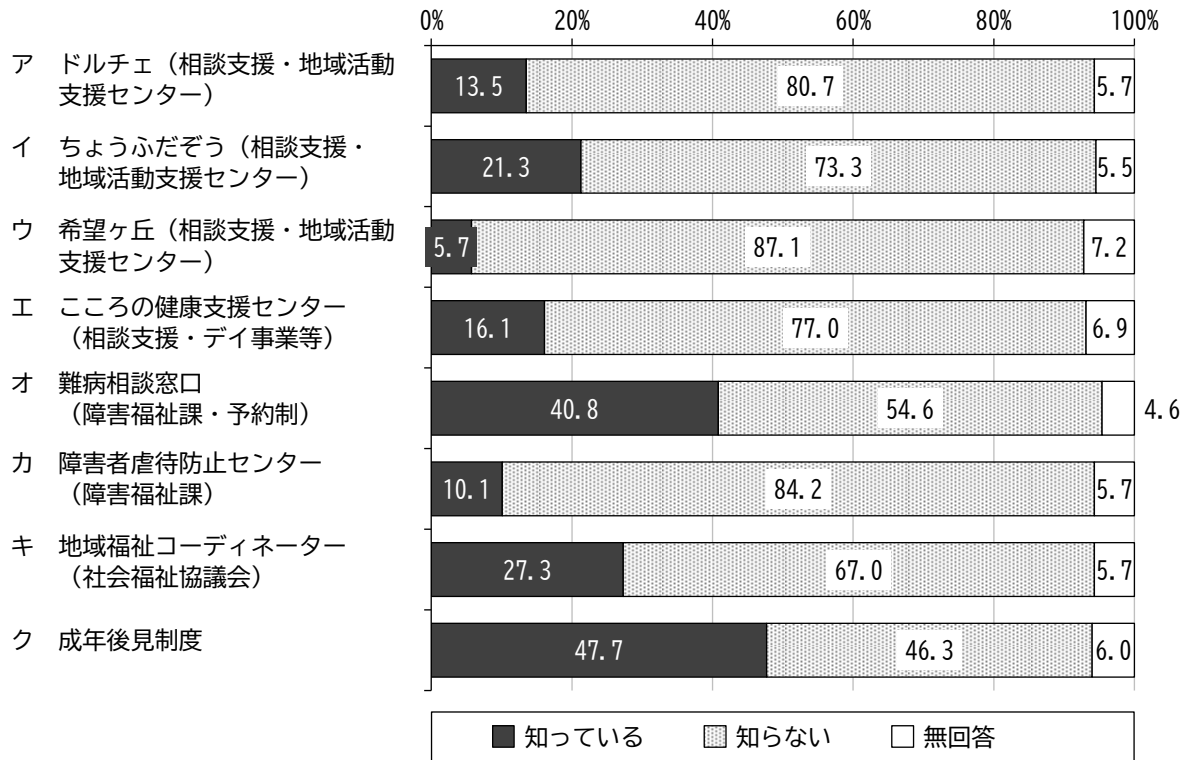
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）



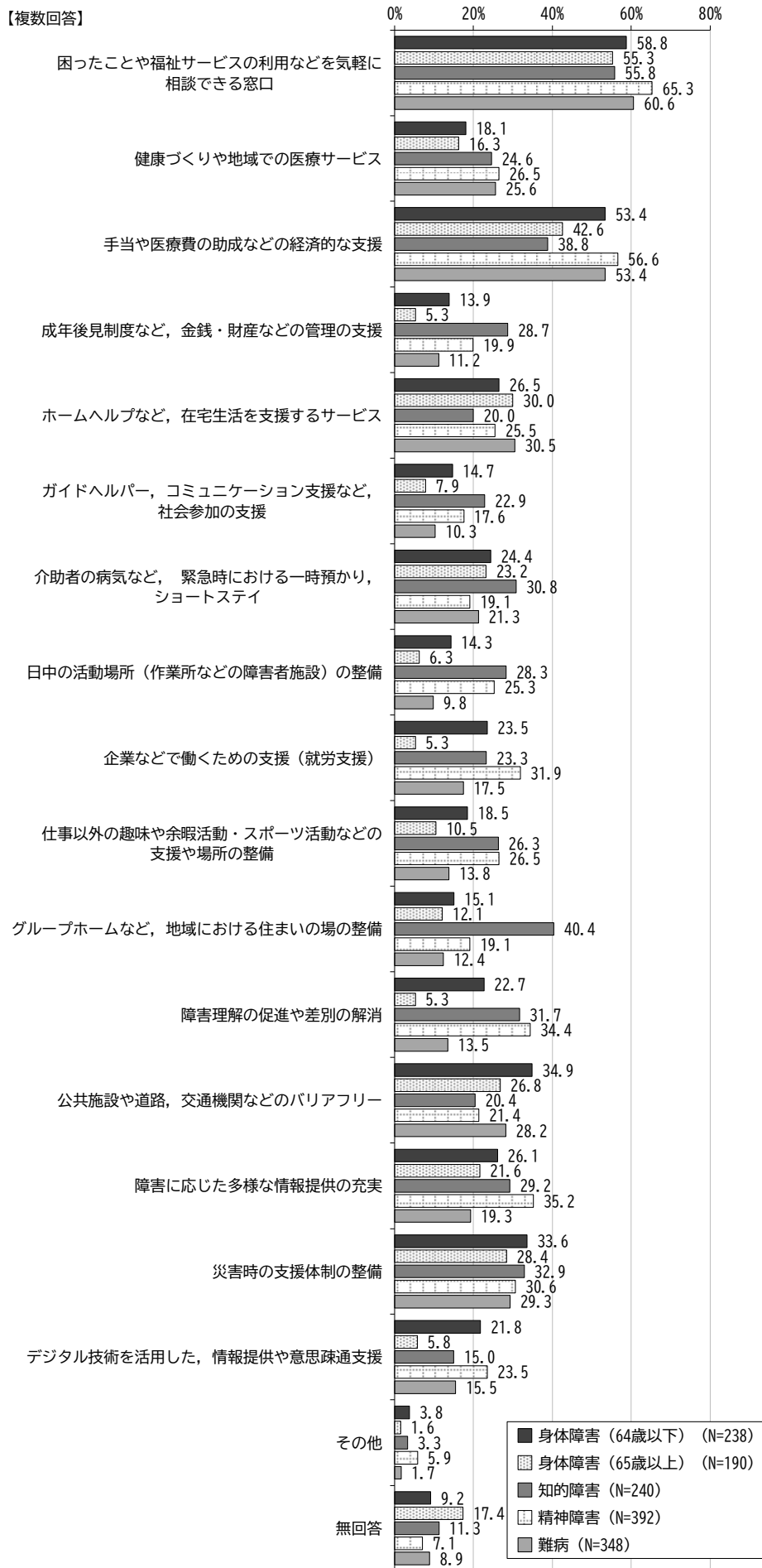
【単数回答】難病（N=348）



上段：「知っている」割合 下段：今回と令和4年度の差 単位：％，ポイント	身体障害（64歳以下）		身体障害（65歳以上）		知的障害		精神障害		難病	
	今回 (N=238)	令和4年度 (N=213)	今回 (N=190)	令和4年度 (N=237)	今回 (N=240)	令和4年度 (N=182)	今回 (N=392)	令和4年度 (N=177)	今回 (N=348)	令和4年度 (N=172)
ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）	28.2	31.9	23.2	15.2	26.3	11.5	18.9	11.9	13.5	7.0
	△ 3.7		8.0		14.8		7.0		6.5	
イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）	30.7	35.7	21.6	13.9	83.8	83.5	27.8	24.3	21.3	16.9
	△ 5.0		7.7		0.3		3.5		4.4	
ウ 希望ヶ丘（相談支援・地域活動支援センター）	9.2	9.9	8.4	7.6	8.8	10.4	17.3	11.9	5.7	4.7
	△ 0.7		0.8		△ 1.6		5.4		1.0	
エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）	18.1	16.0	15.8	16.9	27.5	32.4	48.0	42.4	16.1	18.6
	2.1		△ 1.1		△ 4.9		5.6		△ 2.5	
オ 難病相談窓口（障害福祉課・予約制）	11.8	16.4	11.6	13.5	4.2	6.6	4.8	5.1	40.8	44.2
	△ 4.6		△ 1.9		△ 2.4		△ 0.3		△ 3.4	
カ 障害者虐待防止センター（障害福祉課）	8.8	11.7	12.1	15.2	12.9	17.0	7.7	8.5	10.1	13.4
	△ 2.9		△ 3.1		△ 4.1		△ 0.8		△ 3.3	
キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）	21.8	18.3	32.6	22.8	29.6	17.0	23.0	10.7	27.3	20.9
	3.5		9.8		12.6		12.3		6.4	
ク 成年後見制度	39.5	43.2	40.0	40.1	35.4	33.5	39.5	34.5	47.7	36.0
	△ 3.7		△ 0.1		1.9		5.0		11.7	

問 38 調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」が最も多く、それぞれの割合は 58.8%，55.3%，55.8%，65.3%，60.6%となっている。また、「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病で 5 割を超えている。



問 39 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、429 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会、地域活動の活性化 イ 近所付き合い、支え合い ウ 障害への理解 エ イベント・交流	68
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実 エ 就労等への支援	140
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ バリアフリー化 ウ 防災・防犯の強化	73
取組番号の選択なし		32
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境・環境美化 イ 市の施策 ウ 共生社会の推進	116
合計		429

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会、地域活動の活性化

- 高齢の為に自治会役員が出来ないので自治会を脱退しました。もう少し自治会に入り易い方法を考えれば入会する人も多くなり各町内の自治会も活発化していくのではと思います。（女性，80 歳以上）
- 例えば町内会のイベントに参加したら α ポイント，企画側に参加すれば 3α ポイント付与される。知人をイベントに紹介したら $+\alpha$ ポイント付与されるなどの動機づけが良いかも。近隣との交流を求めていると思いますがそのきっかけがなく“他人”のままになっている。田舎では近所とのつながりがないと生活していけないが，やや都会ではそれが必須ではないから交流しない。（男性，60 歳代）
- 自治会役員が固定化しており，民主的な運営がなされていないため，自治会活動が活性化しない。（男性，40 歳代）

イ 近所付き合い、支え合い

- このような地域での支え合いが実現できるのなら大変嬉しいことです。普段から顔を知り、かけつけてくれるような仕組みを作るのにどうしたらいいか、密に話し合っていくような場が必要だと思います。ボランティアでなく、報酬が受け取れるようにしないと続かないです。(男性、20 歳代)
- 「支え合い」は、助ける側と助けられる側を固定化しがちです。そうではなく、誰もが“助けることも助けられることもある”関係性を前提とした地域づくりが大切だと思います。たとえば、スマートフォンやLINEなどを使って、「ちょっとした困りごとを地域で共有・頼み合える仕組み」(ミニマッチングアプリなど)を市がサポートすれば、孤立防止にもなります。(男性、40 歳代)
- 障害の有無だけではなく、今後、高齢者が増えていく中で、家族だけで介護の問題を抱え込むのではなく、地域でうまく支え合う何かが必要になるように感じます。うまい提案が思いつきませんが、漠然と将来への不安を感じます。(女性、40 歳代)

ウ 障害への理解

- 幼少期からの境界のない社会とのつながりが大切だと思います。学齢期のインクルーシブ教育に人的、物的な支援に力を入れてほしいです。健常、障がい問わず全ての人々(教職員、保護者)にも初めからいろいろな子どもがいることが当然という環境が重要だと思います。実際、我が家では、かなり無理を言って交渉し、通常級の小学校へ行きました。行政側の心配をよそに、いじめられることもなく、危険な目にも合わず過ごすことができました。大人が率先して理解し、子どもたちを大事にする姿を児童・生徒たちは見て育ちます。(女性、20 歳代)
- 障がい者関係のイベント等に活気などが見られない。市民への講演会や学習会などが必要ではないか。(男性、40 歳代)
- 障害者が参加できる場を増やし、社会活動を通して、自然と障害理解が深まるような社会が望ましいと思います。教育によって障害を理解するなどのやり方では、障害者を特別な種類の人間として扱うことになりがちです。そうではなく、多様性を当たり前とする社会の方が自然でバリアフリーな社会だと感じます。(女性、30 歳代)

エ イベント・交流

- 誰でも参加しやすいイベント。(女性、10 歳代)
- 誰でも相談できない。独立になりがち。同じ病気の人達のコミュニティーがあるなら紹介して欲しい。同じ状況にいる人達の情報があれば、様々な情報交換をしてみたい。(男性、50 歳代)
- 障害者の問題にとどまらず、調布市は、一般の市民サークル等をさらに充実させてほしい。また、精神障害者が交流できる機会を増やしてほしい。(男性、50 歳代)

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- オンライン窓口を充実させてください。(男性、30 歳代)
- 申請の仕方が毎年変わって分かりづらい。色々の方をパターン化して必要書類を明確にしてほしいです。(女性、70 歳代)

- 目に見える障害の支援ばかりが充実している。(男性, 20 歳代)
- 親が元気なうちは何とかなっているが, 一人になった時に仕事や生活面で立ち行かなくなることが予想できます。特に軽度知的障害の女性を取り巻く環境はとても厳しいです。そのような時に安心して相談, 支援できるようなサービスを充実させて欲しいです。(女性, 20 歳代)
- 精神障害者にももっと配慮(タクシー券配布など)してほしい。(女性, 50 歳代)

イ サービス等の情報提供

- もっと気軽に相談出来る場所や判りやすいサービスがあると良いと思う。予約や時間の確保が大変。知らないサービスとかもあると思う。知る機会もない。(女性, 40 歳代)
- 市報の内容に, 福祉サービスの事をもう少し情報を詳しく早く伝えてほしい。問い合わせ初めて知るサービスが多いです。事前に知る方法を考えてほしいです。よろしくお願いします。(男性, 60 歳代)
- 市内のサービスだけでなく, 都や国の補助やサービスをわかりやすく一覧表にしてもらえば, 障害者自らそのサービスにアクセスすることもできることがあるかもしれない。経済的負担も減るかもしれない。自分に使えるサービスがあっても知らないことは結構あった。(女性, 50 歳代)

ウ 相談体制の充実

- LINEなどで気軽に文字入力で相談できるようになれば相談する人も増えそうだと思います。(女性, 30 歳代)
- 相談がしにくい状態なので, もっと人手をふやしてほしい。(女性, 80 歳以上)
- 障害者の相談に親身になってくれる窓口, 相談員が必要だと思います。社会福祉法人, 障害福祉課など多々ありますが相談内容によっては聞いているだけで, 問題解決にはならないのが現実です。(男性, 40 歳代)
- 障害福祉課の窓口がいつも混んでいてかなり待つ。長くなりそうな「相談」と書類関係の提出のみの窓口を別にして欲しい。(女性, 20 歳代)
- ワンストップで相談ができる所が欲しい。全てまるっとまとめて相談できたらいいのに。何が困っているのか自分ですらわかっていない事もある。障害がある事を特別な事として扱わないで, 困ってる事を普通に聞いて欲しい。(女性, 50 歳代)

エ 就労等への支援

- 障害者として働くと, 賃金の安さに不安がとてもあります。一人で生活するとなるとかなり苦しいのではないかな? 物価は上昇している現在, 障害者の賃金は低いままでは不安しかありません。(男性, 10 歳代)
- 障がいのために以前のように働けなくて困っている人の相談や具体的な支援をお願いしたい。(女性, 40 歳代)
- こころの健康支援センターを利用したことはあるが, 面談が主であり長期離職から復職をしようとしたときに再就職支援機関としての役割としては心もとない感じを受けている。民間の就職支援サービスを利用しようとするとならず就労移行支援所への通所を確認される故, 調布市内に支援所が少ない点を改善してほしい。(男性, 40 歳代)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 狹隘道路の拡幅を含め、市内のインフラを強化して欲しい。(男性, 30 歳代)
- 歩道の幅が狭く、車椅子の移動が難しい場所があり、やむなく車道を使うことがあり、危険を感じる。駅前に介護タクシーの駐車(駐車場)が無く乗り降りが難しく、不便。(女性, 60 歳代)
- 歩道幅員の拡張(男性, 60 歳代)

イ バリアフリー化

- 一般に歩道の幅員が十分ではない。基本的には道路全体の幅を拡げるべきであろうが時間と費用が掛かる。車道を一方通行化して用地を生み出し歩道を拡げる事も考えて良いのでは?特に旧甲州街道の改善を望む。但し歩道が広くなった場合は自転車の暴走対策が重要。グリーンホールをしばしば利用するがバリアフリーが考慮されていない。特に2階席へのアクセス。建て替えるしかないのかと思うが計画を具体化して欲しい。(男性, 70 歳代)
- 駅のホームにホームドアをつけていただければ、目が見えない人も安心して通勤できると思います。(女性, 30 歳代)
- 駅前などの乗り継ぎ拠点のバリアフリー化は進んでいると思うが、市街地や居住地のユニバーサルサービスはまだ途上。幹線道路の整備を急ぎ、ネットワークとして移動のしやすい空間づくりを進めてほしい。都市防災上も重要なので、急ぐべき。(男性, 60 歳代)

ウ 防災・防犯の強化

- 問 38 で 15 を選択しましたが、災害時避難所の障害者用のスペース、部屋の確保や配慮をして欲しいです。(女性, 50 歳代)
- 災害時の避難場所が不安である。車いすでそこまでたどりつけるか、支援物資があったところで必要なものが手に入るのか(介護食・オムツ等)。心にバリアがある人もない人も同じ空間で同様に避難するのは精神的にきついと思う。(男性, 30 歳代)
- 災害時の対応方法がよくわからない。(障害者向けの案内資料。) 障害者向けの案内冊子を充実してほしい。(女性, 60 歳代)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境・環境美化

- だれでもトイレの増設希望。(男性, 60 歳代)
- バスで主に行動しているが、本数が減ったこと。(女性, 80 歳以上)
- 市内の道路工事の進行が遅過ぎる。(男性, 10 歳代)

イ 市の施策

- 作業所の数が少ないと思ってます。工賃も少ないのでこのようなサービスだけを利用しているのは不安です。当事者同士の交流も有って無いようなものなので孤立する人は多いと思います。楽しく自信が持てる場というのはハードルが高いのかもしれないが一人一人が生きていて良いと思えるような場が入り易い所に有れば救いになる人もいるかもしれないと思います。(女性, 20 歳代)

- 障害者手帳カードタイプを更新する際、申請は3か月前からの受付にも関わらずカードの発行に4か月も掛かってます。手帳の空白期間が出来る事で不利益を受けてます。常識的に考えて申請を前倒しするかカード発行を早めるべきだと思いますが窓口でその旨を伝えても障害者は不利益を受けて当然という対応をされますので是正願います。(女性, 40 歳代)
- 病気により就労できない為に常に経済不安があります。お互いに支え合う事や安心して暮らす為に精神的余裕を持てるように経済的支援をお願い致します。生活に困っている状況では人に優しくする事も他の人を考えて支える余裕が持てません。病気になってから本当に生きて行く事が大変です。(男性, 40 歳代)
- 住み慣れた家でできるだけ長く快適に暮らすために、介助者の負担を減らすための用具等の補助やサービスを充実してほしい。障害者が安全安心に暮らすためには、それを支える周囲の人や環境を整えなければ無理である。(男性, 30 歳代)
- 手続等がスマホやPCに代わり、少し取り残された様に感じます。丁寧なやり方を教えてほしいと思います。(女性, 60 歳代)

ウ 共生社会の推進

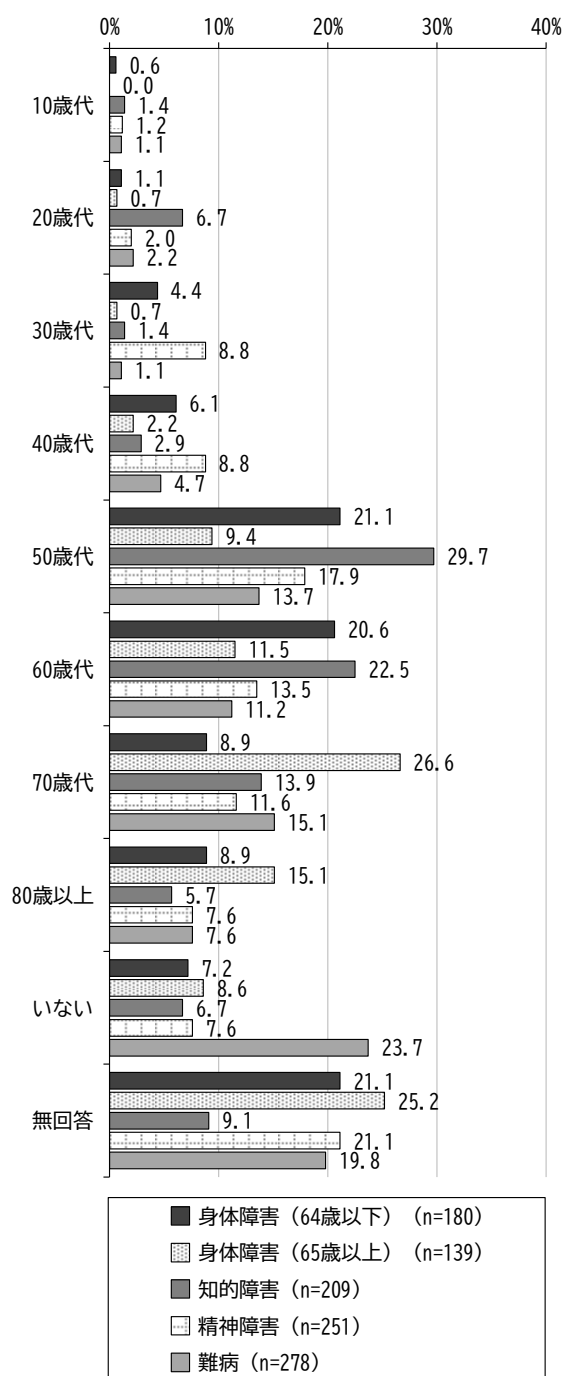
- 親亡き後の住まい、暮らしに重点を置いて欲しいです。既存のグループホームでは限界があります。プライバシーが守られ、尚且つ暮らしや健康が守られる新しい仕組みが必要です。サテライト型のグループホームをもう少し変化させながら、グループホームを出ていかなくてすむように障害者個人個人に合わせた住まいが必要です。(男性, 20 歳代)
- 作業所の製品を調布パルコ、「ふくしの窓」で見たりふれたりする機会がありますが、もっと作業所の存在を市民の方々に知っていただけたらと思います。(女性, 20 歳代)
- もっと心のバリアフリー、ユニバーサルデザインが世の中に広がってどんな立場の人でも生きやすい社会になってほしいです。(女性, 40 歳代)

9 ご家族におたずねします

問 40 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。主に介助や支援をしている人の年齢を教えてください。（1つに○）

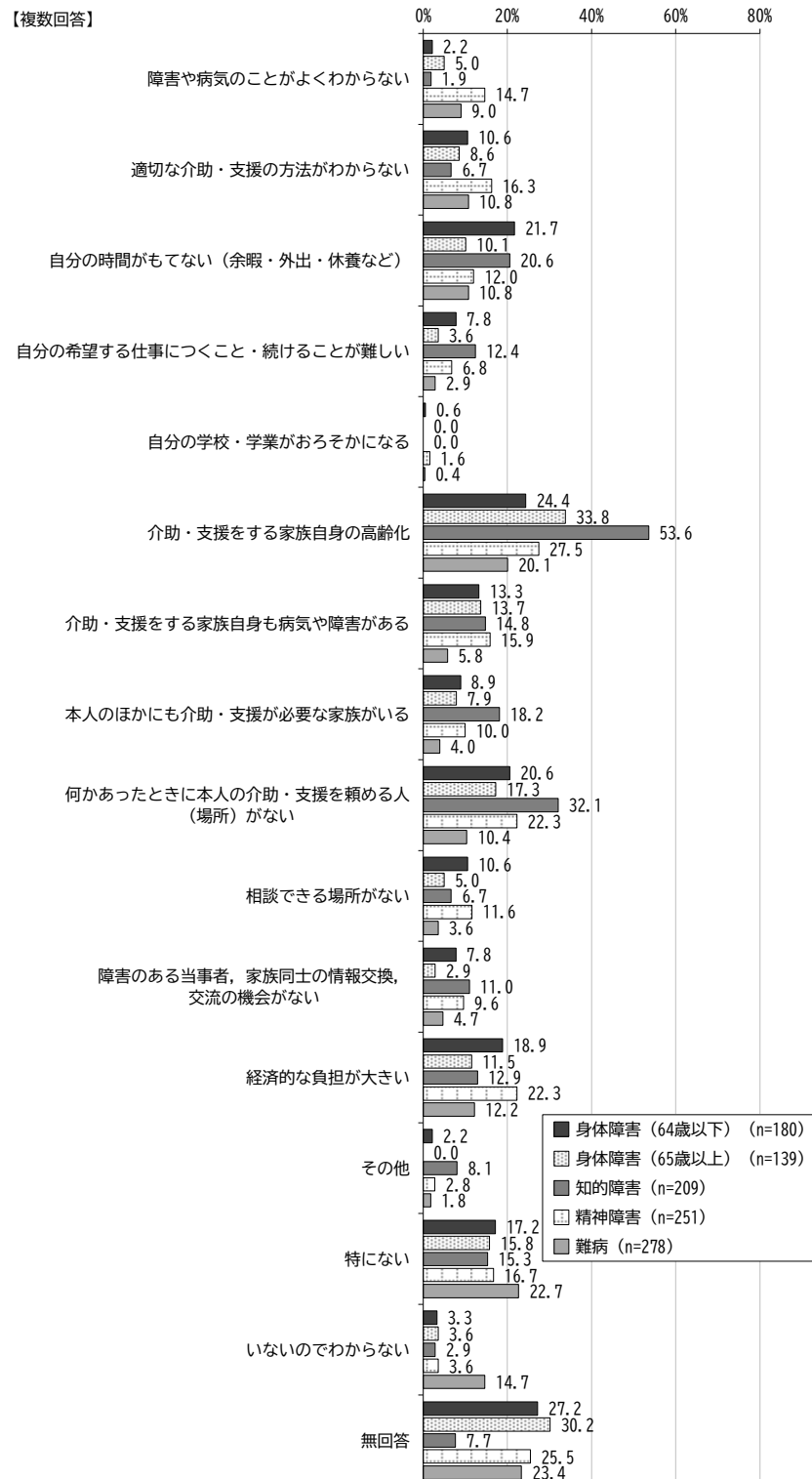
- 主に介助や支援をしている人の年齢は、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害は「50歳代」が最も多く、それぞれの割合は21.1%，29.7%，17.9%となっている。
- 身体障害（65歳以上）は「70歳代（26.6%）」，難病は「いない（23.7%）」が最も多くなっている。

【単数回答】



問 41 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

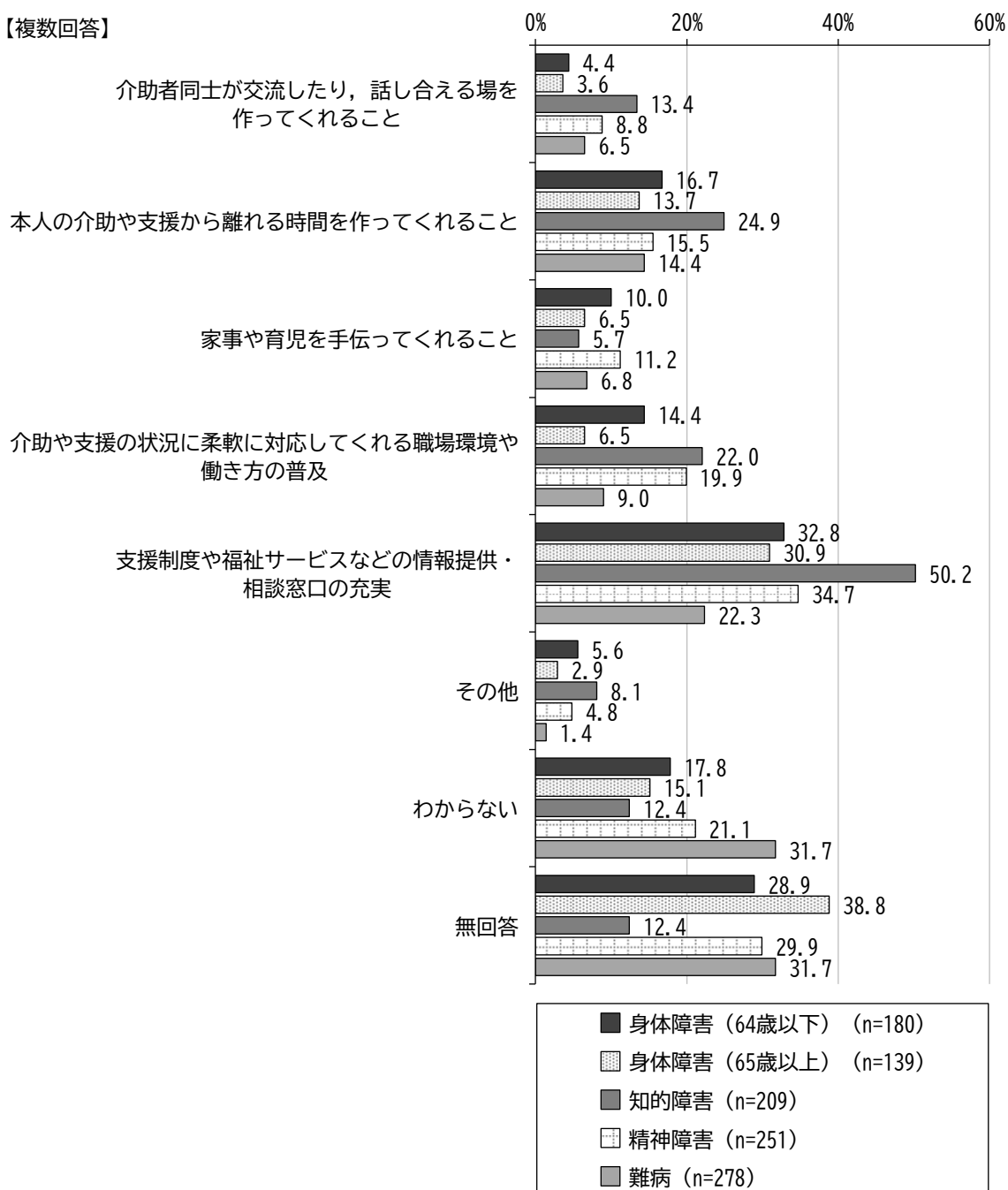
- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害は「介助・支援をする家族自身の高齢化」が最も多く、それぞれの割合は 24.4%，33.8%，53.6%，27.5%となっている。
- 難病は「特にない（22.7%）」が最も多くなっている。
- また、知的障害では「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が3割を超えている。



問 42 ご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

- 介助する人への支援として力を入れてほしいことは、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多く、それぞれの割合は 32.8%、30.9%、50.2%、34.7%となっている。
- 難病は「わからない（31.7%）」が最も多くなっている。

【複数回答】



※「わからない」は今回調査のみの選択肢

【複数回答】 令和4年度

